

公表日 平成23年9月1日
最新更新日 平成23年9月1日

授業計画

平成23年度

Syllabus 2011

健康科学部 看護学科

専門教育科目

教職に関する科目

健康科学部

看護学科

専門教育科目
教職に関する科目

教育目標

教育理念・目的

人の尊厳を基盤とした豊かな人間性を培い、看護専門職者としての知識と技術を修得し、多様化する社会の中で生活する人びとの健康・福祉に貢献することをめざす。さらに、国際社会で貢献できる能力を備えた人材を育成する。

教育目標

1. 豊かな感性と人間性を育み、幅広い視点で人とその生活について理解するとともに、命の尊厳と人間尊重について考え、実践することができる基礎的能力を養う。
2. 多様な価値観を持つ人びとや自分と世代・立場の異なる人びとを理解し、ケアに必要な協働関係を形成できる基礎的能力を養う。
3. 成長発達段階や健康レベルにおける健康課題を持つ人びとに対して、科学的根拠に基づいた看護実践能力を養う。
4. 保健・医療・福祉ケアにおけるリーダーシップとマネジメント能力を養う。
5. 保健・医療・福祉の領域において、多様な職種と協働して人びとの健康レベルの向上に貢献できる基礎的能力を養う。
6. 国際的な視野をもち人びとの健康に対し、実践を通して貢献できる基礎的能力を養う。
7. 将来において、看護実践・教育・研究を担い、その発展に貢献できる基礎的能力を養う。

平成 23 年度 (2011 年度) 入学者

卒業要件単位数

科目区分		卒業必要単位	内必修単位と科目数	
基礎・教養科目		26 単位	12 単位	6 科目
専門教育科目	専門基礎科目	22 単位	22 単位	9 科目
	専門実践科目	68 単位	68 単位	37 科目
	統合科目	6 単位	6 単位	3 科目
	関連科目	—	—	—
	基礎科目	2 単位	2 単位	1 科目
合 計		124 単位	110 単位	56 科目

カリキュラム年次配当表

看護学科 平成23年度（2011年度）入学者対象
 （ ）は兼担、[]は兼任講師

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		看護師	保健師	養護 教諭 一種	学年配当(数字は週当り授業時間)								平成23年度の 担当者	ページ
			必修	選択				1年		2年		3年		4年			
								I	II	I	II	I	II	I	II		
専 門 基 礎 科 目	I群 (健康支援と社会 保障制度)	社会福祉論	講義	2				2							(桐石 梢)	6	
		家族関係論	講義	2					2								
		精神保健	講義	2				○	2							[南川 博康]	7
		環境衛生学	講義	2				○			2						
		保健福祉行政論	講義	2		◇	□				2						
		公衆衛生学(疫学含)	講義	2		◇	□	○			2						
		保健統計学	講義	2		◇	□	○			2						
	II群 (人体の構造と機能)	基礎生物学	講義	2					2							本多 久夫	8
		形態機能論	講義	4		◇	□	○	4							I期:庄 達夫、II期:未定	9, 10
		生化学	講義	2					2							[吉田 千秋]	11
		栄養学(食品学を含む)	講義	2					2							(増村 美佐子)	12
		薬理学	講義	2		◇	□	○		2							
		免疫・微生物学	講義	2		◇	□	○		2						[田邊 誠]	13
	III群 (疾病の促進 及び回復の成立)	臨床病理病態学Ⅰ(内科系)	講義	4		◇	□				4						
		臨床病理病態学Ⅱ(外科系)	講義	2		◇	□				2						
		臨床病理病態学Ⅲ(周産期・小児科系)	講義	2		◇	□				2						
	IV群 (基礎看護学)	看護学概論	講義	2		◇	□	○	2							道廣 睦子・小林 廣美	14
		看護理論	講義	1		◇	□	○	1							道廣 睦子	15
		ヘルスアセスメント	講演	1		◇	□	○	2							小林・道廣・森崎・竹内	16
		看護技術論Ⅰ(生活技術援助)	講演	2		◇	□	○		4							
		看護技術論Ⅱ(診療技術援助)	講演	2		◇	□	○			4						
基礎看護学実習Ⅰ		実習	1		◇	□	○	3							道廣・小林・森崎・竹内	17	
基礎看護学実習Ⅱ		実習	2		◇	□	○		6								
看護教育学		講義	1		◇	□					1						
看護管理学		講義	1		◇	□					1						
V群 (成人・老年看護学)		成人看護学概論	講義	2		◇	□	○			2						
	成人看護援助論Ⅰ(生命危機状態にある人)	講義	2		◇	□	○				2						
	成人看護援助論Ⅱ(常態の維持・増進が困難な人)	講義	2		◇	□	○				2						
	成人看護学実習Ⅰ	実習	3		◇	□						9					
	成人看護学実習Ⅱ	実習	3		◇	□							9				
	老年看護学概論	講義	2		◇	□				2							
	老年看護援助論	講義	2		◇	□					2						
	老年看護学実習Ⅰ	実習	2		◇	□						6					
	老年看護学実習Ⅱ	実習	2		◇	□							6				
	VI群 (母性・小児看護学)	母性看護学概論	講義	2		◇	□	○			2						
母性看護援助論		講演	2		◇	□	○				4						
母性看護学実習		実習	2		◇	□						6					
小児看護学概論		講義	2		◇	□	○			2							
小児看護援助論		講演	2		◇	□	○				4						
小児看護学実習		実習	2		◇	□	○						6				

カリキュラム年次配当表

看護学科 平成23年度（2011年度）入学者対象
 （ ）は兼任、[]は兼任講師

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		看護師	保健師	養護教諭一種	学年配当(数字は週当たり授業時間)								平成23年度の担当者	ページ	
								1年		2年		3年		4年				
								I	II	I	II	I	II	I	II			
専門実践科目	VII群(精神・在宅看護学)	精神看護学概論	講義	2	◇	□	○				2							
		精神看護援助論	講義	2	◇	□	○					2						
		精神看護学実習	実習	2	◇	□	○							6				
		在宅看護概論	講義	2	◇	□					2							
		在宅看護援助論	講義	2	◇	□						2						
		在宅看護実習	実習	2	◇	□								6				
		地域看護学概論	講義	2	◇	□					2							
		地域看護活動論	講義	2	◇	□						2						
		産業保健論	講義	1	◇	□						1						
		学校保健概論	講義	1	◇	□	○				1							
		国際看護学	講義	1	◇	□									1			
		災害看護学	講義	1	◇	□									1			
		地域看護学実習	実習	3	◇	□									9			
育統科	VII群(看護の統合と実践)	看護研究Ⅰ(基礎編)	演習	2	◇	□					2							
		看護研究Ⅱ(応用編)	演習	2	◇	□								2				
		リスクマネジメント論	講義	1								1						
		看護の統合と実践実習	実習	2	◇	□								6				
関連科目	IX群(関連)	学校保健活動論	講義	2			○					2						
		学校保健演習	演習	2			○						2					
		養護概説	講義	2			○				2							
		健康相談活動の理論と実践	講義	2			○						2					
基礎科目	X群(基礎)	基礎ゼミ	演習	2			○	2								*1	18	

◇は看護師国家試験受験資格必修科目、◆は看護師国家試験受験資格選択科目(14単位以上必要)

□は保健師国家試験受験資格必修科目

○は養護教諭免許必修科目、●は養護教諭免許選択科目

*1 若井・道廣・加藤・式・坂上・川上・芝田・齋藤・小林・秦・山下・池田・眞野・久井・高橋・大植・森崎・竹内・杉原

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		看護師	保健師	養護教諭一種	学年配当(数字は週当たり授業時間)								平成23年度の担当者	ページ	
								1年		2年		3年		4年				
								I	II	I	II	I	II	I	II			
教職に関する科目	教職概論	講義	2				○	2									[上寺 常和]	19
	教育原理	講義	2				○	2									(廣岡 義之)	20
	教育心理学	講義	2				○		2								(廣岡 義之)	21
	教育制度論	講義	2				○	2										
	教育課程論(道徳、特別活動を含む)	講義	2				○		2									
	教育方法・技術論	講義	2				○		2									
	生徒指導論(進路指導を含む)	講義	2				○		2									
	教育相談(カウンセリングを含む)	講義	2				○	2									(琴浦 志津)	22
	教職実践演習(養護教諭)	演習	2				○							2				
	養護実習(事前事後指導を含む)	実習	5				○							5				

○は養護教諭免許必修科目、●は養護教諭免許選択科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法(2単位)、体育(2単位)、外国語コミュニケーション(2単位)、情報機器の操作(2単位)について、指定の科目を修得すること。

《I群（健康支援と社会保障制度）》

科目名	社会福祉論				
担当者名	桐石 梢				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

社会福祉は人間の尊厳が守られる社会をデザインしそれを実行することである。いまの現代社会においてすべての人が人間らしい日常生活が送られているだろうか？ 貧困や差別や虐待など、さまざまな生活の課題は福祉だけで解決できるものではなく、人間の生涯発達から考えても、医療からの問題も考えねばならない。医療者の一人である看護師も生活に密着した福祉の問題を、身体的・精神的・社会的な観点から見て、医療職・介護職・福祉職と連携しながら、困難な諸問題に共に解決に向けて実践のできる人間になれることを目指す。

《授業の到達目標》

自分たちの生活に密着した社会福祉の問題を取り上げ、解決策を考えてゆけることを目指す。

《テキスト》

新・社会福祉とは何か？ 中央法規出版 2010年 大久保秀子著 1575円

《参考文献》

『社会保障入門』（中央法規出版）『国民の福祉の動向』（厚生統計協会）『社会福祉概論』（中央法規出版）

《成績評価の方法》

定期試験 50% グループワークでの発表態度 50%

《授業時間外学習》

授業の都度、次回のテーマを出すので予習をしてくること。

《備考》

さまざまな生活問題と社会福祉について、医療・看護の問題も含めて広い視野から学ぶこと現場の事例を取り上げて、グループワークを主体とした授業をする。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	現代の社会福祉の理念
第 3 週	社会福祉の歴史
第 4 週	高齢者と福祉 (介護問題・老々介護・少子超高齢社会のなかでの問題)
第 5 週	高齢者と福祉 (虐待 孤独死 貧困・低所得問題)
第 6 週	高齢者と福祉 (認知症の問題 介護保険法 医療保険法 自立支援法)
第 7 週	高齢者と福祉と法制度 (生活保護法 セーフティーネット)
第 8 週	児童と福祉 (格差社会 貧困と虐待 教育問題)
第 9 週	子どもと福祉 (日本と外国との法制度の比較から考える)
第 10 週	精神障害者と福祉 (心を病んでいる人の増加と社会の問題を考える)
第 11 週	身体障害者と福祉
第 12 週	発達・知的障害者と福祉
第 13 週	福祉現場でのかかわり (利用者とのかかわりについて取り上げる)
第 14 週	地域ネットワークやボランティア (公的な制度・サービス以外の利用)
第 15 週	まとめと発表

《Ⅰ群（健康支援と社会保障制度）》

科目名	精神保健				
担当者名	南川 博康				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

心の健康・心の問題について正しく理解し、専門的知識を実践で活かすことはさまざまな分野において必須となる。最初に、精神保健の意義や歴史について学ぶ。またその対象である人の心の構造と機能を生物学的観点から科学的に学ぶ。次に、心の病的状態について精神医学的観点から学習する。精神症候学により精神科特有の精神症候を理解し、各論では代表的な精神疾患の病態・治療の概要を学ぶ。また、心の健康の保持・増進の基本的理念を正しく認識し、社会において必要な精神保健活動や精神保健福祉の制度について理解を深める。

《授業の到達目標》

精神保健の基本理念と社会における実践・福祉について理解し、説明することができる。

《テキスト》

『精神看護学Ⅰ精神保健学』 吉松和哉他編 スーヴェルヒロカワ

《参考文献》

精神保健学 精神福祉士養成講座編集委員会編（中央法規）
 国民衛生の動向 厚生統計協会編（厚生統計協会）
 我が国の精神保健福祉 精神保健福祉ハンドブック 精神保健福祉研究会監修（太陽美術）
 世界の精神保健医療 新福尚隆ほか著（へるす出版）

《成績評価の方法》

筆記試験 70%、平常評価 30%（小テスト、レポート、出席状況、受講態度など）により総合的に評価する。

《授業時間外学習》

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等をノートに整理して理解しておくこと。

《備考》

精神保健学は心の健康増進や維持に関わる広範な学問であり、医療関係者だけでなく、専門外の全ての人々が知っておくことが望ましい。とくに将来メンタルヘルスに関わる職業につく場合は必須であるので、是非受講してほしい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	精神保健の基礎知識： 1)精神保健とは 2)精神保健医療の歴史 3)精神保健の意義と課題
第 2 週	ライフサイクルにおける精神保健： 1)胎児期・乳幼児期における精神保健 2)学童期における精神保健 3)思春期における精神保健 4)青年期における精神保健 5)成人期における精神保健 6)老年期における精神保健
第 3 週	精神疾患の基礎知識Ⅰ： 1)脳の構造と神経活動のメカニズム 2)脳の機能と精神活動
第 4 週	精神疾患の基礎知識Ⅱ： 精神症候学の概要
第 5 週	精神疾患の基礎知識Ⅲ： 代表的な精神疾患の概要
第 6 週	精神疾患の基礎知識Ⅳ： 代表的な精神疾患の治療の概要
第 7 週	精神保健における個別課題への取り組みⅠ： 1)精神障害者対策 2)認知症対策
第 8 週	精神保健における個別課題への取り組みⅡ： 1)アルコール関連問題対策 2)薬物乱用防止対策
第 9 週	精神保健における個別課題への取り組みⅢ： 1)思春期の精神保健対策 2)地域精神保健対策 3)ターミナルケアと精神保健
第 10 週	精神保健活動の実践Ⅰ： 1)家庭における精神保健 2)学校における精神保健
第 11 週	精神保健活動の実践Ⅱ： 1)職場における精神保健 2)地域における精神保健
第 12 週	地域精神保健と地域保健Ⅰ： 1)地域精神保健施策の概要 2)地域保健施策の概要
第 13 週	地域精神保健と地域保健Ⅱ： 1)関係法規 2)関連施策
第 14 週	諸外国における精神保健： 1)アメリカの地域精神保健 2) イギリスの地域精神保健 3) フランスの地域精神保健 4)諸外国における職場の精神保健
第 15 週	精神保健の総括

《Ⅱ群（人体の構造と機能）》

科目名	基礎生物学				
担当者名	本多 久夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

概要の全体は下の<<授業計画>>に示す。ポイントとなることを幾つか挙げる。

- ◆身体の構造はとても複雑で多くの学生が学ぶのを敬遠する。しかし身体全体は袋でできていて、基本は袋であることを常に頭に入れておくと、身体の構造が明解に把握できるようになる。
- ◆身体は、袋はもちろん他のすべてのものも細胞と細胞が合成した物質からできている。細胞によってすべてが説明できるはずである。常に細胞を意識する思考を身につける。
- ◆細胞の性質や能力は遺伝子がきめている。現在は遺伝子の時代だと言われているが、遺伝子を過大評価でなく正当に評価するには、細胞の働きを知る必要がある。
- ◆生物の一番の特徴は自分と似た子をつくること（自己増殖）である。ここに設計図（遺伝子の集まり）が働いているところが重要。自己増殖に先立ち、子をつくるための設計図が複製され、この設計図に基づいて子ができる。

《授業の到達目標》

看護はヒトの病気や健康に関わる仕事だから、身体の仕組みや構造についての知識が必須である。この知識は膨大で学習するのが大変である。しかし基礎生物学を学んで、ヒトは生物の一員であることを自覚し、ヒトについて学んだ知識を生物全体のなかで位置づけるとよい。別々の知識がお互いに関連し、学習がはかどり、学んだ事柄の記憶が長持ちする。

《テキスト》

なし。

ノートをつくること。図表を主とした資料を項目毎に配布する。これを切り抜き貼りつけながら手書きのノートをつくること。

《参考文献》

『シートからの身体づくり』 本多久夫著(中公新書・中央公論社) 図書館にある。

『細胞の分子生物学』 アルバーツ他著(ニュートンプレス社)。

『パターン発生学』 カールソン著[白井敏雄監訳](西村書店)。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト(8/10)、レポート提出(2/10)。全回出席が原則。

《授業時間外学習》

授業中にうつつむいてノートばかりとらないこと。いつも話している者の顔を見て聴くように。ノートにはメモとして手早く、スペースを十分に空けながら書き、授業がおわってから、配布したプリントを切り抜きノートに貼り付け、補足を書き入れ自分のオリジナルのノートをつくること。

《備考》

授業には出てくること。この講義内容をまとめた手軽な教科書はない。

授業をおもしろく聴く方法は、授業に白紙の状態では出て来ないことである。かねがね疑問に思うこと、問いたいこと、自分の考えなどを用意して授業に臨むこと。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	I. 身体は閉じた袋からできている 身体の外と内の区別は徹底している
第 2 週	上皮シートの変形による器官の形成(消化管・神経管・眼) もう一つの上皮シート系(血管系)
第 3 週	2つのシート系の接近(肺・腎臓・肝臓) 身体にみられる階層構造
第 4 週	II. 細胞(Cell)は途切れのない細胞膜で完全に包まれている
第 5 週	細胞分裂(自分と同じものをつくる) 細胞分化は遺伝子発現の変化による
第 6 週	シグナル伝達・リセプター・なだれ現象 細胞の動き、細胞死
第 7 週	III. 組織(Tissue)は細胞の集まりである 上皮組織-袋を構成する細胞から成る 結合組織-細胞外マトリックスをもつ組織
第 8 週	筋肉組織の働き
第 9 週	血管系の形成 細胞がひとりだけで組織化する仕組み(細胞選別・細胞分化のラテラル抑制)
第 10 週	IV. 細胞間の通信による調節および恒常性 内分泌系(ホルモン)
第 11 週	パラクライン系(サイトカイン) 制御(ポジティブフィードバック・ネガティブフィードバック)
第 12 週	V. 脳・神経系 神経繊維は細胞である
第 13 週	神経伝達 神経系ネットワーク
第 14 週	VI. 免疫系 病原体からの感染の防御 T細胞・B細胞(抗体を産生する)
第 15 週	自他の区別・未知の物に結合する仕組み

《Ⅱ群（人体の構造と機能）》

科目名	形態機能論				
担当者名	庄 達夫				
授業方法	講義	単位・必選	4・必	開講年次・開講期	1年・I期分

《授業のねらい及び概要》

骨 筋肉系、神経系、感覚系、消化器系、循環器系、呼吸器系、免疫系、泌尿器系、血液、内分泌系、生殖系などの形態と機能を学ぶ。

《授業の到達目標》

1. 解剖生理学を学ぶための基礎知識が理解できる。
キーワード：人体の細胞・組織・器官・ATP合成・DNA・染色体・退役・ホメオスタシス・体液・人体の方向を示す基準面
2. 栄養の消化と吸収：細胞の生命は、栄養素を分解し得られたエネルギーによって維持されているが、そのための栄養素はどのように確保されるか理解できる。
3. 呼吸と血液の働き：栄養素の分解に必要な酸素はどのように確保され、人体にどのように分配されるのか理解できる。
4. 血液の循環と調節について理解できる。
5. 体液の調節と尿の生成：細胞の生命維持にとって不可欠な体液の量と組成の安定性、すなわち内部環境の恒常性はどのように達成されているか理解できる。

《テキスト》

・系統看護学講座、人体の構造と機能、解剖生理学、医学書院

《参考文献》

「好きになる解剖学 (Part2)」竹内修二
「説いて覚える看護学生の為の解剖生理学ドリル」安谷屋 均著

《成績評価の方法》

ペーパーテスト100%

《授業時間外学習》

- ・上記テキストの学習予定ページを前日までに予め読む。時間があるときは17号館の資料室の人体の模型に親しむ。
- ・教科書の指定箇所を読み、専門用語の意味をノートに整理し理解しておくこと。

《備考》

- ・I期の試験日に前期履修範囲の試験を行う。II期終了時の試験結果と合わせて評価を行う。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	総論：解剖と生理について
第2週	総論：解剖と生理について
第3週	栄養の消化と吸収1
第4週	栄養の消化と吸収1
第5週	栄養の消化と吸収2
第6週	栄養の消化と吸収2
第7週	呼吸と循環1
第8週	呼吸と循環1
第9週	呼吸と循環2
第10週	呼吸と循環2
第11週	体液の調節と尿の生成1
第12週	体液の調節と尿の生成1
第13週	体液の調節と尿の生成2
第14週	体液の調節と尿の生成2
第15週	まとめ

《Ⅱ群（人体の構造と機能）》

科目名	形態機能論				
担当者名	未定				
授業方法	講義	単位・必選	4・必	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期分

《授業のねらい及び概要》

骨 筋肉系、神経系、感覚系、消化器系、循環器系、呼吸器系、免疫系、泌尿器系、血液、内分泌系、生殖系などの形態と機能を学ぶ。

《授業の到達目標》

1. 内臓機能の調節（自律神経系、内分泌系）：生命を維持するためにどのように調節されているのか理解できる
2. 体の支持と運動（骨格系、筋系）：骨格筋は神経系からの指示によってどのように収縮するのか、骨格と筋は全身にどのように配置され、どのように運動を行うのか理解できる。
3. 情報の受容と処理（神経系、感覚器系）神経系の細胞の扱う情報、すなわち細胞膜の興奮とはどのような現象であり、他の細胞にどのように伝えられるのか、また、中枢神経に集まった情報がどのように処理され、末梢神経を通してどこに伝えられ、また感覚器によってどのような情報を集めるのか理解できる。
4. 性殖・発生と老化のしくみについて理解できる。

《テキスト》

・系統看護学講座、人体の構造と機能、解剖生理学、医学書院

《参考文献》

「好きになる解剖学（Part2）」竹内修二

「説いて覚える看護学生の為の解剖生理学ドリル」安谷屋 均著

《成績評価の方法》

ペーパーテスト100%

《授業時間外学習》

- ・上記テキストの学習予定ページを前日までに予め読む。時間があるときは17号館の資料室の人体の模型に親しむ。
- ・教科書の指定箇所を読み、専門用語の意味をノートに整理し理解しておくこと。

《備考》

- ・Ⅱ期の試験日に後期履修範囲の試験を行う。Ⅰ期終了時の試験結果と合わせて評価を行う。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	内臓機能の調節 1
第 2 週	内臓機能の調節 1
第 3 週	内臓機能の調節 2
第 4 週	内臓機能の調節 2
第 5 週	身体の支持と運動 1
第 6 週	身体の支持と運動 1
第 7 週	身体の支持と運動 2
第 8 週	身体の支持と運動 2
第 9 週	情報の受容と処理 1
第 10 週	情報の受容と処理 1
第 11 週	情報の受容と処理 2
第 12 週	情報の受容と処理 2
第 13 週	性殖と発生
第 14 週	性殖と発生
第 15 週	まとめ

《Ⅱ群（人体の構造と機能）》

科目名	生化学				
担当者名	吉田 千秋				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

生化学はアルコール発酵の研究に端を発した学問であり、物質代謝、エネルギー代謝の解明につづいて遺伝子 DNA のはたらきの解明へと発展した。生化学は解剖生理学とつながり、人体の構造と機能を理解する上で必須の教科である。本講では分子、細胞および組織のレベルでこれまでに得られた知識を習得することにより正常な生命の維持、疾患についての理解を深めることを目標とする。

《授業の到達目標》

生命の営みを理解するには生体を構成する物質の構造と機能についての知識を習得することが大切である。本講ではまず体を構成するタンパク質、脂質、ミネラルおよび糖質について、つづいて円滑な代謝に関わる酵素、ビタミンとホルモンについて、最後に生命の本質である遺伝子について構造と機能を概説し疾病に関する理解を深める。

《テキスト》

『系統看護学講座 専門基礎 (2) 人体の構造と機能 (2) 生化学』 三輪一智・中恵一著 (医学書院)

《参考文献》

『THE CELL』 中村桂子・藤山秋佐夫・松原謙一監訳 (KYOIKUSYA)

《成績評価の方法》

出席率 20、 受講態度 20、 小テスト 10、 定期試験 50

《授業時間外学習》

・テキストの内容がかなりくわしく、豊富ですのでより一層理解を深めていただくためには予習が必要と思います。シラバス通りに講義を進めますがもし変更がありましたら予告しますのでテキストに目を通すように心掛けて下さい。講義終了後必要により補講時間を設けますので利用して下さい。

《備考》

- ・私語は他の学生の勉学の妨げになりますので、厳しく対応します。理解できなかった部分は授業中または終わってから質問するなど積極性をもって受講してください。
- ・テキストは生化学以外に食品学、栄養学関係の内容も含まれています。これらは時間的に解説するのが困難なので希望があれば補講の形で行います。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	生体を構成する物質 生化学を学ぶための基礎知識：化学の基礎知識、原子と分子 非極性（疎水性）、極性およびイオン性分子（親水性）
第 2 週	生体を構成する物質：糖質の構造と機能 食品学と栄養学の内容の部分は簡単に説明し構造多糖に重点を置いて説明する
第 3 週	生体を構成する物質：脂質の構造と機能 食品学と栄養学の内容の部分は簡単に説明し細胞膜成分（リポタンパク質とりん脂質）に重点をおいて説明する
第 4 週	生体を構成する物質：タンパク質の構造と機能 機能による分類と組成による分類について解説する 化学反応を触媒するタンパク質（酵素）のはたらきを概説する
第 5 週	ビタミンのはたらき 脂溶性ビタミン（A、D、E、K）と水溶性ビタミン（CとB群）について概説する
第 6 週	生体内物質代謝：糖質の代謝 糖質の消化吸収と解糖系およびクエン酸回路（TCA回路）におけるエネルギー産生のしくみについて概説する
第 7 週	生体内物質代謝：脂質の代謝 脂質の消化と吸収、脂質の輸送、ミトコンドリアにおけるβ酸化機構について概説する
第 8 週	生体内物質代謝：タンパク質の代謝 タンパク質の消化と吸収、α-ケト酸と代謝、尿素の生成
第 9 週	遺伝情報とその発現 DNAの複製、タンパク質合成
第10週	ポルフィリン代謝：ヘムの分解とビリルビンの代謝、黄疸 代謝異常：骨粗鬆症、糖尿病、脂質異常症について概説する
第11週	核酸の構造と機能 ヌクレオシドとヌクレオチド DNAとRNAの構造
第12週	ホルモンと生理活性物質：恒常性（ホメオスタシス）の維持と外部刺激への応答 ホルモンの種類と作用機序 特にインスリンとアドレナリンについて概説する
第13週	血液：血液の構成成分とはたらき 血球の産生とはたらき、血漿タンパク質のはたらきについて概説する
第14週	腎臓：ネフロン構造、尿の生成 ナトリウムイオンおよび水の再吸収のしくみ 尿と臨床検査、ネフローゼについて概説する 細胞小器官についてのまとめ
第15週	小テスト、学習のまとめ

《Ⅱ群（人体の構造と機能）》

科目名	栄養学（食品学を含む）				
担当者名	増村 美佐子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

本教科では、①健康増進に寄与することができる、②健康的な食生活を企画できる、③ライフステージや健康状態に適した食事を考案できる、ことを目的としています。

食事摂取基準の目指すもの、その意義、および使い方などについて講義します。また、「健康日本21」との関連からも自己および対象の健康を向上させる食生活のあり方、食品類の選び方に関心を寄せ、実践できる基本を修得するものとします。

《授業の到達目標》

栄養と栄養素についての説明が可能となる。

国民栄養の現状の説明が可能となる。

摂取推奨量に適する食品の選択が可能となる。

ライフステージの生理と食事についての説明が可能である。

《テキスト》

「保健・医療・福祉のための栄養学」渡辺早苗、寺本房子、丸山千寿子、藤尾ミツ子編（医歯薬出版株式会社）2011

《参考文献》

「系統看護学講座 人体の構造と機能3 栄養学」小野章史、杉山みち子（医学書院）2010

「国民栄養の現状」健康・栄養情報研究会編（第一出版）

「日本人の食事摂取基準 2010年版」厚生労働省策定（第一出版）2009

「糖尿病食事治療のための食品交換表 第7版」日本糖尿病学会編（文光堂）

「第8版 腎臓病食品交換表 治療食の基準」黒川 清監修（医歯薬出版株式会社）

「何をどれだけ食べたべたらよいか」香川芳子監修（女子栄養大学出版部）

「五訂増補 食品80キロカロリーガイドブック」（女子栄養大学出版部）

《成績評価の方法》

①出席が授業回数の70%以上の学生を成績評価の対象とします。

②課題提出 20%

③筆記試験 80%

④試験は40点未満は年度内の再評価はない。

《授業時間外学習》

・予習の方法

授業終了後に次回の予告をしますので、教科書を予習してきてください。また、課題を出した場合はその課題を行ってきて下さい。

・復習の方法

授業内容を再確認し、不明な点は質問するか自己学習してください。

栄養のバランス・食品の選択法を修得してもらうために食事記録を書いてもらいます。

《備考》

毎日、新聞やニュースに目を通し、栄養や食品についての情報に触れる習慣をつけましょう。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	・本教科の目的 ・栄養とは ①栄養の定義、②栄養素の種類
第2週	・日本人の食事摂取基準の活用法
第3週	・国民栄養の沿革と現状 ①国民健康・栄養調査、②調査結果の概要 ★メタボリックシンドローム
第4週	・関連法規、健康日本21 その他 ★健康増進法
第5週	・健康と食生活（健康と食生活をテーマに自己を振り返り、評価する） ①食生活、食習慣、食事量、生活時間など
第6週	・食品と栄養 ①食品群（考え方と食品群の種類）
第7週	②食品群（特徴の理解）
第8週	③食事バランスガイド
第9週	④食品の選択・食品交換の基本（糖尿病食品交換表・腎臓病食品交換表）
第10週	⑤食事摂取基準推奨量に適合する食品の選択
第11週	・「各ライフステージ」の生理と食事 1. 妊娠期・授乳期の栄養管理 ★腸内環境
第12週	2. 乳幼児期・学童期の栄養管理
第13週	3. 思春期の栄養管理
第14週	4. 成人期の栄養管理
第15週	5. 高齢期の栄養管理・重要項目のまとめ

《Ⅱ群（人体の構造と機能）》

科目名	免疫・微生物学				
担当者名	田邊 誠				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

新型インフルエンザの大流行に始まり、ますます深刻化する薬剤耐性菌による院内感染症や、老人ホームでの食中毒集団発生など感染症にまつわる話題は枚挙にいとまがありません。歴史を紐解けば医学はペスト、天然痘、結核などの伝染病との闘いを通じて発展してきたと考えられます。これから医療人として働いてゆくみなさんも多くの感染症に出会い、治療してゆくことになります。自分を守り、患者やその家族を守りながらおおくの感染症に立ち向かってゆくためには、感染症の原因である微生物について理解することが大切です。本講座では感染症の成り立ちとその原因を知り、対応方法を理解することを目標とします。

《授業の到達目標》

- ①微生物の種類とその性質について基本的な知識を説明できる。
- ②代表的な微生物とその感染症について理解し説明できる。
- ③「ヒト」の防御反応である免疫について説明できる。
- ③感染症の成り立ち、診断、治療、予防、現状について説明できる。
- ④病院で働く際に実際に出会う様々な感染症についても臨床実践シリーズとして取り上げる。微生物学の知識が現場でどのように役立つかを理解する。

《テキスト》

系統看護学講座・専門基礎分野 微生物学 疾病のなりたちと回復の促進 [3]
 南嶋洋一・吉田真一 著 (医学書院 第1版) 2009
 プリント配布

《参考文献》

《成績評価の方法》

期末試験 60% (試験はテキストなどの持ち込み不可)、レポート・講義での質疑応答 各 20%で評価します。
 ただし出席数が3分の2を満たさない場合は期末試験の受験資格を失います。20分以上の遅刻、早退も欠席扱いとなります。
 また講義中の質疑応答もレポートの一部として加点・減点の対象とします。

《授業時間外学習》

授業で配布するプリントはテキストをもとに、国家試験対策資料を合わせて作成しています。授業後テキストの該当箇所をよく読み、知識をより確実なものにしてください。

《備考》

微生物には多くの種類があり、すべてを覚えるのは無理があります。感染症の基本を理解し、予防・診断・治療に至る原則を会得することが大切です。本講座では国家試験に出題されたテーマを中心に講義を進め、対策を行うとともに、働き始めてからも役立つ知識を身につけていただきたいと思います。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	微生物とは
第 2 週	細菌のしくみ 臨床実践シリーズ①
第 3 週	真菌・原虫の性質 臨床実践シリーズ②
第 4 週	ウイルスのしくみ
第 5 週	感染の成り立ち
第 6 週	免疫のしくみ ワクチンについて知ろう
第 7 週	免疫のしくみ 病気とのかかわり
第 8 週	感染の予防 滅菌と消毒
第 9 週	感染症の診断
第 10 週	感染症の現状と対策
第 11 週	細菌感染症各論①
第 12 週	細菌感染症各論② ウイルス感染症各論①
第 13 週	ウイルス感染症各論②
第 14 週	真菌・原虫感染症各論
第 15 週	総括 重点項目の確認

《IV群（基礎看護学）》

科目名	看護学概論				
担当者名	道廣 睦子・小林 廣美				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

看護学概論は看護学の土台である基礎看護学に位置し、看護学全体の基本的内容を含む。看護に関する過去と現在、および未来の見通しを伝え、看護学の本質を理解し看護学の豊かさや奥深さをイメージさせ、関心を高め各領域の看護学への学習意欲を鼓舞させるための科目である。本授業のねらいは看護の基本的概念（人間、健康、環境、看護）の理解を踏まえ、看護学の知識体系（理論）の概念をつかみ、専門職としての看護の役割と機能について理解する。看護サービスの利用者である人間（対象）について成長、発達、ライフサイクルの側面、生活主体としての側面から考察し、ニーズの充足と自立、適応に焦点を当てた看護活動について理解する。看護の基本は患者の苦痛を軽減し、安全・安楽・自立を確保し、環境を整え安寧を保障することであり、生命・人間の尊厳や基本的人権を基盤に看護活動を展開することを認識する。患者の権利をめぐる歴史的変遷や権利擁護の重要性について理解すると共に、生命倫理上の諸課題について考察する。

《授業の到達目標》

- ・社会の中で健康問題を持って生活する人間について、全人的な存在であることを説明できる。
- ・人間の欲求行動を看護学的視点で理解し、生活支援としての看護の重要性について説明することができる。
- ・科学的思考に基づいた看護の重要性を具体的に述べることができる。
- ・保健福祉医療システムの中での専門職としての看護の役割と責任について説明できる。
- ・生命・人間の尊厳や人権についての知識を修得し、看護と倫理的・法的問題について説明できる

《テキスト》

- ・川村佐和子編；ナースング・グラフィカ®、看護学概論、メディカ出版、2009
- ・F. ナイチンゲール著、薄井坦子訳：看護覚え書きー看護であること、看護でないことー、現代社、2002
- ・V. ヘンダーソン著、湯楨ます・小玉香津子訳：看護の基本となるもの、日本看護協会出版会、2006

《参考文献》

- ・M.メイヤロフ著、田村真・向野宣之訳：ケアの本質ー生きることの意味ーゆるみ出版、2006
- ・日本看護協会：看護白書、日本看護協会出版会 2009

《成績評価の方法》

積極的・創造的な授業参加及びプレゼンテーション（20%）、筆記試験（50%）、学術的なレポートの提出（30%）により総合的に行う。

《授業時間外学習》

- ・教科書の指定箇所を読み、専門用語の意味をノートに整理し理解しておくこと。
- ・授業終了時、課題を出すので、次回提出すること。

《備考》

- ・教科書の指定箇所を読み、専門用語の意味をノートに整理し理解しておくこと。
- ・授業終了時、課題を出すので、次回提出すること。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	看護って何だろう？：看護という言葉の意味、ケアとキュアの考え方、ケア/ケアリングの概念、
第 2 週	専門的看護の発展：近代看護の歴史的変遷、わが国の看護改革と看護の専門職化
第 3 週	専門的看護の役割・機能：ヘルスケア提供システム、看護の場、看護の役割、責任
第 4 週	社会の変化と看護の役割拡大：わが国の保健・医療・福祉の状況、日本における専門看護師、認定看護師他
第 5 週	看護の主要概念：人間、社会、健康、看護
第 6 週	看護の諸理論：ナイチンゲール、ヘンダーソン、オーランド、ペプローの看護理論
第 7 週	健康、病気とウェルネス：健康と病気、健康と病気に影響する要因、健康信念モデル
第 8 週	環境と健康：国民の全体像としての健康把握（少子高齢化の実態、死亡を通して見る健康問題）、個人と環境
第 9 週	看護の対象①：人間の欲求と行動、人間の基本的ニーズ、マズローのニーズの階層、人間のニーズと看護
第 10 週	看護の対象②：ストレスと適応、ストレスの基本概念、ストレスコーピング、危機状態と介入
第 11 週	看護活動①：直接看護活動、保健医療福祉チームなどの活動の仲介・調整、
第 12 週	看護活動②：看護過程
第 13 週	看護活動③：看護過程
第 14 週	患者の権利をめぐる歴史的変遷；ニュールンベルグ綱領、ヘルシンキ宣言、リスボン宣言、日本における患者の権利 医療従事者と倫理：倫理とは、倫理原則、生命倫理、医療倫理、患者主体の医療：インフォームドコンセント、自己決定権、守秘義務
第 15 週	看護師の責務：法的な責任（医療法、保助看法）、倫理的な責任（専門職能団体がもつ倫理綱領）

《IV群（基礎看護学）》

科目名	看護理論				
担当者名	道廣 睦子				
授業方法	講義	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

看護の本質とは、看護を「看護」として成り立たせている独自の性質です。看護の本質を自ら探究してきた人々が看護理論家であり、看護理論家たちは「看護って何だろう」と考えてきた人達です。本授業は看護理論家が看護をどのように見ているかを知ることによって看護の質を向上させることがねらいです。看護理論をわかりやすく学ぶための枠組みに沿って授業を進めていきます。例えば、「看護理論家は理論を書くときいったい何を材料にしたのだろうか」「看護理論の中の骨格部分に何が書かれているか」「看護で中心的な概念、つまり人間・環境（社会）・健康・看護をどのように捉えているのか」など考えていきます。また、看護が **art** であり、**science** であると位置づけられている根拠を分析してみることで、**caring** としての看護の意味をより深く理解する。さらに、看護過程の中で看護理論がどのように活用されているかを知り、看護実践と結びついた理論について考察する。

《授業の到達目標》

- ・看護実践を支える看護理論の重要性が説明できる。
- ・実践、理論、研究の関係を説明できる。
- ・看護に用いる主要な看護理論を述べ、各理論家の理論の特徴を類別できる。
- ・看護理論を看護過程に応用できる。

《テキスト》

教材は授業で配布する、参考文献は授業中に紹介する。

《参考文献》

- ・F. ナイチンゲール著、薄井坦子訳：看護覚え書き―看護であること、看護でないこと―、現代社、2002
- ・V. ヘンダーソン著、湯楨ます・小玉香津子訳：看護の基本となるもの、日本看護協会出版会、2006

《成績評価の方法》

積極的・創造的な授業参加及びプレゼンテーション（20%）、筆記試験（50%）、レポートの提出（30%）により総合的に行う。

《授業時間外学習》

初回授業の際、課題を提出する

《備考》

- ・配布資料は必ずファイルしておくこと。・講義中の携帯電話、メールを禁止します。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	看護理論開発の歴史：看護の理論化、看護の科学化、医学モデル、看護モデル
第 2 週	看護理論の範囲：総合理論（大理論）、中範囲理論、小範囲（実践）理論
第 3 週	看護理論の共通要素：人間、環境（社会）、健康、看護、
第 4 週	看護理論と実践：看護実践について、理論との関係、実践の中の看護理論応用例、看護理論の有効性と限界
第 5 週	看護の諸理論をわかりやすく読むための枠組み
第 6 週	看護の諸理論：演習 1
第 7 週	看護の諸理論：演習 2（発表・まとめ）
第 8 週	看護理論と看護過程：看護過程の概観と看護理論の適用方法）、看護理論と看護研究：看護研究とは、看護研究への活用方法
第 9 週	
第 10 週	
第 11 週	
第 12 週	
第 13 週	
第 14 週	
第 15 週	

《IV群（基礎看護学）》

科目名	ヘルスアセスメント				
担当者名	小林 廣美・道廣 睦子・森崎 由佳・竹内 美樹				
授業方法	講演	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

「看護の対象となる人の健康状態を理解する」をねらいとして、「生活者としての人のとらえ方」「身体診査の技術」を修得する。

《授業の到達目標》

1. ヘルスアセスメントの概念が理解できる。
2. 看護の対象者の健康状態を把握するために必要な、アセスメント技術としての健康歴の聴取方法が理解できる。
3. 身体診察の基本技術の実施ができる。

《テキスト》

小野田千枝子 フィジカルアセスメント 金原出版

《参考文献》**《成績評価の方法》**

筆記試験 60%、課題やレポート 20%、演習態度 20%

《授業時間外学習》

1. 各単元に関連する形態機能論の事前学習を課す。
2. 演習の復習をすること。
3. 演習事後課題の提出を課す。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画	
第 1 週	ガイダンス ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント	
第 2 週	ヘルスアセスメントの方法 健康歴の聴取	
第 3 週	健康歴の聴取	
第 4 週	前頸部、目、耳のアセスメント	講義
第 5 週	前頸部、目、耳のアセスメント	演習
第 6 週	胸部のアセスメント	講義
第 7 週	胸部のアセスメント	演習
第 8 週	血管系のアセスメント	講義 演習
第 9 週	腹部のアセスメント	講義
第 10 週	腹部のアセスメント	演習
第 11 週	骨・骨格系のアセスメント	講義
第 12 週	骨・骨格系のアセスメント	演習
第 13 週	神経系のアセスメント	講義 演習
第 14 週	乳房のアセスメント	講義 演習
第 15 週	事例によるまとめの演習	

《IV群（基礎看護学）》

科目名	基礎看護学実習 I				
担当者名	道廣 睦子・小林 廣美・森崎 由佳・竹内 美樹				
授業方法	実習	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

学生は、保健・医療・福祉施設で日常生活を送る人々の環境について知り、対話を通してその人達の気持ちや生活状況、健康や看護に対する思いを理解する。そして人々の健康を維持・増進するために、どのような看護活動が行われているかを見学し、専門職としての態度や倫理について学ぶ。

《授業の到達目標》

- I. 人々が生活する場の環境がわかる。
 - 1) 施設・病院の概要がわかる。
 - 2) 人々がどのような環境で生活しているのかを説明することができる。
 - 3) 人々が生活する環境は、安全面でどのような工夫がされているのかを説明できる。
2. 人々の対話を通して、その人の気持ちと生活状況がわかる。
 - 1) 人々との対話を通して、その人達の気持ちを聞くことができる。
 - 2) 人々の健康への思いを説明できる。
 - 3) 人々の日常生活を把握する。
 - 4) 人々との対話を通して自己のありよう（態度）に気づくことができる。
3. 人々の健康維持のためにどのような活動が行われているかがわかる。
 - 1) 人々の健康維持のためにどのような人たちが関わっているかが説明できる。
 - 2) 人々の健康維持のためにどのような活動が行われているかが説明できる。
 - 3) 人々の活動を通してどのような倫理的配慮がされているか説明できる。

《テキスト》

看護学概論で指定されている図書

《参考文献》

《成績評価の方法》

実習要綱に挿入されている実習評価表に基づいて行う。知識だけでなく、実習中の態度、出席状況、服装など総合的に評価する。評価表 80%、グループ発表とレポート 10%、個人記録 10%

《授業時間外学習》

事前にガイダンスを行います。

事前に実習病棟と病棟の特徴を提示するので、事前学習を行うこと。

《備考》

今回の実習は、教室内で学習した内容を実践の場で見聞し、看護が提供されている場における人間・環境・健康・看護について自分の考えを明らかにすることを目的にしている。事前に看護学概論で学習した内容を復習し、自分が観る視点をもって、積極的にかつ効果的な実習を行うことを期待する。実習指導には基礎看護学領域の教員の他に、全員の助教・助手である。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	内容の詳細は実習要綱で提示する。
第 2 週	
第 3 週	
第 4 週	
第 5 週	
第 6 週	
第 7 週	
第 8 週	
第 9 週	
第 10 週	
第 11 週	
第 12 週	
第 13 週	
第 14 週	
第 15 週	

《X群（基礎）》

科目名	基礎ゼミ			
担当者名	道廣 睦子・加藤 知可子・式 恵美子・坂上 晶代・川上 あずさ・芝田 ゆかり・齋藤 智江・若井 和子・小林 廣美・秦 久美子・山下 裕紀・池田 友美・眞野 祥子・久井 志保・高橋 直美・大植 崇・森崎 美樹・竹内 由佳			
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期 1年・I期

《授業のねらい及び概要》

入学後の環境に適応すること、大学生活を有意義に送り、積極的に学習できるように基本的学習技術を習得し自ら考える態度を身につけることを目的に、コミュニケーションスキル、クリティカルシンキング、スタディスキル、問題解決能力、ソーシャルスキル等の学習方法を学ぶことを目的としています。そのためグループワークの技法、パワーポイントを用いての発表方法の学習、レポートの書き方、ノートテイキング、文献検索等の方法と実際等についての基礎的知識の習得をめざす。

《授業の到達目標》

1. 大学における知的生活を円滑にするためのスタディスキル（基本的学習技術）を修得することができる。
2. ノートテイキングでは、授業の聴き方、ノートを効果的にとる方法が理解できる。
3. 文献検索では、図書館における情報検索方法を理解し、必要な文献検索・文献収集・活用法について理解できる。
4. レポートの書き方では、自分の考えや主張を伝えるために書くことを通じて思考プロセスを理解し、レポートの書き方や提出方法の基本を修得することができる。
5. グループワークではグループで取り組むべき課題を見つけることができ、問題解決型の自己学習態度を修得することができる。
また、具体的な進め方を学習し、ディスカッションを通しながら、個人で調べた内容を共有することができる。
6. コミュニケーションの基礎的な方法と考える能力を養い、演習を通して良好な対人関係をもつことができる。
7. プレゼンテーションでは、発表内容を決定し、きめられた時間の中で発表できるよう資料をビジュアル・エイドを作成することができる。

《テキスト》

教材は授業で配布する。

《参考文献》

参考文献は授業中に紹介する。

《成績評価の方法》

出席重視、各担当者がその都度評価したものを参考に、全体で評価する。

《授業時間外学習》

担当者は看護学科の教員全員である。講義と演習がセットになっている内容が多いので、講義で欠席すると演習で困るので注意すること。4年間の大学生活に関係する内容であるため欠席しないこと。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	ガイダンス、看護学科の紹介、大学生活とは
第 2 週	学習の方法
第 3 週	ノートテイキング①
第 4 週	ノートテイキング②演習
第 5 週	文献検索①
第 6 週	文献検索②演習
第 7 週	レポートの書き方①
第 8 週	レポートの書き方②演習
第 9 週	グループワークの方法①
第 10 週	グループワークの方法②
第 11 週	コミュニケーション①
第 12 週	コミュニケーション②
第 13 週	プレゼンテーション①
第 14 週	プレゼンテーション②演習
第 15 週	まとめ・評価

《教職に関する科目》

科目名	教職概論				
担当者名	上寺 常和				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

教職の歴史や意義とはどのようなものか、これからの教員に求められる資質・能力とは何か、教員の仕事とはどのようなものか、教員の身分保障と地位はどのようなものか、求められる教師の資質能力について、教育職員免許状の授与と取得の条件とはなにか、教師の研修、服務とはどのようなものか、等について解説し、その理解をねらいとする。

《授業の到達目標》

教員の資質向上が焦点の課題である状況のなかで、教育実習をおこなう教職課程履修者は、その責任が以前にも増して重くなったことをよく認識して、教育実習に積極的に取り組むことが求められよう。その意味で本講義は将来、教職の道をめざす履修者にとって、教師になるための基礎的・基本的態度と知識を学ぶことを目指す。

《テキスト》

『新しい教職概論・教育原理』 広岡義之編著（関西学院大学出版会）2008年

《参考文献》

必要に応じて講義の際に適宜紹介する。

《成績評価の方法》

講義中の発表・態度 50%、講義中の小試験 50%。
授業欠席回数が授業実施回数の 1/3 以上の者には単位を与えない。

《授業時間外学習》

教科書等の指定箇所を熟読し、内容を把握しておくこと。

《備考》

この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人、あるいは教育問題に強い関心を持つ人達のためにあるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。また特に自ら進んで講義内容に関心を持ち、関連事項を積極的に勉強する姿勢が必要である。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	本講義のオリエンテーション
第 2 週	教職の意義と歴史について
第 3 週	教職員組織について
第 4 週	教師の職務と学校の運営について
第 5 週	現場教師（小・中・高等学校）の実際について
第 6 週	大学における教職への動機づけ
第 7 週	教師の養成と免許について
第 8 週	教師の採用・研修・身分保障について
第 9 週	教育職員免許上の授与と取得の条件
第 10 週	求められる教師の資質能力について
第 11 週	生涯学習社会と「開かれた学校」への方向転換
第 12 週	「学ぶ力」の育成と教師の資質能力
第 13 週	教育荒廃と教師の役割
第 14 週	教師の悩みと不安
第 15 週	本講義のまとめと重要箇所の復習

《教職に関する科目》

科目名	教職原理				
担当者名	廣岡 義之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

本講義では、人間形成の意義と課題を教育原理的側面から論じてゆきたい。そのうえで、多くの教育問題が発生する今日的課題として、様々な教育思想家の主張を援用しつつ、学校生活を含めた人間関係の深化、生きる意味を探究する援助者としての教師論などにも言及したい。また社会で求められる教育的課題という観点から、教育の基本原理、西洋と日本の教育理念と歴史、発達と教育、家庭・地域教育、新学習指導要領等の特徴と課題、現代教育の課題等の領域について論じてゆくことにする。

《授業の到達目標》

教育の基礎・基本である原理的内容の理解が、この授業の目標である。つまり、教育の概念や教育観を学ぶことを通じて、今日の学校教育の課題や問題について考え、分析することができるようにすることを目指す。

《テキスト》

- 『新しい教育原理』 広岡 義之編著（ミネルヴァ書房）2011年

《参考文献》

必要があれば講義の際に紹介する。

《成績評価の方法》

講義中の発表・態度 50%、講義中の小試験 50%。
授業欠席回数が授業実施回数の 1/3 以上の者には単位を与えない。

《授業時間外学習》

教科書等の指定箇所を熟読し、内容を把握しておくこと。

《備考》

この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人、あるいは教育問題に強い関心を持つ人達のためであるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。また特に自ら進んで講義内容に関心を持ち、関連事項を積極的に勉強する姿勢が必要である。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	本講義のオリエンテーション
第 2 週	人間形成と教育
第 3 週	素質と教育: 遺伝と環境
第 4 週	西洋の教育理念と歴史 (方法と制度を含む)
第 5 週	日本の教育理念と歴史 (方法と制度を含む)
第 6 週	発達と教育: 発達の意味
第 7 週	発達と教育: 乳幼児期の課題
第 8 週	発達と教育: 青少年期の課題
第 9 週	発達と教育: 壮年期の課題
第 10 週	家庭教育の意義と特色
第 11 週	地域教育の意義と特色
第 12 週	家庭・地域教育の現代的課題
第 13 週	保育所指針と幼稚園教育要領の特徴と課題
第 14 週	小・中・高等学校学習指導要領の特徴と課題
第 15 週	現代教育の課題: 特別支援教育について

《教職に関する科目》

科目名	教職制度論				
担当者名	廣岡 義之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

「テキスト」欄に挙げてある『教育の制度と歴史』の中から重要と思われる項目を中心に、考察を加えて行く。学校の歴史、教育制度の概念、現行の学校教育制度、学校制度（学校体系）の枠組み、学校教育の機能と性格、社会変化と学校教育などにみられる主要原理と課題を分析・検討する。

《授業の到達目標》

わが国の教育の将来的な改革・再編成の方向を本質的に理解するためには、教育制度の歴史的 position についての認識が必要となる。そこで受講生は、教育制度を鳥瞰することにより、なに故必然的に現代のこうした日本の教育形態や制度が形成されるに至ったのかについて主体的に考えることができるようになる。

《テキスト》

- 『教育の制度と歴史』 広岡 義之編著 （ミネルヴァ書房）2007年

《参考文献》

『教育用語集』（仮題）広岡 義之編著 （ミネルヴァ書房）2011年

《成績評価の方法》

講義中の発表・態度 50%、講義中の小試験 50%。
授業欠席回数が授業実施回数の 1/3 以上の者には単位を与えない。

《授業時間外学習》

教科書等の指定箇所を熟読し、内容を把握しておくこと。

《備考》

この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人、あるいは教育問題に強い関心を持つ人達のためであるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。また特に自ら進んで講義内容に関心を持ち、関連事項を積極的に勉強する姿勢が必要である。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	本講義のオリエンテーション
第 2 週	西洋古代・中世の教育制度と教育の歴史
第 3 週	ルネサンス・宗教改革の教育制度と教育の歴史
第 4 週	17・18 世紀の教育制度と教育の歴史
第 5 週	西洋近代公教育制度の発達
第 6 週	19・20 世紀の教育制度と教育の歴史
第 7 週	西洋「新教育運動」の展開と現代教育制度の動向
第 8 週	日本古代・中世の教育制度と教育の歴史
第 9 週	日本近世・近代の教育制度と教育の歴史
第 10 週	国民教育の確立
第 11 週	日本近代教育制度の拡充と教育運動
第 12 週	戦時体制下の教育制度と教育
第 13 週	戦後日本の教育改革および教育制度改革
第 14 週	現代日本教育制度と教育行政
第 15 週	現代日本の教育改革

《教職に関する科目》

科目名	教育相談（カウンセリングを含む）				
担当者名	琴浦 志津				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

学校教育の重大問題として、学力低下とこころの教育をめぐる問題があげられる。これらの背景には、現代を生きる子どもたちのこころの発達のゆがみがあると考えられるが、これらに対して、教師はどのようなことができるだろうか？

人と人との関係を考えていくうえでのヒントは、悩むひとたちと治療者との関係の中で見出された事例の積み重ねによって理論化された、臨床心理学の理論の中に多くあるといっても過言ではない。そこでこの授業では、教師が子どもたちと関係性を構築していくためのスキルとして、カウンセリングの基礎を体験しながら学ぶことをめざす。そして後半は各年代の子どもたちの事例を取り上げるが、各自が子どもたちの問題について自分なりの対処法を見出していけるよう、自分の耳で聴き、感じたことを大切にしていける方法についても学んでほしい。

《授業の到達目標》

1. カウンセリングの基礎を学び、ひとの話を集中して聴くことができるようになること。
2. 自分自身のこころに焦点をあてて、そこに耳を傾けられるようになること。
3. 近年の学校現場での様々な問題に、自分なりの視点をもてるようになること。

《テキスト》

必要な資料は、適宜配布する。

《参考文献》

1. 「スクールカウンセラーがすすめる 112 冊の本」滝口俊子・田中慶江編 創元社（1400 円＋税）
2. 「特別支援教育のための 100 冊」特別教育支援プロジェクトチーム 創元社（1800 円）

《成績評価の方法》

授業への取り組み 30% レポート 20% 授業内容の理解 50%

《授業時間外学習》

こころについて学ぶための本のリスト（上記の参考文献にとりあげられている 112 冊＋100 冊）を配布する。半期の間にできるだけ多くの本を手にとり読んでいただきたい。そしてこの中から自分の興味のある本を一冊えらんで、手書きで原稿用紙又はレポート用紙 5 枚の感想文を提出してください。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション：教育相談とは何か
第 2 週	カウンセリングの基礎理論
第 3 週	カウンセリングの技術
第 4 週	カウンセリングの過程
第 5 週	カウンセリング実習
第 6 週	自分でできるカウンセリング：フォーカシングについて
第 7 週	前半のまとめ
第 8 週	発達の臨床と教育相談
第 9 週	こころの発達理論
第 10 週	子どもたちの問題
第 11 週	学校現場で会う子どもたちの発達の問題
第 12 週	児童虐待について
第 13 週	教師と専門機関の連携・家庭との連携のあり方
第 14 週	様々な事例
第 15 週	今後にかかす教育相談

平成 22 年度 (2010 年度) 入学者

卒業要件単位数

科目区分		卒業必要単位	内必修単位と科目数	
基礎・教養科目		26 単位	12 単位	6 科目
専門教育科目	専門基礎科目	22 単位	22 単位	9 科目
	専門実践科目	68 単位	68 単位	37 科目
	統合科目	6 単位	6 単位	3 科目
	関連科目	—	—	—
	基礎科目	2 単位	2 単位	1 科目
合 計		124 単位	110 単位	56 科目

カリキュラム年次配当表

看護学科 平成22年度（2010年度）入学者対象
 （ ）は兼担、[]は兼任講師

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		看護師	保健師	養護 教諭 一種	学年配当 (数字は週当り授業時間)								平成23年度の 担当者	ページ
			必修	選択				1年		2年		3年		4年			
								I	II	I	II	I	II	I	II		
専 門 基 礎 科 目	I群 (健康支援と社会保障制度)	社会福祉論	講義	2				2									
	家族関係論	講義	2					2							[磯部 香]	26	
	精神保健	講義	2				2										
	環境衛生学	講義	2							2							
	保健福祉行政論	講義	2		◇	□				2					(河野 真)・芝田 ゆかり	27	
	公衆衛生学 (疫学含)	講義	2		◇	□	○			2					(多田 章夫)	28	
	保健統計学	講義	2		◇	□	○			2					(湯瀬 晶文)	29	
	II群 (人体の構造と機能)	基礎生物学	講義	2				2									
	形態機能論	講義	4		◇	□	○	4									
	生化学	講義	2					2									
	栄養学 (食品学を含む)	講義	2				○	2									
	薬理学	講義	2		◇	□	○	2							[溝邊 雅一]	30	
	免疫・微生物学	講義	2		◇	□	○	2									
	III群 (疾病の促進及び回復の成立)	臨床病理病態学Ⅰ (内科系)	講義	4		◇	□			4						I期: (大西 隆仁)・他 II期: オムニバス	31, 32
	臨床病理病態学Ⅱ (外科系)	講義	2		◇	□				2						未定	33
	臨床病理病態学Ⅲ (周産期・小児科系)	講義	2		◇	□				2						[米谷 昌彦]	34
	専 門 育 門	IV群 (基礎看護学)	看護学概論	講義	2		◇	□	○	2							
		看護理論	講義	1		◇	□	○	1								
		ヘルスアセスメント	講演	1		◇	□	○	2								
		看護技術論Ⅰ (生活技術援助)	講演	2		◇	□	○		4						小林・道廣・森崎・竹内	35
		看護技術論Ⅱ (診療技術援助)	講演	2		◇	□	○		4						道廣・小林・森崎・竹内	36
基礎看護学実習Ⅰ		実習	1		◇	□	○	3									
基礎看護学実習Ⅱ		実習	2		◇	□	○		6						小林・道廣・森崎・竹内	37	
看護教育学		講義	1		◇	□					1						
看護管理学		講義	1		◇	□					1						
実 践 科 目		V群 (成人・老年看護学)	成人看護学概論	講義	2		◇	□	○			2					坂上 晶代
	成人看護援助論Ⅰ (生命危機状態にある人)	講義	2		◇	□	○			2							
	成人看護援助論Ⅱ (常態の維持・増進が困難な人)	講義	2		◇	□	○			2							
	成人看護学実習Ⅰ	実習	3		◇	□					9						
	成人看護学実習Ⅱ	実習	3		◇	□					9						
	老年看護学概論	講義	2		◇	□				2					齋藤 智江	39	
	老年看護援助論	講義	2		◇	□				2							
	老年看護学実習Ⅰ	実習	2		◇	□					6						
	老年看護学実習Ⅱ	実習	2		◇	□					6						
	VI群 (母性・小児看護学)	母性看護学概論	講義	2		◇	□	○			2					若井 和子	40
母性看護援助論	講演	2		◇	□	○				4							
母性看護学実習	実習	2		◇	□					6							
小児看護学概論	講義	2		◇	□	○			2					川上 あずさ	41		
小児看護援助論	講演	2		◇	□	○			4					川上 あずさ・池田 友美	42		
小児看護学実習	実習	2		◇	□	○				6							

カリキュラム年次配当表

看護学科 平成22年度（2010年度）入学者対象
 （ ）は兼担、[]は兼任講師

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		看護師	保健師	養護 教諭 一種	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成23年度の 担当者	ページ	
			必修	選択				1年		2年		3年		4年				
								I	II	I	II	I	II	I	II			
専 門 実 践 科 目	VII 群 （精神・在宅看護学）	精神看護学概論	講義	2	◇	□	○				2						加藤 知可子・[南川 博康]	43
		精神看護援助論	講義	2	◇	□	○					2						
		精神看護学実習	実習	2	◇	□	○						6					
		在宅看護概論	講義	2	◇	□					2						式 恵美子	44
		在宅看護援助論	講義	2	◇	□					2							
		在宅看護実習	実習	2	◇	□						6						
		地域看護学概論	講義	2	◇	□					2						芝田 ゆかり	45
		地域看護活動論	講義	2	◇	□					2							
		産業保健論	講義	1	◇	□					1							
		学校保健概論	講義	1	◇	□	○				1						杉原 トヨ子	46
		国際看護学	講義	1	◇	□								1				
		災害看護学	講義	1	◇	□								1				
		地域看護学実習	実習	3	◇	□								9				
育 統 合 科 目	VII 群 （看護の 統合と実践）	看護研究Ⅰ（基礎編）	演習	2	◇	□						2						
		看護研究Ⅱ（応用編）	演習	2	◇	□								2				
		リスクマネジメント論	講義	1								1						
		看護の統合と実践実習	実習	2	◇	□							6					
関 連 科 目	IX 群 （関連）	学校保健活動論	講義	2			○					2						
		学校保健演習	演習	2			○					2						
		養護概説	講義	2			○				2					杉原 トヨ子	47	
		健康相談活動の理論と実践	講義	2			○					2						
基 礎 科 目	X 群 （基礎）	基礎ゼミ	演習	2			○	2										

◇は看護師国家試験受験資格必修科目、◆は看護師国家試験受験資格選択科目（14単位以上必要）

□は保健師国家試験受験資格必修科目

○は養護教諭免許必修科目、●は養護教諭免許選択科目

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		看護師	保健師	養護 教諭 一種	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成23年度の 担当者	ページ	
			必修	選択				1年		2年		3年		4年				
								I	II	I	II	I	II	I	II			
教 職 に 関 す る 科 目		教職概論	講義	2			○	2										
		教育原理	講義	2			○	2										
		教育心理学	講義	2			○		2							(大平 曜子)	48	
		教育制度論	講義	2			○	2										
		教育課程論 (道徳、特別活動を含む)	講義	2			○		2							[上寺 常和]	49	
		教育方法・技術論	講義	2			○		2							(湯瀬 晶文)	50	
		生徒指導論 (進路指導を含む)	講義	2			○		2							[上寺 常和]	51	
		教育相談 (カウンセリングを含む)	講義	2			○	2										
		教職実践演習 (養護教諭)	演習	2			○							2				
		養護実習 (事前事後指導を含む)	実習	5			○							5				

○は養護教諭免許必修科目、●は養護教諭免許選択科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、指定の科目を修得すること。

《I群（健康支援と社会保障制度）》

科目名	家族関係論				
担当者名	磯部 香				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

《《授業のねらい及び概要》》

私たちの身近な存在で、かつ説明しにくい「家族」を理論・体系的に理解すること、つまり「家族とは一体何なのか？」を共に考えることが、この授業のねらいです。まずは、私たちが知り体感している「家族」が一体どのようなものなのかを、統計、理論、歴史や世界の家族を学ぶことで、再確認します。そしてアンテナを張り巡らし、情報を収集し、自分の中にある「家族」の常識を疑うことによって、画一ではなく重層的な存在として「家族」を捉え直すことをめざします。

《授業の到達目標》

- 「家族」を、家族社会学の基礎概念を使用して説明することができる。
- 「家族」の歴史を知ること、「家族」が自然発生的な集団でないことを理解することができる。
- 「家族」の実情や抱えている問題を知ることによって、「家族」の多様性を理解することができる。
- 以上より、「家族」のこれからの動向を予測し、考えることができる。

《テキスト》

・特定のテキストは使用しません。適宜プリントを配布します。

《参考文献》

- 『21世紀家族へー家族の戦後体制の見かた・超えかた（有斐閣選書）』落合恵美子，有斐閣，2004
- 『21世紀アジア家族』落合恵美子，上野加代子（編），明石書店，2006
- 『ライフコースとジェンダーで読む家族（有斐閣コンパクト）』岩上真珠，有斐閣，2007
- 『論点ハンドブック 家族社会学』野々山久也，世界思想社，2009

《成績評価の方法》

- ・ミニ・ディスカッション等の授業参加度：20%（参加意欲および協力度と作業シートによって評価する）
- ・ミニレポート・感想文の課題提出：20%（提出遅れについては減点の対象とします）
- ・定期試験：60%（試験は資料やノート等は「持ち込み不可」とします）

《授業時間外学習》

- ・ミニ・ディスカッション及び、ミニレポートの提出を求めることがありますので、日頃から家族に関する新聞記事やニュースに関心を持ち、目を配るようにしてください。
- ・配布資料には必ず目を通し、分からない箇所に関しては、質問したり調べたりしてください。
- ・VTR 視聴後などに感想文を書いてもらいますので、次週までに提出してください。

《備考》

- ・遅刻や私語は慎むように努めてください。
- ・分からない箇所に関しては、授業中・授業後に質問を受け付けます。

《授業計画》

週	授 業 計 画	
第 1 週	ガイダンス 授業の進め方の説明	
第 2 週	家族とは何か（1）家族の実態と、家族社会学の基本概念	
第 3 週	家族とは何か（2）家族社会学の基本概論	
第 4 週	家族の歴史 戦前（1） 良妻賢母と家庭と「家」	《VTR 視聴》
第 5 週	家族の歴史 戦前戦後（2） 近代家族と国家	
第 6 週	恋愛結婚と家族 配偶者選択	
第 7 週	ジェンダーと家族 性別役割分業と子ども	
第 8 週	多様な家族（1）ひとり親家族、里親、事実婚、国際結婚	《VTR 視聴》
第 9 週	多様な家族（2）離婚、再婚とステップファミリー	《VTR 視聴》
第 10 週	多様な家族（3）世界の家族①：アジアの家族	
第 11 週	多様な家族（4）世界の家族②：欧米の家族	
第 12 週	家族をめぐる問題 DV、虐待、無縁社会	
第 13 週	ケアをめぐる家族（1）：少子高齢化社会との関係	
第 14 週	ケアをめぐる家族（2）：ケアのグローバル化	
第 15 週	まとめ 家族の未来、家族を超えて	《ディスカッション》

《I群（健康支援と社会保障制度）》

科目名	保健福祉行政論				
担当者名	河野 真、芝田 ゆかり				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

保健福祉サービスの役割や基本的な制度枠組について解説するとともに、保健福祉制度の運営や政策過程に関する理解を深める。地域保健行政（公衆衛生看護）における保健師の役割とその責務を学習する。看護師国家試験出題基準「社会保障制度と生活者の健康」と、保健師国家試験出題基準「保健医療福祉行政論」の受験対策も併せて行う。

《授業の到達目標》

社会保障の役割、理念、機能、制度の体系について理解できる。
 保健医療福祉行政の要点について知識を深めることができる。
 国・都道府県・市町村等、行政のしくみとその役割を理解できる。
 地域保健行政（公衆衛生看護）における保健師の役割とその責務を理解できる。

《テキスト》

『保健医療福祉行政論（標準保健師講座別巻1）』医学書院、および授業中に配布するプリント。
 標準保健師講座1『地域看護学概論』編著／奥山則子他 医学書院

《参考文献》

国民衛生の動向 厚生統計協会
 その他適宜、講義時に紹介予定

《成績評価の方法》

定期試験 85%、授業への参加とその成果 15%

《授業時間外学習》

本教科は看護師・保健師国家試験に対応する科目であり、受験対策を意識した講義を実施する。限られた講義時間で、幅広い知識を身につけなければならないため、予習・復習が単位取得の必須の要件となる。講義受講に先立ち教科書は必ず熟読しておくこと。また授業中に配布するプリントを用いて講義内容を復習すること。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	保健医療福祉行政のめざすもの
第 2 週	保健医療福祉制度の変遷：公衆衛生の基盤形成
第 3 週	保健医療制度と医療資源
第 4 週	公衆衛生看護活動に関する法規
第 5 週	国・都道府県・市町村等、行政のしくみ
第 6 週	地域保健行政と保健師活動
第 7 週	保健医療福祉の計画と評価
第 8 週	社会保障の理念・日本の保健医療福祉活動の基本方向
第 9 週	社会保険制度（1）社会保険の変遷・医療保険制度
第10週	社会保険制度（2）介護保険制度
第11週	社会保険制度（3）年金制度・その他の社会保険制度
第12週	社会福祉諸法の理念と施策（1）
第13週	社会福祉諸法の理念と施策（2）
第14週	保健医療福祉行政論の要点整理（国家試験対策講座）
第15週	まとめ

《I群（健康支援と社会保障制度）》

科目名	公衆衛生学（疫学含）				
担当者名	多田 章夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

公衆衛生学は人間集団を対象とし、国民の疾病の予防や、健康増進に役立てることを目的とする学問である。疫学、疾病の広義の予防、医療・福祉・社会保障、国・地方公共団体による保健行政、及びこれらの活動に関連する衛生統計や疫学手法等集団の健康を維持するための基本的知識とその方法論を学ぶ。

《授業の到達目標》

- 1 公衆衛生の概念を理解する
- 2 基本的な保健統計指標について説明できる
- 3 疫学的な思考や手法を理解する
- 4 主要な生活習慣病の疫学や危険因子を説明できる

《テキスト》

「標準保健師講座 別巻2 疫学・保健統計学」 医学書院
 「シンプル衛生・公衆衛生学2010」 鈴木庄亮・久道茂

《参考文献》

国民衛生の動向：厚生統計協会編（校正統計協会）
 各単元毎に必要な応じて紹介する。

《成績評価の方法》

《成績評価の方法》

- 1 定期試験 90%、小試験 10%の割合で評価する
- 2 遅刻は欠席扱いとし、出席率の低い者（授業欠席回数が授業回数の30%以上の場合）は定期試験の受験資格を失う

《授業時間外学習》

- 1 次回の授業範囲を予習し、概要を把握すること
- 2 毎回授業後、ノートを整理し、重要なポイントを理解すること
- 3 健康に関するトピックス・ニュースの情報収集に努めること

《備考》

講義中は、他人の迷惑にならないよう最低限のマナーを守ること。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	健康の定義、公衆衛生の概念・歴史
第 2 週	人口統計
第 3 週	保健衛生統計
第 4 週	疫学の基礎
第 5 週	疫学の方法
第 6 週	感染症の疫学
第 7 週	感染症対策
第 8 週	小テスト
第 9 週	地域保健
第 10 週	予防・健康増進・生活習慣病対策
第 11 週	主要疾患の疫学と予防対策（悪性新生物）
第 12 週	主要疾患の疫学と予防対策（糖尿病）
第 13 週	主要疾患の疫学と予防対策（循環器疾患）
第 14 週	主要疾患の疫学と予防対策（メタボリック症候群、精神疾患、小児疾患、歯科疾患）
第 15 週	医療制度、医療対策・医療の仕組み、保険の種類、医療施設

《I群（健康支援と社会保障制度）》

科目名	保健統計学				
担当者名	湯瀬 晶文				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

別紙参照

《授業の到達目標》**《テキスト》****《参考文献》****《成績評価の方法》****《授業時間外学習》****《備考》****《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	
第 2 週	
第 3 週	
第 4 週	
第 5 週	
第 6 週	
第 7 週	
第 8 週	
第 9 週	
第 10 週	
第 11 週	
第 12 週	
第 13 週	
第 14 週	
第 15 週	

《Ⅱ群（人体の構造と機能）》

科目名	薬理学				
担当者名	溝邊 雅一				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・1期

《授業のねらい及び概要》

多くの疾患の治療において薬物治療は中心的な役割を担っている。臨床における患者のケアは勿論のこと、健康の維持・増進を科学的に指導・実践しようとするとき、医薬品の作用機序、生体内動態、有効性・安全性や投与方法など、薬理学的知識とその活用は必要不可欠となります。

本講義では、薬物の作用のしくみ、薬理効果と副作用、薬物体内動態などを総論的に理解したのち、感染性疾患や免疫系・神経系・内臓系などの疾患に用いられる薬物について、種類や特徴、注意すべき点などを各論的に学習し、看護の実践の場で必要とされる臨床薬理学的知識の習得を目指します。

《授業の到達目標》

- ① 医薬品の適用方法や剤形などと関連付けて薬物の体内動態や医薬品の有効性と安全性の考え方が説明できる。
- ② 各種疾患に用いられる薬物を系統的に種別し、主な薬物の名称と薬効機序などが説明できる。
- ③ 薬物の副作用、使用方法、使用上の注意などを理解し、患者への対応を主体的に考えることができる。

《テキスト》

『薬理学－疾病のなりたちと回復の促進 2』 大鹿 英世、吉岡 充弘 著 医学書院

《参考文献》

- 『薬理学』 鈴木 正彦 著 医学芸術社
 『やさしい薬理のメカニズム－薬のはたらきを知る』 中原 保裕 著 学習研究社
 『クスリのしくみ事典』 野口 實、岡島 重孝 著 日本実業出版社
 『くすりの地図帳』 伊賀 立二、小瀧 一、澤田 康文 監修 講談社

《成績評価の方法》

定期試験70%、平常評価30%（小テスト、課題、出席状況など）
 授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上になったものには単位を与えません。

《授業時間外学習》

教科書・参考書及び配布レジュメによる予習・復習の自己学習を確実にを行うこと。また、講義の進行に応じて実施する小テスト・課題に真剣に取り組むこと。

《備考》

自発的・積極的に学習に取り組み、理解が困難な事項については自ら調べると同時に、積極的に質問することを期待します。
 私語、携帯電話、飲食、出入り等の授業に対する迷惑行為は厳禁です。守れない場合は退席してもらうことがあります。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	薬理学総論（1） 薬物治療のめざすもの、薬物の作用のしくみ
第 2 週	薬理学総論（2） 薬物の体内の動き
第 3 週	薬理学総論（3） 薬効に影響を与える因子
第 4 週	抗感染症薬（1）
第 5 週	抗感染症薬（2）
第 6 週	抗がん薬
第 7 週	免疫治療薬
第 8 週	抗アレルギー薬、抗炎症薬
第 9 週	末梢神経系に作用する薬物
第 10 週	中枢神経系に作用する薬物（1） 催眠薬・抗不安薬・抗うつ薬など
第 11 週	中枢神経系に作用する薬物（2） 統合失調薬・パーキンソン病薬など
第 12 週	心臓・血管系に作用する薬物（1） 抗高血圧薬・抗狭心症薬など
第 13 週	心臓・血管系に作用する薬物（2） 利尿薬・抗高脂血症薬など
第 14 週	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬
第 15 週	物質代謝に作用する薬

《Ⅲ群（疾病の成立及び回復の促進）》

科目名	臨床病理病態学Ⅰ（内科系）				
担当者名	大西 隆仁・他				
授業方法	講義	単位・必選	4・必	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期分

《授業のねらい及び概要》

傷病者に対して適切な看護を行うために、それぞれの疾患についての病理病態を知ることが必要である。疾患の病理病態を理解することは、正常な人体の構造、機能や組織と疾患との違いを理解することである。この科目では、看護師に必要な人体の疾患について知識を取得し、理解することが大事である。

《授業の到達目標》

解剖・生理学で学んだ正常な体が異常をきたした状態について学ぶ。このときに、どのような症状・所見が現れるのか、それはどのような仕組みで起こるのかを理解し、さらにどのように診断して治療を行うのかを知識として取得する必要がある。この科目では、看護師に必要な人体の疾患について知識を取得し、理解することを目標とする。

《テキスト》

系統看護学講座 成人看護学（2:呼吸器、3:循環器、4:血液造血器、5:消化器、6:内分泌・代謝、7:能・神経）医学書院、その他資料やプリントを配布する。

《参考文献》

コアテキスト2ー4 疾病の成り立ちと回復の促進 総論、疾病各論1,2 医学書院
 病態生理Ⅰ 症候編 臨床看護セレクション01 金井弘一編、へるす出版
 内科学 コメディカルのための専門基礎テキスト、北村諭編、中外医学社
 よくわかる内科、福山裕三・高杉佑一著、金原出版
 わかりやすい内科学、井村裕夫編、文光堂

《成績評価の方法》

レポートあるいは筆記試験で成績評価を行う。

《授業時間外学習》

テキストの予習を行い、さまざまな疾患について理解しておくこと。レポートを作成し期限内に提出すること。

《備考》

Ⅰ期の講義は、月曜日4限(14:40～16:10)または水曜日2限(10:40～12:10)で、オムニバス形式で行う。お茶と水の摂取のみ許可する。特別に許可した場合を除き、講義中の飲食(ガム、飴を含む)ならびに携帯電話の使用を禁止する。その他、講義室でのルールを守らない場合は、成績評価を行わない場合もあるので注意すること。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	内科学総論(1)
第2週	内科学総論(2)
第3週	腎・尿路疾患(透析含む)1 (外部講師)
第4週	腎・尿路疾患(透析含む)2 (外部講師)
第5週	腎・尿路疾患(透析含む)3 (外部講師)
第6週	膠原病・リウマチ性疾患1 (外部講師)
第7週	膠原病・リウマチ性疾患2 (外部講師)
第8週	アレルギー疾患・免疫不全1
第9週	アレルギー疾患・免疫不全2
第10週	感染性疾患1
第11週	感染性疾患2
第12週	血液・造血疾患1
第13週	血液・造血疾患2
第14週	内分泌疾患1 (外部講師)
第15週	内分泌疾患2 (外部講師)

《Ⅲ群（疾病の成立及び回復の促進）》

科目名	臨床病理病態学Ⅰ（内科系）				
担当者名	オムニバス				
授業方法	講義	単位・必選	4・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期分

《授業のねらい及び概要》

傷病者に対して適切な看護を行うために、それぞれの疾患についての病理病態を知ることが必要である。疾患の病理病態を理解することは、正常な人体の構造、機能や組織と疾患との違いを理解することである。この科目では、看護師に必要な人体の疾患について知識を取得し、理解することが大事である。

《授業の到達目標》

解剖・生理学で学んだ正常な体が異常をきたした状態について学ぶ。このときに、どのような症状・所見が現れるのか、それはどのような仕組みで起こるのかを理解し、さらにどのように診断して治療を行うのかを知識として取得する必要がある。この科目では、看護師に必要な人体の疾患について知識を取得し、理解することを目標とする。

《テキスト》

系統看護学講座 成人看護学（2:呼吸器、3:循環器、4:血液造血器、5:消化器、6:内分泌・代謝、7:能・神経）医学書院、その他資料やプリントを配布する。

《参考文献》

コアテキスト2-4 疾病の成り立ちと回復の促進 総論、疾病各論1,2 医学書院
 病態生理Ⅰ 症候編 臨床看護セレクション01 金井弘一編、へるす出版
 内科学 コメディカルのための専門基礎テキスト、北村諭編、中外医学社
 よくわかる内科、福山裕三・高杉佑一著、金原出版
 わかりやすい内科学、井村裕夫編、文光堂

《成績評価の方法》

レポートあるいは筆記試験で成績評価を行う。

《授業時間外学習》

テキストの予習を行い、さまざまな疾患について理解しておくこと。レポートを作成し期限内に提出すること。

《備考》

Ⅱ期の講義は、水曜日4限(14:40~16:10)で、オムニバス形式で行う。お茶と水の摂取のみ許可する。特別に許可した場合を除き、講義中の飲食（ガム、飴を含む）ならびに携帯電話の使用を禁止する。その他、講義室でのルールを守らない場合は、成績評価を行わない場合もあるので注意すること。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	呼吸器疾患1（外部講師）
第2週	呼吸器疾患2（外部講師）
第3週	呼吸器疾患3（外部講師）
第4週	循環器疾患1（外部講師）
第5週	循環器疾患2（外部講師）
第6週	循環器疾患3（外部講師）
第7週	消化器、腹膜疾患1（外部講師）
第8週	消化器、腹膜疾患2（外部講師）
第9週	肝・胆・膵疾患1（外部講師）
第10週	肝・胆・膵疾患2（外部講師）
第11週	代謝・栄養疾患1（外部講師）
第12週	代謝・栄養疾患2（外部講師）
第13週	神経疾患1（外部講師）
第14週	神経疾患1（外部講師）
第15週	まとめ

《Ⅲ群（疾病の成立及び回復の促進）》

科目名	臨床病理病態学Ⅱ（外科系）				
担当者名	未定				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

別紙参照

《授業の到達目標》**《テキスト》****《参考文献》****《成績評価の方法》****《授業時間外学習》****《備考》****《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	
第 2 週	
第 3 週	
第 4 週	
第 5 週	
第 6 週	
第 7 週	
第 8 週	
第 9 週	
第 10 週	
第 11 週	
第 12 週	
第 13 週	
第 14 週	
第 15 週	

《Ⅲ群（疾病の成立及び回復の促進）》

科目名	臨床病理病態学Ⅲ（周産期・小児科系）				
担当者名	米谷 昌彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

子どもの誕生から次第に成長して次世代の子どもを持つまでの期間を人間のひとつのライフサイクルと捉え、この範囲に関わる医療・保健などを「成育医療」と呼称している。母子医療、小児期・思春期・青年期医療を包括する概念である。この領域では、小児における成長発達の生理的特徴を十分に理解したうえで、疾病の病理病態について学ぶことが求められる。妊娠から出産、胎児から成人に至るまでのさまざまな発達段階における主要な疾患についての病態、治療やケアについて学び、周産期・小児看護の実践に必要な基礎を習得することを目的とする。

《授業の到達目標》

1. 妊娠から出産までの母体の生理、胎児の発育について説明できる。
2. 小児の成長・発達について理解できる。
3. 主要な小児疾患の病態生理を理解し、治療やケアについて説明できる。

《テキスト》

1. 系統看護学講座 専門分野II 母性看護各論（第11版）2008年 医学書院
2. 系統看護学講座 専門分野II 小児臨床看護各論（第12版）2011年 医学書院

《参考文献》

1. 病気がみえる〈vol.10〉産科（第2版）2009年 メディックメディア
2. 看護のための最新医学講座〈14〉新生児・小児科疾患（第2版）2005 中山書店

《成績評価の方法》

学期末の筆記試験 80%
レポート課題などの提出物や小テスト 20%

《授業時間外学習》

各講義の前にその日の講義内容についてあらかじめ教科書を読んで予習しておくこと。
講義の際には可能な限りプリント配布を行うが、講義中に説明できなかった部分については読んで復習しておくこと。

《備考》

講義中にまたは予習、復習時に理解できないことがあれば、必ず質問して疑問を残さないようにしてください。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	生殖医療、妊娠の成立と胎児の発育
第 2 週	妊娠中の母体の生理とその障害
第 3 週	周産期の母児管理
第 4 週	新生児の生理と疾患
第 5 週	先天異常とそのケア
第 6 週	栄養・代謝性疾患・内分泌疾患
第 7 週	免疫疾患・アレルギー疾患
第 8 週	感染症
第 9 週	呼吸器・循環器疾患
第 10 週	消化器疾患
第 11 週	血液・腫瘍性疾患
第 12 週	腎・泌尿器疾患
第 13 週	神経筋疾患、発達障害
第 14 週	こどもの事故と虐待について
第 15 週	小児の保健について

《IV群（基礎看護学）》

科目名	看護技術論Ⅰ（生活技術援助）				
担当者名	小林 廣美・道廣 睦子・森崎 由佳・竹内 美樹				
授業方法	講演	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

学生は、看護の対象者に看護を提供するために必要な看護行為に共通する援助技術と健康的な日常生活行動を促進する援助技術についての基礎的知識・基本的技術および看護者としての態度について学ぶ。学生は、看護実践に必要な基本的看護技術全般について学習する。詳細な目標はその都度提示する。

《授業の到達目標》

1. 看護の対象者に安全・安楽をふまえた看護技術を提供するための基礎的な知識がわかる。
2. 看護の対象者に安全・安楽をふまえた看護技術を提供するための基礎的な技術が実施できる。
3. 看護者としての倫理的態度を身につけることができる。

《テキスト》

系統的看護学基礎講座 基礎看護学2「基礎看護技術Ⅰ」有田清子ら
基礎看護学3「基礎看護技術Ⅱ」藤崎郁ら（医学書院）

《参考文献》

必要時その都度提示する。

《成績評価の方法》

講義や演習への出席、グループやクラスにおける討議の参加の程度や、試験、レポートなどによって総合的に評価する。試験80%、レポート10%、演習への能動的態度10%。

《授業時間外学習》

1. 授業に積極的に参加するには、授業計画にそって教科書や文献を読んだり、提示図書による事前学習をする。
2. 授業終了すれば必ず復習をし、不明な点があれば、自分で文献で調べたり、教員に質問するなど能動的な態度で学習する。
3. 演習後には何度も練習を繰り返し技術を身につける。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	1. 授業に積極的に参加するには、授業計画にそって教科書や文献を読んだり、提示図書による事前学習をする。 2. 授業終了すれば必ず復習をし、不明な点があれば、自分で文献で調べたり、教員に質問するなど能動的な態度
第 2 週	ベットメイキング(講義・演習)
第 3 週	ベットメイキング・リネン交換(講義・演習)
第 4 週	バイタルサイン(講義)
第 5 週	バイタルサイン(講義・演習)
第 6 週	バイタルサイン(講義・演習)
第 7 週	安全を守る技術(講義・演習)
第 8 週	安全を守る技術(演習)
第 9 週	身体の移動に関する援助技術(講義・演習)
第10週	栄養や食事に関する援助技術(講義・演習)
第11週	身体の清潔と衣生活に関する援助技術(講義・演習)
第12週	身体の清潔と衣生活に関する援助技術(講義・演習)
第13週	身体の清潔と衣生活に関する援助技術(講義・演習)
第14週	排泄に関する援助技術(講義・演習)
第15週	援助技術総まとめ

《IV群（基礎看護学）》

科目名	看護技術論Ⅱ（診療技術援助）				
担当者名	道廣 睦子・小林 廣美・森崎 由佳・竹内 美樹				
授業方法	講演	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

健康上の問題により生じる治療や検査を受ける対象を理解し、診療の補助業務における知識・技術を身につけ、安全かつ正確に与薬及び検査が提供できる能力を身につける。特に、対象者の身体に侵襲を伴うケアについて、その適応と意義・目的、原理・原則、安全・安楽への配慮などについて基本的な知識と技術を修得する。

さらに看護場面における教育・指導技術を通して、対象の健康学習、成長を支援するための援助の方法を理解する。

《授業の到達目標》

1. 対象者の身体の侵襲を伴うケアについて、その適応と意義・目的、原理・原則、安全・安楽への配慮などについて基本的な知識と技術を説明することができる。
2. 実施にあたって、クリティカルシンキング、コミュニケーション、アセスメント、エビデンスを常に考慮しながら技術を修得することができる。
3. 個別性を考慮した技術を的確に提供できる。
4. 感染予防、無菌操作の基礎技術が実施できる。

《テキスト》

系統看護学講座 基礎看護技術 2、医学書院

《参考文献》

三上れつ、小松万喜子編集：演習実習に役立つ基礎看護技術、HIROKAWA

《成績評価の方法》

試験、レポートの提出を総合して評価する。

《授業時間外学習》

- ・授業は常に講義、VTR、演習、まとめ（レポート提出）を基本として授業を進めるので、理解が難しかった内容は、その旨申し出てください。
- ・配布資料は必ずファイルしてください。
- ・実習室に入室時は、実習衣ナースシューズを履き、整髪、装飾品は取り除き、清潔感あるよう整えてください。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	検査に伴う看護の方法：（講義） 創傷管理技術：褥創予防ケア：講義
第 2 週	薬物療法に伴う看護の方法：注射（筋肉注射）：講義と演習
第 3 週	薬物療法に伴う看護の方法注射（皮下注射：）講義と演習
第 4 週	薬物療法に伴う看護の方法注射（静脈注射、点滴静脈注射の固定法）：講義と演習
第 5 週	検査に伴う看護の方法：採血：講義と演習
第 6 週	排泄援助技術：導尿、浣腸、（講義と演習）
第 7 週	呼吸を整える技術：酸素吸入・ネブライザー・吸引（講義） 食事援助技術：経管栄養法（講義）
第 8 週	呼吸を整える技術：酸素吸入・ネブライザー・吸引（演習） 食事援助技術：経管栄養法（演習）
第 9 週	包帯法（講義と演習）
第 10 週	指導技術（講義と演習）
第 11 週	総合演習（講義と演習）
第 12 週	看護過程（講義と演習）
第 13 週	看護過程（講義と演習）
第 14 週	看護過程（講義と演習）
第 15 週	看護過程（講義と演習）

《IV群（基礎看護学）》

科目名	基礎看護学実習Ⅱ				
担当者名	小林 廣美・道廣 睦子・森崎 由佳・竹内 美樹				
授業方法	実習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

基礎看護学実習Ⅰを踏まえ、看護の対象である患者の全体像を捉え、その人に応じた基本的な日常生活ができる。又、看護過程の展開を通じて、対象者に応じた援助的関係を形成・発展させる能力を身に付けると共に、科学的かつ論理的な問題解決能力を養う。

《授業の到達目標》

- 1.対象者との関わりを通じて、人間関係の成立・発展を図ることができる。
- 2.対象者に応じた看護過程の展開ができる(情報収集・アセスメント、看護問題、計画、実施、評価)。
- 3.看護学生として倫理的に行動することができる。
- 4.自己の看護実践を言語化し評価することができる。

《テキスト》

既習科目で使用した全てのテキストと参考文献および講義中に配布した資料。

《参考文献》

《成績評価の方法》

評価は、学生が自己の実習目標達成度を認識し、さらに担当教員による客観的な評価から実習の成果と今後の課題を確認する機会とする。具体的な実習評価は、実習目標達成度、服装・態度、学習態度、グループの振り返り会、レポート、発表の項目で基礎看護学実習Ⅱ評価表を用いて評価する。60点以上を合格とする。

《授業時間外学習》

- 1.事前に実習病棟と病棟の特徴を提示するので、事前学習を行うこと
- 2.看護過程の展開の方法をしっかりと身につけること。
- 3.その人に合った日常生活の援助をするので事前学習を積んでおくこと。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	内容の詳細は実習要項で提示する。
第 2 週	
第 3 週	
第 4 週	
第 5 週	
第 6 週	
第 7 週	
第 8 週	
第 9 週	
第 10 週	
第 11 週	
第 12 週	
第 13 週	
第 14 週	
第 15 週	

《V群（成人・老年看護学）》

科目名	成人看護学概論				
担当者名	坂上 晶代				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

成人期は、ひとの一生の中で最も長く、最も充実し、そして特徴的な節目が存在する時期です。この科目では、成人期の特徴をふまえた看護実践と看護の本質、看護の心、看護の実践に必要な理論や倫理的課題について学びます。基礎看護学領域で習得した知識・技術を活用し、自発的・積極的に学ぶ姿勢が求められます。

《授業の到達目標》

1. 成人期にある人の健康と健康課題について理解できる。
2. 成人看護の実践に必要な理論を学習できる。
3. 成人看護の実践を学習できる。

《テキスト》

成人看護学概論(第2版) 大西和子、岡部聡子編(Nouvelle Hirokawa, 東京) 2009.

《参考文献》

適宜指示。

《成績評価の方法》

定期試験 60%、単元ごとのミニレポート 20%、グループワークへの貢献度 20%
出席日数が全体の 2/3 に満たない場合は単位認定を行いません。
ミニレポートの提出をもって出席とみなします。

《授業時間外学習》

自己学習ノートを作成し、参考書等を用いて単元ごとに学習内容を整理すること。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	成人看護学の概念と特性
第 2 週	成人期にある人の健康と健康課題
第 3 週	成人看護における倫理と看護者の役割
第 4 週	成人看護に使用される理論・モデル 1(グループワーク)
第 5 週	成人看護に使用される理論・モデル 2(グループワーク)
第 6 週	成人看護に使用される理論・モデル 3(グループワーク)
第 7 週	成人看護に使用される理論・モデル 4(発表)
第 8 週	成人看護に使用される理論・モデル 5(発表)
第 9 週	成人看護に使用される理論・モデル 6(まとめ)
第 10 週	成人期の特徴をとらえた看護過程
第 11 週	成人看護実践の方法
第 12 週	継続看護と健康教育
第 13 週	社会資源と政策、ソーシャルポート
第 14 週	死にまつわる文化・倫理的課題
第 15 週	総括およびテスト

《V群（成人・老年看護学）》

科目名	老年看護学概論				
担当者名	齋藤 智江				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

老年期にある患者について理解を深め、高齢社会へ適応できるだけの知識を得て、対応できる能力を培う基礎とする。
加齢変化・高齢者の QOL 等考えた看護展開ができるための土台となる知識を得て、老年看護の専門性を理解できるようにする。
高齢者看護における倫理的責務について考えることができる。

《授業の到達目標》

老年看護の概念、加齢現象、高齢者の QOL、老年看護の専門性について理解ができる。
高齢者看護における看護職者の倫理的責務について考えることができる。
高齢社会における現状と課題を理解できる。
高齢者保健・福祉政策について理解できる。
高齢者看護に用いられる理論について理解できる。

《テキスト》

『系統看護学講座 老年看護学』医学書院 2011

《参考文献》

『ナーシング グラフィカ 高齢者の健康と障害』2011
『老年看護学』ヌーベルヒロカワ
『シリーズ 生活をささえる看護』中央法規
『よくわかって役立つ 新 褥創のすべて』永井書店
『患者ケアの臨床心理』医学書院

《成績評価の方法》

グループワークでの参加態度や内容 20%
課題提出 30%
筆記試験 50%

《授業時間外学習》

課題をグループワークにてまとめる
選択課題図書を提示するので 2 冊以上読んでレポート提出(詳細は別紙)

《備考》

『老い』について色々な角度から考えてもらいます。周囲の高齢者の方々との交流も心がけてください。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	高齢者の理解 ライフサイクルにおける老年期の特徴
第 2 週	老年期における健康問題
第 3 週	高齢者を取り巻く社会 高齢者の社会保障と看護の役割
第 4 週	高齢者看護の基本 高齢者の日常生活と基本的アプローチ
第 5 週	認知症高齢者の理解と看護
第 6 週	高齢者と看取りケア
第 7 週	高齢者と退院調整
第 8 週	介護保険サービスにおける施設と在宅におけるケアの実際
第 9 週	高齢者看護に用いられる理論
第 10 週	『高齢者疑似体験後の気づき』グループワーク
第 11 週	『加齢による変化・老いについて』グループワーク課題発表
第 12 週	『高齢者の虐待』グループワーク課題発表
第 13 週	『身体拘束と身体抑制』グループワーク課題発表
第 14 週	『高齢者の倫理的側面・成年後見制度等制度との関連』グループワーク課題発表
第 15 週	筆記試験

《VI群（母性・小児看護学）》

科目名	母性看護学概論				
担当者名	若井 和子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

女性のライフステージにおける社会的・身体的・心理的特性を学ぶことにより、なぜ、母性看護が必要とされるのか、その意義について考えます。さらに母性看護の役割をふまえ、看護の実践者として、基礎的能力を養うことをねらいとします。

《授業の到達目標》

- 1.女性のライフステージおよび新生児の生理的变化について学習し、対象の各期における必要な看護を説明することができる。
- 2.現代社会における女性の社会的状況、生活、家族に関する事象を多角的に考察することができる。

《テキスト》

「ナーシング・グラフィカ 30 母性看護実践の基本」横尾京子他 メディカ出版
「系統看護学講座 母性看護学概論」石井邦子他 医学書院

《参考文献》

「新体系看護学 32 母性看護概論・母性保健」新道幸恵他 メヂカルフレンド
「新体系看護学 33 妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護」新道幸恵他 メヂカルフレンド
「ウイメンズヘルスナーシング ウイメンズヘルスナーシング概論 女性の健康と看護」高橋真理他 スーヴェルヒロカワ
「ウイメンズヘルスナーシング 女性のライフサイクルとナーシング 女性の生涯発達と看護」高橋真理他 スーヴェルヒロカワ

《成績評価の方法》

評価方法は、小テスト（30%）、定期試験（70%）で行います。

《授業時間外学習》

生理的な身体機能の変化を理解するために、講義中に、DVD、文献を紹介しますので、自己学習に活用してください。受講後、必ずテキストを読んで復習してください。さらに国家試験問題集を活用して自己の学習成果を確認するとともに、わからない箇所について調べ、理解を深めてください。

《備考》

学習した単元に該当するテキストの部分を必ず読んでノートの整理を行って下さい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	母性看護の概念：母性とは、母性看護学の意義と役割、人口動態と母子保健
第 2 週	母性看護の特性：女性を取り巻く社会環境、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、ヘルスプロモーション
第 3 週	母性看護職者の法的責任と倫理①：看護者の法的責任、母性看護における法的倫理的責任
第 4 週	母性看護職者の法的責任と倫理②：母性看護における倫理的配慮、母性看護における安全・事故予防
第 5 週	女性のライフステージとヘルスケア①：ヒトの発生、性周期と生殖機能、家族計画
第 6 週	女性のライフステージとヘルスケア②：思春期女性の健康と課題
第 7 週	女性のライフステージとヘルスケア③：周産期における母子の健康と課題
第 8 週	女性のライフステージとヘルスケア④：妊娠期の健康と課題（母体の変化と胎児の発育）
第 9 週	女性のライフステージとヘルスケア⑤：妊娠期の健康と課題（妊婦の特性）
第 10 週	女性のライフステージとヘルスケア⑥：分娩期の健康と課題（分娩の3要素と分娩の経過）
第 11 週	女性のライフステージとヘルスケア⑦：分娩期の健康と課題（産婦の特性）
第 12 週	女性のライフステージとヘルスケア⑧：産褥期の健康と課題（褥婦の特性）
第 13 週	女性のライフステージとヘルスケア⑨：新生児期の健康と課題（新生児の特性）
第 14 週	女性のライフステージとヘルスケア⑩：更年期、老年期にある女性の健康と課題
第 15 週	女性のライフステージとヘルスケア⑪：リプロダクティブヘルスケア

《VI群（母性・小児看護学）》

科目名	小児看護学概論				
担当者名	川上 あずさ				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

小児看護は、小児と家族の発達段階を理解し、小児と家族がもっている力が最大限に発揮できるよう援助を行っていくことが大切です。小児看護学概論では、そのための基礎知識を学びます。

《授業の到達目標》

小児と家族の発達段階を理解し、看護を実践するための基礎的知識を習得できる。

《テキスト》

小児看護学1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院

《参考文献》

小児看護学概論 南江堂
看護のための人間発達学 医学書院

《成績評価の方法》

定期試験 90%、レポート等の提出物 10%で評価します。

《授業時間外学習》

授業計画で示された内容についての予習・復習をしてください。

《備考》

日常で会える子どもや、子どもを取り巻く環境、情報についての関心を高めてください。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	小児看護とは
第 2 週	小児看護の変遷と課題 子どもの権利と小児看護における倫理
第 3 週	小児看護で用いられる理論
第 4 週	子どもと家族
第 5 週	子どもの成長・発達の原則 発達の評価
第 6 週	乳児期の子どもの成長・発達と看護 1
第 7 週	乳児期の子どもの成長・発達と看護 2
第 8 週	幼児期の子どもの成長・発達と看護 1
第 9 週	幼児期の子どもの成長・発達と看護 2
第 10 週	幼児期の子どもの成長・発達と看護 3
第 11 週	学童期の子どもの成長・発達と看護 1
第 12 週	学童期の子どもの成長・発達と看護 2
第 13 週	思春期の子どもの成長・発達と看護
第 14 週	現代の子どもがおかれている状況や問題
第 15 週	子どもと家族の健康を支える社会制度

《VI群（母性・小児看護学）》

科目名	小児看護援助論				
担当者名	川上 あずさ・池田 友美				
授業方法	講演	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

小児看護援助論は、小児看護学概論で理解した小児と家族の発達段階をふまえ、さまざまな健康の状況にある小児と家族への援助について学びます。

《授業の到達目標》

さまざまな健康の状況にある小児と家族の看護を行うための、知識や思考過程、技術を習得できる。

《テキスト》

小児看護学1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
 小児看護学2 小児臨床看護各論 医学書院

《参考文献》

小児看護技術 メディカ出版
 こどものフィジカルアセスメント 金原出版

《成績評価の方法》

定期試験 70%、課題レポート・演習レポート 30%で評価します。

《授業時間外学習》

効果的な演習ができるよう、演習内容の事前学習をして臨んでください。

《備考》

演習が多くなります。学習者、援助者としての自覚をもった姿勢を期待します。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	子どもが病気になるということ 外来、入院における小児と家族の看護
第 2 週	小児のフィジカルアセスメント 演習
第 3 週	検査や処置を受ける小児と家族の看護 演習
第 4 週	症状別にみる小児の看護 1 事例検討
第 5 週	症状別にみる小児の看護 2 事例検討
第 6 週	症状別にみる小児の看護 2 事例検討
第 7 週	急性期にある小児と家族の看護 2 事例検討
第 8 週	急性期にある小児と家族の看護 3 演習
第 9 週	慢性期にある小児と家族の看護 1 事例検討
第 10 週	慢性期にある小児と家族の看護 2 演習
第 11 週	救急における小児と家族の看護 手術を受ける小児と家族の看護
第 12 週	障がいのある小児と家族の看護 事例検討
第 13 週	在宅で療養する小児と家族の看護 事例検討
第 14 週	終末期にある小児と家族への看護 事例検討
第 15 週	これからの小児看護の方向性

《Ⅶ群（精神・在宅・地域看護学）》

科目名	精神看護学概論				
担当者名	加藤 知可子・南川 博康				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

精神看護の対象は、精神を病む人のみならず、生を受けて間もない新生児から死の訪れを間近にした人まで、成長発達過程のあらゆる段階の人々を含んでいる。社会生活における精神の健康と危機的状況及びそれらに影響を与える様々な要因を幅広い視野をもって理解し、健全な精神発達への援助を思考するために必要な知識を教授する。

《授業の到達目標》

心の健康を保持・増進するために必要な基礎知識を修得し、精神医療に関連する基本的な概念を理解する。また、心の障害を持つ対象者への看護について学ぶ。

《テキスト》

『精神看護学Ⅰ精神保健学』第4版 吉松和哉他編 ヌーヴェルヒロカワ
 『精神看護学Ⅱ精神臨床看護学』第4版 川野雅資編 ヌーヴェルヒロカワ

《参考文献》

『精神看護学ノート』第2版 武井麻子 医学書院
 『精神医療看護の歩み』 宮内 充 勁草書房
 その他、講義の中でも紹介します。

《成績評価の方法》

試験 70%、平常評価 30%（小テスト、レポート、受講態度など）により総合的に評価する。

《授業時間外学習》

精神看護学概論に関する図書・資料を読み、予習・復習を行う。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	精神保健・医療・看護の歴史
第 2 週	精神保健看護の概念
第 3 週	精神科医療に関する法律 精神保健福祉法 障害者自立支援法 医療観察法
第 4 週	精神の発達と健康
第 5 週	人格の成熟と人間関係の発展
第 6 週	ストレスと危機
第 7 週	精神神経医学各論 1 統合失調症
第 8 週	精神神経医学各論 2 感情障害
第 9 週	精神神経医学各論 3 神経症性障害
第 10 週	精神神経医学各論 4 癲癇 器質性障害
第 11 週	精神神経医学各論 5 物質障害 人格障害
第 12 週	精神神経医学各論 6 リエゾン精神医学
第 13 週	患者・家族のこころ
第 14 週	看護という職業
第 15 週	学習のまとめと試験

《Ⅶ群（精神・在宅・地域看護学）》

科目名	在宅看護概論				
担当者名	式 恵美子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

対象には、健康課題については慢性疾患を抱えながら療養生活をしている人や障害を持って暮らしている人などさまざまな価値観を持って地域で生活している人があり、家族も含めて一体としてケアする在宅看護学の特徴を学ぶ。対象を支援するために在宅ケアシステムとしての介護保険制度をやチームケア体制および社会資源の活用について学ぶ。

《授業の到達目標》

在宅看護の歴史について理解する。
 在宅看護を必要とする社会背景について理解する。
 在宅看護を受ける療養者とその家族について理解する。
 在宅看護に関連する法規について理解する。
 在宅看護における倫理的課題を理解する。

《テキスト》

《参考文献》

渡辺裕子監修「在宅看護論Ⅰ」概論編
 渡辺裕子監修「在宅看護論Ⅱ」実践編
 厚生労働白書 国民衛生の動向 高齢社会白書 国民の福祉の動向

《成績評価の方法》

定期試験による評価（90%）
 課題の提出の状況（10%）

《授業時間外学習》

自分の関係する市区町村の介護保険制度を調べる。
 介護保険制度を利用している人へのインタビュー。
 道路や住宅のバリアフリー状況を観察する。
 その他随時提示する。

《備考》

レポートを書く時は、レポートの記載要領を考えてください。
 レポートには文献を提示してください。
 レポート提出の期限を厳守してください。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	導入： 在宅看護関連の養護
第 2 週	在宅看護の歴史
第 3 週	在宅療養者と家族
第 4 週	在宅療養者と家族
第 5 週	在宅療養者と家族
第 6 週	在宅看護を巡る社会状況と政策の変遷
第 7 週	在宅看護を巡る社会状況と政策の変遷
第 8 週	介護保険制度
第 9 週	介護保険制度
第 10 週	介護保険制度
第 11 週	福祉用具と住宅改修
第 12 週	福祉用具と住宅改修
第 13 週	障害を持って暮らす人の理解 関係職種とチームケア，社会資源の活用
第 14 週	在宅療養者の権利擁護，倫理的課題
第 15 週	まとめ

《Ⅶ群（精神・在宅・地域看護学）》

科目名	地域看護学概論				
担当者名	芝田 ゆかり				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

潜在・顕在する地域の人々の健康問題に対応した地域看護活動の理念(原理・原則)を学ぶ。地域住民全体を捉える視点および予防的視点からの健康水準の向上をめざす地域看護の概念を学習する。

《授業の到達目標》

地域で生活する個人・家族・集団全てを対象とし、健康レベルや地域の特性に応じた健康の保持増進や疾病発生及び悪化の予防を支援するための看護の基礎を理解できる。

《テキスト》

標準保健師講座1『地域看護学概論』編著／奥山則子他 医学書院
『保健医療福祉行政論（標準保健師講座別巻1）』医学書院

《参考文献》

国民衛生の動向 厚生統計協会
その他適宜、講義時に紹介予定

《成績評価の方法》

筆記試験（70%）、出席状況・態度等（15%）、小テスト・レポート等（15%）で総合評価する。

《授業時間外学習》

予習と復習を行い、理解に努めること

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	地域看護とは、地域看護学の成立基盤（1）：公衆衛生看護活動の理念
第 2 週	地域看護学の成立基盤（2）：地域看護活動の歴史
第 3 週	地域看護学の成立基盤（3）：基本概念とその活用①
第 4 週	：基本概念とその活用②
第 5 週	地域看護学の構成（1）：地域看護の活動分野
第 6 週	地域看護学の構成（2）：活動対象
第 7 週	地域看護学の構成（3）：活動方法
第 8 週	社会環境の変化と健康課題（1）：社会情勢の変遷
第 9 週	社会環境の変化と健康課題（2）：国際交流・国際協力、災害、危機管理
第 10 週	社会環境の変化と健康課題（3）：健康に影響する生活環境要因と社会要因
第 11 週	地域の人々の保健関連行動（1）：健康課題への個人の対処行動
第 12 週	地域の人々の保健関連行動（2）：健康課題への地域組織の対処行動
第 13 週	家族看護論
第 14 週	地区活動論
第 15 週	地域看護で用いる理論

《Ⅶ群（精神・在宅・地域看護学）》

科目名	学校保健概論				
担当者名	杉原 トヨ子				
授業方法	講義	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

- ・地域看護学Ⅲでの学校保健、養護概説、看護学領域で学習したことを基に、学校教育における学校保健関係職員とその、役割、学校保健推進の中核的役割をなす専門職としての養護教諭の職務の特質と役割を総合的に学習する。児童生徒の保健管理・保健指導（健康教育）の現状について、学校教育活動として教職員の学校保健の役割と養護教諭の連携などについて学習する。

《授業の到達目標》

- ・学校教育の専門職としての養護教諭の職務の特質と役割を総合的に理解できる。

《テキスト》

- ・地域看護学Ⅲテキスト、および学校保健関連で使用したテキスト

《参考文献》

- ・学校保健の動向、国民衛生の動向、学校関連統計資料

《成績評価の方法》

- ・定期試験（70%）、授業態度（10%）、レポート（20%）

《授業時間外学習》

- ・学校保健および関連科目についての事前学習に関するレポート作成と提出

《備考》

- ・定期試験は3分の2以上出席が原則である。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション、学校保健の仕組み、学校保健従事者とその役割
第 2 週	学校教育計画における学校保健計画と実践活動の養護教諭の役割
第 3 週	児童生徒の健康管理：健康観察から健康把握そして健康診断
第 4 週	児童生徒の健康管理：健康の診断の事後指導と保健指導
第 5 週	児童生徒の健康管理：保健室経営および学校環境管理と取り組み
第 6 週	障害児や病気の子どもに対する健康管理
第 7 週	保健学習：幼稚園、小学校編
第 8 週	保健学習：中学校編
第 9 週	保健学習：高校編
第10週	保健学習：大学編
第11週	養護教諭に必要な看護実践能力1
第12週	養護教諭に必要な看護実践能力2
第13週	養護教諭に必要な看護実践能力3
第14週	養護教諭に必要な看護実践能力4
第15週	学校保健に必要な地域連携と社会資源

《Ⅸ群（関連）》

科目名	養護概説				
担当者名	杉原 トヨ子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

児童・生徒の心身の健康を保持増進させるために求められる、養護教諭の専門性と役割及び保健室の機能について学習する。また、これからの学校保健活動においては、学校内外のネットワークづくりが重要であり、学校保健関係職員の特性と役割について正しく理解し、養護教諭の独自性について考える。さらに養護教諭の職務内容を学び、養護教諭の資質能力の向上について考え、その専門性を明確にする。

《授業の到達目標》

養護教諭の仕事の内容およびその専門性について理解できる。

養護活動に関しては、実際の場面を想定して、指導計画を立て、必要な教材研究を行い、自らも実施することができる。

《テキスト》

- ・新版・養護教諭執務の手引き第5版（東山書房）
- ・杉浦守邦他；養護教諭講座Ⅰ 養護概説（東山書房）

《参考文献》

- ・石原昌江他；養護教諭フィジカルアセスメントによる救急処置と保健指導（東山書房）
- ・石原昌江他；養護活動における保健指導1・2・3

《成績評価の方法》

- ・レポート（30%）、定期試験（70%）により評価する。

《授業時間外学習》

- ・学校保健に必要な法規，社会資源，小児保健，および教職員に対する成人保健に関する復習は必須である。

《備考》

- ・定期試験は単位規定回数3分の2以上の出席が原則。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	教育行政と教育関連法規
第 2 週	養護の本質と概念および歴史
第 3 週	養護教諭の動向と専門性の過程
第 4 週	養護教諭に必要な能力
第 5 週	養護教諭に必要な能力教育における養護活動の位置づけ
第 6 週	養護教諭の職務と学校保健計画および養護活動と保健室の経営方針
第 7 週	養護教諭活動の本質
第 8 週	養護教諭活動の展開
第 9 週	養護教諭に必要な救急活動処置
第 10 週	養護教諭が行う健康相談活動および健康問題に応じた養護活動
第 11 週	保健教育活動 Ⅰ) 個別保健指導 Ⅱ) 集団保健指導
第 12 週	養護教諭活動の技術Ⅰ 養護活動における保健指導
第 13 週	養護教諭活動の技術Ⅱ 特別支援教育と養護
第 14 週	養護教諭と研究（研究の種類と方法並びに実際）
第 15 週	養護教諭と研究 プレゼンテーション

《教職に関する科目》

科目名	教育心理学				
担当者名	大平 曜子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

教育心理学は一般心理学の応用部門であり、また教育科学の一分野です。教育が生きた人間を扱う実践的な営みであることから、教育心理学も対象である子どもたちの人間形成に関わる科学として、独自の理論と方法を提示しなければなりません。受講者には、子どもの立場と教師の立場を考えながら、しかし、教室だけでなく、社会で応用できる教育心理学を理解し、人間科学的視点を養っていただきたい。

授業では、広範な領域の中から「発達」と「学習」に重点を置き、パーソナリティと適応、測定と評価や学級集団、教師の心理なども含めて、教育実践に役立つ心理学とは何かを考えていきます。また、事例により実感を持って理解するとともに、教育者としての立場や役割、教育の楽しさに気づくこともねらいの一つです。

《授業の到達目標》

- 教育に関する心理学的事実や法則を説明できる。
- 教育心理学を自らの学習や教職希望者としての態度の形成に役立てる。
- 教育効果の検証ができる。

《テキスト》

配布プリントを使用する

《参考文献》

「絶対役立つ教育心理学」藤田哲也編著 ミネルヴァ書房
その他、適宜紹介する

《成績評価の方法》

課題レポートの提出（40%）、定期試験（60%）とし、100点満点で、60点以上を合格とする。
授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者は最終試験の受験資格はない。

《授業時間外学習》

プリントに基づいて授業内容を振り返り、ノートの整理や専門用語の確認をおこなう。
課題レポートは、適宜紹介する参考文献等を活用して作成する。

《備考》

目的意識を持ち、主体的に授業に臨むこと。プリントやノートに書き込みをし、自分のノートをつくること。
受講者は、毎時間の終了時に「本時の振り返り」を記入し、学習内容を明確にします。
教師を目指す者には、ふさわしい授業態度と取り組みの姿勢を期待します。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション（授業の進め方について、教育心理学を学ぶ意味について）
第 2 週	教育心理学の課題（教育心理学の定義、心理学との関係、教育心理学の意義と役割、方法について）
第 3 週	発達の基礎理論（1）発達原理 発達の学説
第 4 週	発達の基礎理論（2）発達の様相 成熟と発達 発達課題
第 5 週	学習の基礎理論（1）学習成立の過程と学習理論
第 6 週	学習の基礎理論（2）学習の方法 学習成立の過程
第 7 週	学習の基礎理論（3）記憶と学習
第 8 週	学習の基礎理論（4）動機とやる気 学習意欲と学習活動
第 9 週	教授過程（1）学習指導法（2）授業の最適化
第 10 週	知能とは、学力とは、何か
第 11 週	測定と評価（1）評価の意義と役割（2）学力評価、知能測定
第 12 週	測定と評価（3）評価の実際
第 13 週	パーソナリティ理論、適応障害
第 14 週	集団の機能と構造、人間関係、集団による学習指導
第 15 週	教師の役割 学習のまとめ

《教職に関する科目》

科目名	教育課程論（道徳、特別活動を含む）				
担当者名	上寺 常和				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

現在の小学校・中学校・高等学校における教育課程の枠組みと内容を理解することが、この講義の眼目である。そのために以下の項目を中心に論ずる。

- (1) わが国の教育改革の歴史と教育課程の変遷について
- (2) 教育課程の意義と目的について
- (3) 教育課程及び学習指導要領編成の内容について
- (4) 道徳教育及び特別活動の内容について

《授業の到達目標》

教育課程とは何か、教育課程はどのように編成されるか、編成された教育課程はどのような形態を持つか、わが国の教育課程は歴史的にどのように変遷してきたか、現在の小・中・高校の教育課程はどのような特徴をもつか等について、主体的に考えることができる。

《テキスト》

1. 『新しい教育課程論』 広岡 義之編著 (ミネルヴァ書房) 2010年

《参考文献》

必要があれば講義の際に紹介する。

《成績評価の方法》

講義中の発表・態度 50%、講義中の小テスト 50%。
授業欠席回数が授業実施回数の 1/3 以上の者には単位を与えない。

《授業時間外学習》

教科書等の指定箇所を熟読して、内容を把握しておくこと。

《備考》

この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人、あるいは教育問題に強い関心を持つ人達のためであるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。また特に自ら進んで講義内容に関心を持ち、関連事項を積極的に勉強する姿勢が必要である。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	本講義のオリエンテーション
第 2 週	教育課程の意義
第 3 週	学習指導要領の意義と内容の歴史的変遷（1）
第 4 週	学習指導要領の意義と内容の歴史的変遷（2）
第 5 週	教育課程編成の教育目的・目標および社会的基盤
第 6 週	教育課程の諸形態について
第 7 週	教育課程の編成（幼稚園）
第 8 週	教育課程の編成（小学校）
第 9 週	教育課程の編成（中学校）
第 10 週	教育課程の編成（高等学校）
第 11 週	道徳教育の内容について
第 12 週	教育課程における特別活動の意義・役割・位置づけ
第 13 週	総合的な学習の時間の取り扱いについて
第 14 週	教育課程実施上の配慮事項について
第 15 週	新しい学習指導要領の変更点について

《教職に関する科目》

科目名	教育方法・技術論				
担当者名	湯瀬 晶文				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

人が生きていく上で「教えること」「教わること」はごく普通のことといえる。そのため、「教える人」になった経験は多くの人が持っていると思う。教える内容は学校に関係があるとは限らない。レポートに困っている友達に説明することももちろんであるが、スマートフォンの使い方について実際に操作してみせる事も「教えること」である。このように人に教えることは非常に身近なことであるが、いつもうまく教えられかどうかは保証の限りではない。1対1で教える場合であっても難しいこともあるが、それが1対多（数十）であればなおさらである。しかし、「学校で教える」という時には1対多の状況で授業参加者全員に教えることが求められる。

本授業では、「学校で教える」ことを念頭に、わかりやすい授業の設計や教材の研究、教具の利用について学び、模擬授業などを通して体験的に理解することを目指す。また、近年必須となっている情報に関する内容も取り扱う予定である。なお、内容はオリエンテーションや受講生の状況により変更することもある。

《授業の到達目標》

授業では、基本的・基礎的指導方法及び指導技術をつけることを目標とする。すなわち、基本的・基礎的な意味で教育方法の基本原則がわかること、教材研究の方法がわかること、授業の構成方法がわかること、授業時の指導力を修得すること、情報メディア等の活用方法の修得を目指す。

《テキスト》

特に指定しない（必要に応じてオンラインでのファイル配付等を行う）。

《参考文献》

幼稚園・小学校・中学校・高等学校の学習指導要領
『視聴覚メディアと教育』 山口榮一著 玉川大学出版部
『教育の方法と技術』 平沢茂編著 図書文化
『教育の方法と技術』 柴田義松ほか 学文社

《成績評価の方法》

毎回の授業・課題への取り組みとその仕上がりを主として評価する（100%）が、詳細は初回授業時に決定する。
なお、私語や携帯電話の利用など、授業・他者へ悪影響を与える行為は常に厳しく評価を行う。

《授業時間外学習》

毎回のように課題が出るので、時間をかけて取り組む必要がある。また、課題に合わせて配布資料の熟読、教材研究・作成の準備も行う必要がある。

授業は前回までの課題を完成させていることを前提に行われる。万一授業を欠席する場合は、次回の授業までに授業内容を確認し、課題を完成させておくこと。

《備考》

教師を志す者にふさわしく秋学期の講座にも意欲的かつ積極的に取り組むことを期待します。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション 教育方法・技術を学ぶ意義と授業の計画、受講者の意見確認
第 2 週	学ぶことと教えること
第 3 週	教育方法と技術
第 4 週	学力観と評価
第 5 週	教材と教具
第 6 週	情報の収集と処理
第 7 週	授業における人間関係とコミュニケーション
第 8 週	授業設計の方法と実践（1）
第 9 週	授業設計の方法と実践（2）
第10週	授業評価の方法について
第11週	自作教材による模擬授業と討論（1）
第12週	自作教材による模擬授業と討論（2）
第13週	自作教材による模擬授業と討論（3）
第14週	授業改善について
第15週	まとめ

《教職に関する科目》

科目名	生徒指導論（進路指導を含む）				
担当者名	上寺 常和				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

「生きる力」（確かな学力・豊かな人間性・健康と体力）を積極的に推進するには、生徒指導、進路指導、いわゆるガイダンス・カンセリングが必要不可欠である。本講義では、このような生徒の全人的な育成を主眼とした生徒指導と進路指導を目指し、それぞれの事項についての深い理解ができることをねらいとする。

《授業の到達目標》

学校教育における生徒指導と進路指導の意義と役割を明らかにする。生徒指導と進路指導とは生徒が自己実現を図るためには車の両輪のように必須の内容であり、学校教育の上で重要な位置を占めるものである。本講義では現代における生徒指導及び進路指導の在り方の確立を目指す。

《テキスト》

『新しい生徒指導・進路指導』加澤恒雄・広岡義之編著（ミネルヴァ書房）2007年

《参考文献》

必要に応じて講義の際に適宜紹介する。

《成績評価の方法》

講義中の発表・態度 50%、講義中の小試験 50%。
授業欠席回数が授業実施回数の 1/3 以上の者には単位を与えない。

《授業時間外学習》

教科書等の指定箇所を熟読し、内容を把握しておくこと。

《備考》

この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人、あるいは教育問題に強い関心を持つ人達のためにあるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。また特に自ら進んで講義内容に関心を持ち、関連事項を積極的に勉強する姿勢が必要である。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	本講義のオリエンテーション
第 2 週	生徒指導の教育的意義と課題
第 3 週	生徒指導の原理と理論
第 4 週	児童・生徒理解の進め方
第 5 週	学級経営の進め方
第 6 週	教科指導と生徒指導
第 7 週	生徒指導実践における教師像と研修
第 8 週	学校の生徒指導体制と家庭・地域との連携
第 9 週	進路指導の意義と課題
第 10 週	自己の発見と自我同一性の確立
第 11 週	就労観・職業観の形成と変容
第 12 週	進路指導実践の学校体制
第 13 週	学校教育における進路指導の実践展開（1）
第 14 週	学校教育における進路指導の実践展開（2）
第 15 週	本講義のまとめと重要箇所の復習

平成 21 年度 (2009 年度) 入学者

卒業要件単位数

科目区分		卒業必要単位	内必修単位と科目数	
基礎・教養科目		26 単位	12 単位	6 科目
専門教育科目	専門基礎科目	22 単位	22 単位	9 科目
	専門実践科目	68 単位	68 単位	37 科目
	総合科目	6 単位	6 単位	3 単位
	関連科目	—	—	—
	基礎科目	2 単位	2 単位	1 単位
合 計		124 単位	110 単位	56 科目

カリキュラム年次配当表

看護学科 平成21年度（2009年度）入学者対象
 ()は兼担、[]は兼任講師

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		看護師	保健師	養護教諭一種	学年配当(数字は週当り授業時間)								平成23年度の担当者	ページ
			必修	選択				1年		2年		3年		4年			
								I	II	I	II	I	II	I	II		
専門基礎科目	I群(健康支援と社会保障制度)	社会福祉論	講義	2				2									
		家族関係論	講義	2					2								
		精神保健	講義	2				○	2								
		環境衛生学	講義	2				○			2					(多田 章夫)・久井 志保	56
		保健福祉行政論	講義	2		◇	□				2						
		公衆衛生学(疫学含)	講義	2		◇	□	○			2						
		保健統計学	講義	2		◇	□	○			2						
	II群(人体の構造と機能)	基礎生物学	講義	2					2								
		形態機能論	講義	4		◇	□	○	4								
		生化学	講義	2					2								
		栄養学(食品学を含む)	講義	2		◇	□	○	2								
		薬理学	講義	2		◇	□	○	2								
		免疫・微生物学	講義	2		◇	□	○	2								
	III群(及び回復の促進)	臨床病理病態学Ⅰ(内科系)	講義	4		◇	□				4						
		臨床病理病態学Ⅱ(外科系)	講義	2		◇	□				2						
		臨床病理病態学Ⅲ(周産期・小児科系)	講義	2		◇	□				2						
	専門教育科目	IV群(基礎看護学)	看護学概論	講義	2		◇	□	○	2							
			看護理論	講義	1		◇	□	○	1							
			ヘルスアセスメント	講演	1				○	2							
			看護技術論Ⅰ(生活技術援助)	講演	2		◇	□	○			4					
			看護技術論Ⅱ(診療技術援助)	講演	2		◇	□	○			4					
基礎看護学実習Ⅰ			実習	1		◇	□	○	3								
基礎看護学実習Ⅱ			実習	2		◇	□	○			6						
看護教育学			講義	1		◇	□					1				道廣 睦子	57
看護管理学			講義	1		◇	□					1				小林 廣美	58
専門実践科目	V群(成人・老年看護学)	成人看護学概論	講義	2		◇	□	○			2						
		成人看護援助論Ⅰ(生命危機状態にある人)	講義	2		◇	□	○			2				大植 崇・坂上 晶代	59	
		成人看護援助論Ⅱ(常態の維持・増進が困難な人)	講義	2		◇	□	○			2				山下 裕紀・高橋 直美	60	
		成人看護学実習Ⅰ	実習	3		◇	□					9			高橋・大植・山下・坂上	61	
		成人看護学実習Ⅱ	実習	3		◇	□					9			山下・高橋・大植・坂上	62	
		老年看護学概論	講義	2		◇	□				2						
		老年看護援助論	講義	2		◇	□				2				齋藤 智江	63	
		老年看護学実習Ⅰ	実習	2		◇	□					6			齋藤 智江	64	
		老年看護学実習Ⅱ	実習	2		◇	□					6			齋藤 智江	65	
		専門実践科目	VI群(母性・小児看護学)	母性看護学概論	講義	2		◇	□	○			2				
母性看護援助論	講演			2		◇	□	○				4			秦 久美子・若井 和子	66	
母性看護学実習	実習			2		◇	□					2			若井 和子・秦 久美子	67	
小児看護学概論	講義			2		◇	□	○			2						
小児看護援助論	講演			2		◇	□	○			4						
小児看護学実習	実習			2		◇	□	○				6			川上 あずさ・池田 友美	68	

カリキュラム年次配当表

看護学科 平成21年度（2009年度）入学者対象
 （ ）は兼担、[]は兼任講師

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		看護師	保健師	養護 教諭 一種	学年配当(数字は週当たり授業時間)								平成23年度の 担当者	ページ						
			必修	選択				1年		2年		3年		4年									
								I	II	I	II	I	II	I	II								
専 門 実 践 科 目	VII 群 精神看護学概論	講義	2		◇	□	○					2											
	精神看護援助論	講義	2		◇	□	○						2								加藤 知可子・眞野 祥子 69		
	精神看護学実習	実習	2		◇	□	○							6							加藤 知可子・眞野 祥子 70		
	在宅看護概論	講義	2		◇	□						2											
	在宅看護援助論	講義	2		◇	□							2									式 恵美子 71	
	在宅看護実習	実習	2		◇	□								6								式 恵美子 72	
	地域看護学概論	講義	2		◇	□						2											
	地域看護活動論	講義	2		◇	□							2										芝田 ゆかり・久井 志保 73
	産業保健論	講義	1		◇	□							1										久井 志保 74
	学校保健概論	講義	1		◇	□	○					1											
	国際看護学	講義	1		◇	□																	1
	災害看護学	講義	1		◇	□																	1
	地域看護学実習	実習	3		◇	□																	9
育 統 合 科 目	VII 群 看護研究Ⅰ（基礎編）	演習	2		◇	□							2										坂上 晶代 75
	看護研究Ⅱ（応用編）	演習	2		◇	□																	2
	リスクマネジメント論	講義		1									1										松野 征美子 76
	看護の統合と実践実習	実習	2		◇	□									6								*1 77
関 連 科 目	IX 群 学校保健活動論	講義		2									2										(加藤 和代) 78
	学校保健演習	演習		2										2									杉原 トヨ子 79
	養護概説	講義		2								2											
	健康相談活動の理論と実践	講義		2																			2
基 礎 科 目	X 群 基礎ゼミ	演習		2																			2

◇は看護師国家試験受験資格必修科目、◆は看護師国家試験受験資格選択科目（10単位以上必要）

□は保健師国家試験受験資格必修科目

○は養護教諭免許必修科目、●は養護教諭免許選択科目

*1 道廣・加藤・式・坂上・川上・芝田・齋藤・若井・小林・秦・山下・池田・眞野・久井・高橋・大植・森崎・竹内・杉原

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		看護師	保健師	養護 教諭 一種	学年配当(数字は週当たり授業時間)								平成23年度の 担当者	ページ							
			必修	選択				1年		2年		3年		4年										
								I	II	I	II	I	II	I	II									
教 職 に 関 す る 科 目	教職概論	講義		2			○	2																
	教育原理	講義		2			○	2																
	教育心理学	講義		2			○		2															
	教育制度論	講義		2			○	2																
	教育課程論（道徳、特別活動を含む）	講義		2			○		2															
	教育方法・技術論	講義		2			○		2															
	生徒指導論（進路指導を含む）	講義		2			○		2															
	教育相談（カウンセリングを含む）	講義		2			○	2																
	総合演習	演習		2			○						2											(廣岡 義之)・(木下 幸文) 80
	養護実習（事前事後指導を含む）	実習		5			○																	5

○は養護教諭免許必修科目、●は養護教諭免許選択科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、指定の科目を修得すること。

《I群（健康支援と社会保障制度）》

科目名	環境衛生学				
担当者名	多田 章夫・久井 志保				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

大気汚染や水質汚濁などの身近な生活環境の汚染問題や我が国において深刻な健康影響をもたらした公害問題などから健康を阻害しない環境のあり方を考える。また、地球規模での環境問題や生態系の中での人の健康についての認識を深める。

《授業の到達目標》

- 1 環境の概念を理解する
- 2 生活環境の汚染問題について説明できる
- 3 地球環境問題を理解する
- 4 環境と健康の関係について考えることができる

《テキスト》

「シンプル衛生・公衆衛生学 2010」 鈴木庄亮・久道茂

《参考文献》

国民衛生の動向：厚生統計協会編（校正統計協会）
各単元毎に必要な応じて紹介する。

《成績評価の方法》

- 1 小試験（50%）とレポート（50%）で評価する
- 2 遅刻は欠席扱いとし、出席率の低いもの（授業欠席回数が授業回数の3分の1以上の場合）は定期試験の受験資格を失う

《授業時間外学習》

- 1 次回の授業範囲を予習し、概要を把握すること
- 2 毎回授業後、ノートを整理し、重要なポイントを理解すること
- 3 健康に関するトピックス・ニュースの情報収集に努めること

《備考》

講義中は、他人の迷惑にならないよう最低限のマナーを守ること。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	環境の概念
第 2 週	環境の把握とその評価
第 3 週	物理的環境要因、化学的環境要因
第 4 週	生物的環境要因
第 5 週	空気・水の衛生と大気汚染
第 6 週	廃棄物、衣食住の衛生
第 7 週	公害と環境問題
第 8 週	環境管理
第 9 週	小テスト
第 10 週	快適職場環境づくり
第 11 週	環境測定の実際
第 12 週	環境問題による健康影響・事例検討
第 13 週	グループワーク
第 14 週	グループワークの発表
第 15 週	グループワークの発表

《IV群（基礎看護学）》

科目名	看護教育学				
担当者名	道廣 睦子				
授業方法	講義	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

看護教育学とは看護学各領域の教育に共通して存在する普遍的な要素を教育学的視座から研究する学問であり、看護学生を含む看護職者個々人の発達を支援し、それを通して人々への質の高い看護の提供を目指すものである。まず、看護教育学とは何かを検討するとともに、看護教育制度の歴史的変遷と現在の看護教育制度の現状と課題について明らかにする。特に看護基礎教育で大きな役割を果たす臨地実習については、教師が何を考え、何を大切に教育しているのかを知り、また、学生自身が臨地実習で直面しやすい問題をどう乗り越え学びに変えていけるかを考える機会とする。また、学生自身のような発達課題をもち、教育実践や研究から生まれた看護教育学の基礎となる概念を学び、看護職として成長することは人として成長することであり、自分自身について考える機会とする。

《授業の到達目標》

1. 看護職者の教育の成り立ちを体系的に把握し、今後の看護教育の方向性を述べることができる。
2. 看護専門教育の教授＝学習過程を具体的に述べるができる。
3. 看護教育における臨地実習の位置づけを説明できる。
4. 看護教育の向上が看護の質保証に関連していることを説明することができるとともに、看護が果たす社会的責任及び社会的貢献について具体的に述べるができる。

《テキスト》

教材は授業で配布する。

《参考文献》

参考文献は授業中に紹介する。

《成績評価の方法》

積極的・創造的な授業参加およびプレゼンテーション (20%)、レポートの提出 (30%)、および筆記試験 (50%) により総合的に行う。

《授業時間外学習》

臨地実習（基礎看護学実習Ⅱ）の体験、特に「学生が臨地実習で直面する問題をどう乗り越え、学びに変えていけるか」について前もってまとめておくこと。（40文字×40行2枚程度）

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	看護教育学とは何か：関連する用語の理解、看護教育、看護学教育、看護教育学の違い、看護教育学における看護研究、エビデンスに基づく看護学教育
第 2 週	専門職としての看護：専門職とは何か、専門職の特質・基準、専門職の特徴から見た日本の看護、スペシャリスト、ジェネラリスト、実践の学問としての看護学
第 3 週	看護教育制度：看護教育制度の歴史的変遷、看護制度の原点とその成立過程、保健師助産師看護師法の成立、保健師助産師看護師法を基盤とした看護教育制度の発展、
第 4 週	看護学教育の基礎：アイデンティティ、クリティカルシンキング、リフレクション、キャリアマネジメント
第 5 週	カリキュラム：カリキュラムとは、カリキュラム開発の意味、カリキュラムデザイン、科目の構成、教授・学習過程の進め方と学習支援
第 6 週	学習理論と学習方法：PBL学習
第 7 週	臨地実習における教育と学習：「学生が臨地実習で直面する問題を同のりきったか」グループ発表
第 8 週	教育評価とまとめ
第 9 週	
第 10 週	
第 11 週	
第 12 週	
第 13 週	
第 14 週	
第 15 週	

《IV群（基礎看護学）》

科目名	看護管理学				
担当者名	小林 廣美				
授業方法	講義	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

看護管理は、看護システムをつくり患者に質の高いサービスを提供するしくみや、他部門との協働、看護を見えるものとして評価されるようにすること等が基礎となっている。保健医療システムの中での看護管理の位置づけ、看護管理関連法規、看護管理の基礎知識、看護管理の実際と看護の責務等について学習する。

《授業の到達目標》

1. 看護管理とは何か、なぜ看護管理を学ぶのか、サービスとしての医療について理解できる。
2. リーダシップとマネージメントについて理解できる。
3. 看護管理と倫理について理解できる。
4. 看護の質の保証について理解できる。
5. 他職種との連携・協働について理解できる。
6. 専門職としての展望についての理解が深まる。

《テキスト》

看護の統合と実践Ⅰ「看護管理」医学書院

《参考文献》

「看護業務基準集」 日本看護協会出版会
 私たちの拠りどころ 保健師助産師看護師法 日本看護協会出版会

《成績評価の方法》

筆記試験 100%

《授業時間外学習》

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	看護管理とは何か
第 2 週	看護を取り巻く諸制度
第 3 週	リーダーシップとマネージメント
第 4 週	ケアのマネージメント①
第 5 週	ケアのマネージメント②
第 6 週	マネージメントに必要な基本的な知識①
第 7 週	マネージメントに必要な基礎的な知識②
第 8 週	専門職としての展望 試験
第 9 週	
第10週	
第11週	
第12週	
第13週	
第14週	
第15週	

《V群（成人・老年看護学）》

科目名	成人看護援助論Ⅰ（生命危機状態にある人）				
担当者名	大植 崇・坂上 晶代				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

この科目では、急性期（生命危機の状態、および周手術期）にある人の心理・社会・身体的反応を理解し、回復に向けての看護実践を学習します。各単元の授業を通して、Evidenceとしての知識・技術の理解、および理論と実践の結びつけを目指します。

《授業の到達目標》

- ①急性期にある患者に看護を提供していくうえで必要な基礎知識の習得ができる。
- ②病気という部分にとらわれず、心理・社会・身体的反応を包括した、全体的（ホリスティック）な状況の理解ができる。
- ③チーム医療の一員を担うため、急性期医療における看護者の役割の理解ができる。

《テキスト》

編集：池松裕子、山勢善江 急性期看護論 ニューベルヒロカワ
 編集：雄西智恵美 秋元典子 周手術期看護論 ニューベルヒロカワ

《参考文献》

適宜紹介します。

《成績評価の方法》

出席(15%)、グループワークと発表(25%)、定期試験(60%)により総合的に評価します。

《授業時間外学習》

関連内容を事前・事後学習すること。
 演習後は、繰り返し練習し、技術を身につける。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーションと急性期看護の基本
第 2 週	侵襲を受ける対象への看護
第 3 週	重症集中治療を受ける患者の看護
第 4 週	手術の身体・心理・社会的要因への影響と看護
第 5 週	術前看護：主な検査と処置・術前オリエンテーション
第 6 週	術中看護：手術室看護・麻酔・患者の体位
第 7 週	感染予防：手洗い・清潔操作・ガウンテクニック(講義と演習)
第 8 週	術後看護：全身状態の観察と看護
第 9 週	術後看護：創部治癒過程とそのケア
第 10 週	急性期にある患者の看護①
第 11 週	急性期にある患者の看護②
第 12 週	急性期にある患者の看護③
第 13 週	救急蘇生法(講義と演習)
第 14 週	看護過程の展開①(グループワーク)
第 15 週	看護過程の展開②(発表と質疑応答)

《V群（成人・老年看護学）》

科目名	成人看護援助論Ⅱ（常態の維持・増進が困難な人）				
担当者名	山下 裕紀・高橋 直美				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

慢性看護の基本的な知識と技術に関する講義を受け、各種機能障害に応じた慢性看護の考え方を理解し、個別の看護計画過程を体験する。

《授業の到達目標》

1. 慢性看護の基本的な知識と技術を習得する。
2. 慢性疾患の原因、症状、経過、治療や対策を理解する。
3. 慢性疾患を有する患者の看護過程を理解する。
4. 慢性疾患ならびに慢性看護について、特徴と専門性を理解する。

《テキスト》

適宜紹介する。

《参考文献》

《成績評価の方法》

単元毎の小レポート 15 点、課題 15 点、レポート 30 点、筆記試験 40 点の配分とする。評価項目については別途提示する。授業回数の 3 分の 1 以上欠席した場合は、再履修となる。課題とレポートをすべて提出することにより、評価の対象となる。

《授業時間外学習》

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	慢性看護とは
第 2 週	慢性疾患の特徴と慢性病を有する人の生活①
第 3 週	慢性疾患の特徴と慢性病を有する人の生活②
第 4 週	慢性疾患の特徴と慢性病を有する人の生活③
第 5 週	慢性疾患の特徴と慢性病を有する人の生活④
第 6 週	慢性病を有する人への看護計画①
第 7 週	慢性病を有する人への看護計画②
第 8 週	慢性病を有する人への看護計画③
第 9 週	慢性病を有する人への看護計画④
第 10 週	慢性病を有する人への看護援助①
第 11 週	慢性病を有する人への看護援助②
第 12 週	慢性病を有する人への看護援助③
第 13 週	終末期患者の看護
第 14 週	慢性看護の専門性と今後の課題
第 15 週	総括

《V群（成人・老年看護学）》

科目名	成人看護学実習 I				
担当者名	高橋 直美・大植 崇・山下 裕紀・坂上 晶代				
授業方法	実習	単位・必選	3・必	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

詳細は成人看護学実習 I 実習要項を参照

《授業の到達目標》

健康生活の突然の破綻や侵襲的な治療を体験する成人の対象者・家族の心理・社会的側面を理解し、その状況や変化に応じて援助ができる基本的な知識・技術・態度を習得する。

《テキスト》

別途

《参考文献》

実習内容、実習進度に応じて別途指示

《成績評価の方法》

成人看護学実習 I 実習要項の評価表（100%）に基づいて評価する。

《授業時間外学習》**《備考》****《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	実習要項(成人看護学実習 I)を参照
第 2 週	
第 3 週	
第 4 週	
第 5 週	
第 6 週	
第 7 週	
第 8 週	
第 9 週	
第 10 週	
第 11 週	
第 12 週	
第 13 週	
第 14 週	
第 15 週	

《V群（成人・老年看護学）》

科目名	成人看護学実習Ⅱ				
担当者名	山下 裕紀・高橋 直美・大植 崇・坂上 晶代				
授業方法	実習	単位・必選	3・必	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

詳細は成人看護学実習Ⅱ実習要項を参照.

《授業の到達目標》

慢性的な健康障害を持つ成人に対する看護を実践するための基本的な知識・技術・態度を習得する.

《テキスト》

別途.

《参考文献》

実習内容・実習進度に応じて別途提示.

《成績評価の方法》

成人看護学実習Ⅱ実習要項の評価表（100％）に基づいて評価する.

《授業時間外学習》**《備考》****《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	成人看護学実習Ⅱ実習要項を参照
第 2 週	
第 3 週	
第 4 週	
第 5 週	
第 6 週	
第 7 週	
第 8 週	
第 9 週	
第 10 週	
第 11 週	
第 12 週	
第 13 週	
第 14 週	
第 15 週	

《V群（成人・老年看護学）》

科目名	老年看護援助論				
担当者名	齋藤 智江				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

老年期特有の健康障害について病態・症状、検査、治療過程における援助方法を理解できる。
 加齢に伴う身体的にも精神的にも起こる様々な老化現象を学び、そのことが生活機能に及ぼす影響について理解できる。
 またそれらに必要な援助方法について考えることができる。

《授業の到達目標》

老年看護の機能と看護技術の特徴を理解し、対象に合った援助方法について考えることができる。
 加齢に伴う変化に対する症状別機能障害に応じた援助について理解でき、一部体験できる。
 高齢者における主要疾患の病態症状、検査、治療、看護のポイントについて理解できる。
 高齢者に対する健康保持、増進のためのプログラムについて理解できる。

《テキスト》

『ナーシンググラフィカ 老年看護の実際』メディカ出版 2010
 『ナーシンググラフィカ 高齢者の健康と障害』メディカ出版 2010
 『看護過程に沿った対症看護』学研 2011

《参考文献》

『系統看護学講座 老年看護学』医学書院
 『看護過程に沿った対象看護』学研
 『看護ケアのための病態関連図』医学芸術社
 『根拠のわかる老年看護技術』メヂカルフレンド社
 『老年看護学 概論と看護の実践』ヌーベルヒロカワ

《成績評価の方法》

演習評価(自己他者評価)・課題提出 20%
 事例による看護過程の展開課題 20%
 筆記試験 60%

《授業時間外学習》

授業内容の予習・復習および演習準備
 事例による看護過程の展開

《備考》

選択課題図書を提示しますのでしっかり講読してください。なおDVD視聴課題は視聴しながら要点をまとめ後で提出してもらいます

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	本講義についてのオリエンテーション 老年看護学概論での内容の想起(老年期の理解・高齢社会の理解・加齢に伴う変化など)
第 2 週	老年看護援助の基本 老年看護の機能と看護技術の特徴・コミュニケーション技術
第 3 週	老年看護援助の基本 高齢者の総合機能評価・生活環境のアセスメントと調整方法 高齢者のケアマネジメント
第 4 週	高齢者における主要症状と看護・フィジカルアセスメント
第 5 週	高齢者における主要疾患の特徴と看護 肺炎・肺気腫・リウマチ・心不全
第 6 週	高齢者における主要疾患の特徴と看護 大腿骨頸部骨折骨折・パーキンソン・脳梗塞
第 7 週	高齢者の日常生活援助技術 水分管理・栄養管理・口腔ケア・排泄ケア
第 8 週	高齢者の日常生活援助技術 皮膚ケア・褥創ケア・移動困難時のケア・身体拘束の規制等
第 9 週	認知症高齢者の看護 認知症患者の理解・認知症高齢者の看護の視点・認知症予防のためのプログラム
第10週	治療に関するマネジメントとケア 外科的療法時のマネジメントとケア・薬物治療時のマネジメントとケア
第11週	嚥下障害のある患者の看護(演習を含む) 嚥下障害の理解と嚥下機能障害患者ケア
第12週	身体可動性の障害を持つ患者の看護 身体可動性障害査定と看護の視点
第13週	コミュニケーション障害のある高齢患者の看護 失語・構音によるコミュニケーション障害・感覚機能障害を伴うコミュニケーション障害
第14週	在宅・施設・病院におけるケア 健康増進プログラム 生活習慣病予防のためのプログラム・転倒予防のためのプログラム 再発防止・退院調整
第15週	老年看護技術(おむつ交換・麻痺のある患者の援助等) 事例展開 終講時試験

《V群（成人・老年看護学）》

科目名	老年看護学実習 I				
担当者名	齋藤 智江				
授業方法	実習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

病院で療養生活を送る老年期にある対象とその家族を総合的に理解し、疾患や機能障害を持つ対象の生活に影響を及ぼす健康上の問題についてアセスメントを行い、対象の生活機能を維持・拡大していくことを支援するために必要な専門知識・技術・態度を習得する。

《授業の到達目標》

詳細は老年看護学実習 I 実習要項参照。

《テキスト》

老年看護学概論・老年看護援助論で用いたテキストに準ずる。

《参考文献》

適宜提示する。

《成績評価の方法》

老年看護学実習 I の評価表（100%）に基づいて評価する。

《授業時間外学習》

老年看護学概論・老年看護援助論での学習内容の復習及び演習計画を立てての技術演習を自主的に行う。
事例による看護過程演習課題を出します。

《備考》

実習前には事前調査（経験事例・希望事項）を提出してもらいます。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	詳細内容や方法等は老年看護学実習要項に参照。
第 2 週	
第 3 週	
第 4 週	
第 5 週	
第 6 週	
第 7 週	
第 8 週	
第 9 週	
第 10 週	
第 11 週	
第 12 週	
第 13 週	
第 14 週	
第 15 週	

《V群（成人・老年看護学）》

科目名	老年看護学実習Ⅱ				
担当者名	齋藤 智江				
授業方法	実習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

介護老人保健施設または特別養護老人ホームで生活する高齢者とその家族の健康及び健康問題を理解し、その人がより健康的な生活を送ることができるような支援について考えることができる。また高齢者を取り巻く家庭・病院・様々な介護サービスの中での継続的な支援体制について理解できる。

《授業の到達目標》

詳細は老年看護学実習Ⅱ実習要項参照。

《テキスト》

老年看護学概論・老年看護援助論で用いたテキストに準ずる。

《参考文献》

適宜提示する。

《成績評価の方法》

老年看護学実習Ⅱの評価表（100％）に基づいて評価する。

《授業時間外学習》

老年看護学概論・老年看護援助論での学習内容の復習をしておくこと。

《備考》

実習前には実習目標及び患者希望を提出してもらいます。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	詳細内容や方法等は老年看護学実習要項に参照。
第 2 週	
第 3 週	
第 4 週	
第 5 週	
第 6 週	
第 7 週	
第 8 週	
第 9 週	
第 10 週	
第 11 週	
第 12 週	
第 13 週	
第 14 週	
第 15 週	

《VI群（母性・小児看護学）》

科目名	母性看護援助論				
担当者名	秦 久美子・若井 和子				
授業方法	講演	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

周産期における母子の健康と看護について学び、対象に適した看護を展開する能力を養います。また、この講義では、演習を取り入れており、周産期における母子に必要な看護の原理・原則を学び、安全に看護を実施するための基礎的技術の習得をねらいとしています。

《授業の到達目標》

1. 妊婦・産婦・褥婦・新生児のヘルスアセスメントができる。
2. 妊婦・産婦・褥婦・新生児および家族を対象とした事例の看護過程を展開することができる。
3. 妊婦・産婦・褥婦・新生児に必要な看護を科学的根拠に基づき、安全に実施することができる。

《テキスト》

「ナーシング・グラフィカ 30 母性看護実践の基本」横尾京子他 メディカ出版
 「ナーシング・グラフィカ 31 母性看護学 母性看護技術」横尾京子他 メディカ出版

《参考文献》

「写真でわかる母性看護技術」平澤美恵子他 インターメディカ
 「新体系看護学 33 妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護」新道幸恵他 メヂカルフレンド

《成績評価の方法》

評価方法は、筆記試験（50%）、技術試験（50%）を合わせた得点とします。

《授業時間外学習》

安全で確実な看護技術を実施するためには、計画的に学内演習を繰り返し行う必要があります。自己の技術到達状況を確認しながら授業時間外演習の計画を立てて学習を進めてください。

《備考》

新生児人形を実際の新生児として大事に取り扱ってください。
 【演習】は白衣で行います。速やかに更衣して講義開始時間を厳守してください。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	妊婦のヘルスアセスメント①
第 2 週	妊婦の看護過程の展開 【事例学習】②
第 3 週	妊婦の看護にかかわる技術 【演習】③ 《妊婦体験、妊婦健康診査（レオポルド触診法、子宮底長計測、腹囲計測、胎児心拍数聴取、浮腫の観察）、起き上
第 4 週	産婦のヘルスアセスメント①
第 5 週	産婦の看護過程の展開 【事例学習】②
第 6 週	産婦の看護にかかわる技術 【演習】③ 《分娩機転、胎児心拍数最良聴取部位の変化、補助動作・呼吸法、外陰部洗浄》
第 7 週	褥婦のヘルスアセスメント①
第 8 週	新生児のヘルスアセスメント②
第 9 週	褥婦および新生児の看護過程の展開 【事例学習】③
第 10 週	褥婦の看護にかかわる技術 【演習】④ 《悪露交換、利尿後消毒法、外陰部の観察、子宮底の観察、乳房の観察、乳房マッサージ、搾乳、授乳方法、哺乳ビ
第 11 週	新生児の看護にかかわる技術 【演習】⑤ 《新生児の観察、沐浴、保育器の取り扱い》
第 12 週	実技試験① 《新生児の観察、沐浴》
第 13 週	実技試験② 《新生児の観察、沐浴》
第 14 週	実技試験③ 《新生児の観察、沐浴》
第 15 週	学習のまとめ

《VI群（母性・小児看護学）》

科目名	母性看護学実習				
担当者名	若井 和子・秦 久美子				
授業方法	実習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

妊娠・分娩・産褥各期にある女性と新生児の特性を理解し、実習を通して対象の健康回復への看護および、より健康な生活に向けて家族を含めた援助を実践するための基礎的能力を養うことを目的としています。

《授業の到達目標》

1. 妊娠・分娩・産褥各期の経過,および新生児の生理的特徴や変化を理解することができる。
2. 妊婦・産婦・褥婦・新生児の健康状態に応じた看護および保健指導を考えることができる。
3. 児と母親を取り巻く育児環境を理解し、家族に対する支援の重要性を学ぶことができる。
4. 周産期の看護を通して倫理上の諸問題について考えることができる。
5. 母児を取り巻く医療チームとしての看護の役割を学ぶ。
6. 看護職者としての基本的態度を身につけることができる。

《テキスト》

母性看護学概論, 母性看護援助論のテキストに準ずる。

《参考文献》

母性看護学概論, 母性看護援助論の参考文献に準ずる。

《成績評価の方法》

母性看護学実習の評価表に基づいて評価を行います。

《授業時間外学習》

産褥期の退行性変化, 進行性変化については, テキストと実際との比較を毎回行ってください。講義で学んだことを実際と結び付けてアセスメントすることが理解を深めることにつながります。

《備考》

1. 病院, 産院, 助産院で実習を行います。実習要綱を熟読してください。
2. 事前学習・演習を十分行ったうえで実習に臨んでください。

《授業計画》

週	授 業 計 画	
第 1 週	妊婦・産婦・褥婦・新生児への看護の実際, 看護過程の展開 (月～金)	【詳細は母性看護学実習要項を参照】
第 2 週	妊婦・産婦・褥婦・新生児への看護の実際, 看護過程の展開 (月～金)	【詳細は母性看護学実習要項を参照】
第 3 週		
第 4 週		
第 5 週		
第 6 週		
第 7 週		
第 8 週		
第 9 週		
第 10 週		
第 11 週		
第 12 週		
第 13 週		
第 14 週		
第 15 週		

《VI群（母性・小児看護学）》

科目名	小児看護学実習				
担当者名	川上 あずさ・池田 友美				
授業方法	実習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

思春期にある子どもの特徴を理解し、事例や文献を用いながら健康問題や課題について考え、援助方法を学びます。

《授業の到達目標》

思春期の子どもの特徴をふまえ、おこりやすい健康問題や課題を解決するための援助について理解する。

《テキスト》

小児看護学1 小児看護学概論 医学書院

《参考文献》

必要時、紹介します。

《成績評価の方法》

定期試験 70%、レポートなどの指示した提出物 30%で評価します。

《授業時間外学習》

子どもの思春期以前の発達段階について理解しておくこと。
事前に配布する資料や文献を読み、内容を理解して授業に臨んでください。

《備考》

実習につながる重要な授業であることを認識して、授業に臨んでください。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	思春期にある子どもの特徴 1
第 2 週	思春期にある子どもの特徴 2
第 3 週	思春期におこりやすい健康問題 1
第 4 週	思春期におこりやすい健康問題 2
第 5 週	思春期のセルフケア困難と看護
第 6 週	キャリアオーバーと成育看護
第 7 週	事例検討 1 事例の理解
第 8 週	事例検討 1 援助方法の検討
第 9 週	事例検討 1 援助方法の検討
第 10 週	事例検討 2 事例の理解
第 11 週	事例検討 2 援助方法の検討
第 12 週	事例検討 2 援助方法の検討
第 13 週	事例検討 3 事例の理解
第 14 週	事例検討 3 援助方法の検討
第 15 週	事例検討 3 援助方法の検討

《Ⅶ群（精神・在宅・地域看護学）》

科目名	精神看護援助論				
担当者名	加藤 知可子・眞野 祥子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

全体の授業計画に示す通りである。

《授業の到達目標》

患者・看護者の関係形成に必要なコミュニケーション技術や自己洞察を養い、精神の健康に障害や問題を持つ人の援助方法について、その理論と具体的援助を学習する。さらに、事例をもとに、精神の健康の危機的状況についてアセスメントし、ニードに沿った看護計画の展開方法を習得する。また、地域における福祉サービスと援助の実際を理解することをめざす。

《テキスト》

『精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 第4版』川野雅資編集（ヌーヴェルヒロカワ）

《参考文献》

- 『精神看護学 学生—患者のストーリーで綴る実習展開』田中美恵子（医歯薬出版株式会社）
- 『オレムのセルフケアモデル 事例を用いた看護過程の展開 第2版』宇佐美しおり（ヌーヴェルヒロカワ）
- 『最新訪問看護研修テキストステップ2 精神障害者の看護』川越博美（日本看護協会出版会）
- 『プロセスレコードを通して学ぶ 臨地実習ケーススタディ』吉田哲（看護の科学社）
- 『自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード』長谷川雅美（日総研出版）
- 『看護実践に活かすプロセスレコード』阪本恵子（ヌーヴェルヒロカワ）
- 『精神障害者の地域支援ネットワークと看護援助』田中美恵子（医歯薬出版株式会社）
- 『看護技術実習ガイド5 精神看護技術 その手順と根拠 第2版』山本勝則（メヂカルフレンド社）
- 『精神障害者のクリニカルケア 症状の特徴とケアプラン』川野雅資（メヂカルフレンド社）

《成績評価の方法》

レポート(16%)、試験(84%)等により総合的に評価する。

《授業時間外学習》

精神看護援助論に関する図書・資料を読み、予習・復習を行う。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	患者—看護師関係
第 2 週	自己への振り返り、プロセスレコード
第 3 週	コミュニケーション技術
第 4 週	精神疾患の理解
第 5 週	精神障害の回復過程
第 6 週	日常生活援助
第 7 週	行動制限と看護
第 8 週	検査を受ける人および薬物療法を受ける人の看護
第 9 週	SSTと心理教育
第10週	看護過程を展開するための理論（セルフケア理論）
第11週	事例展開：看護過程による事例展開
第12週	事例展開：看護過程による事例展開
第13週	家族支援
第14週	患者と患者家族を取り巻く地域精神医療資源
第15週	総括と小テスト

《Ⅶ群（精神・在宅・地域看護学）》

科目名	精神看護学実習				
担当者名	加藤 知可子・眞野 祥子				
授業方法	実習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

病院、作業所等での実習を行う。詳細は精神看護学実習要綱参照のこと。一人の患者を受け持ち、看護過程の展開を行う。またグループでレクリエーションを企画・実施する。

《授業の到達目標》

精神障害者とその家族を理解し、日常生活の自立に向けて、精神障害者の個別性に応じた看護を実践できる基礎的能力を身につけるとともに、心を病む人々を支える看護活動および関連する社会資源について学ぶ。

《テキスト》

精神看護学Ⅰ・Ⅱのテキストに準じる。

《参考文献》

『精神看護学 学生一患者のストーリーで綴る実習展開』田中美恵子（医歯薬出版株式会社）
 『オレムのセルフケアモデル 事例を用いた看護過程の展開 第2版』宇佐美しおり（ヌーヴェルヒロカワ）
 その他、精神看護学Ⅰ・Ⅱおよび他の参考文献に準じる。

《成績評価の方法》

精神看護学実習の評価表（100％）に基づいて評価を行なう。

《授業時間外学習》

精神看護学実習に関する図書・資料を読み、予習・復習を行う。

《備考》

1. 実習要綱・要項をよく読んでおくこと。
2. 事前学習・演習をしっかりと行って実習に臨んでください。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	内容の詳細は実習要綱で提示する
第 2 週	
第 3 週	
第 4 週	
第 5 週	
第 6 週	
第 7 週	
第 8 週	
第 9 週	
第 10 週	
第 11 週	
第 12 週	
第 13 週	
第 14 週	
第 15 週	

《Ⅶ群（精神・在宅・地域看護学）》

科目名	在宅看護援助論				
担当者名	式 恵美子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

在宅療養者の健康特性に応じた援助方法を理解し、療養者と家族を支援するために医療・看護・福祉における多色異種との連携のあり方を学ぶ。

《授業の到達目標》

健康課題や障害における課題が日常生活に及ぼしている状況を理解できる。
在宅療養者に対する看護援助および日常生活の援助の方法を理解できる。
在宅で生活する療養者の事例を検討し、看護過程の展開法を理解できる。

《テキスト》

編集 杉本正子, 真船拓子 (2010) 「在宅看護論」第5版 ニューベルヒロカワ
監修 樋口キエ子, 式恵美子 (2010) 「退院支援から在宅ケアへ」 筒井書房

《参考文献》

渡辺裕子監修 「在宅看護論Ⅰ」概論編
渡辺裕子監修 「在宅看護論Ⅱ」実践編

《成績評価の方法》

定期試験による評価 (90%)
課題レポートの提出状況 (10%)

《授業時間外学習》

在宅看護を受けている人の記録を読む。
介護保険を絵利用している人をインタビューする。
基礎看護技術の復習をする。

《備考》

レポートを書く時は、記載要領を考えて記載してください。
レポートには文献を活用してください。
レポート提出は期限を厳守してください。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	導入： 退院支援から在宅ケアへの移行 訪問看護の開始
第 2 週	在宅療養者の事例検討
第 3 週	在宅療養者の食生活を支援するケア
第 4 週	在宅療養者の排泄を支援するケア
第 5 週	在宅療養者の排泄を支援するケア
第 6 週	在宅療養者の清潔な生活を支援するケア（褥瘡のケアを含む）
第 7 週	在宅療養者の活動機能の低下をを支援するケア
第 8 週	在宅療養者の活動機能の低下をを支援するケア
第 9 週	在宅療養者の呼吸状態を整えるケア
第10週	在宅療養者の呼吸状態を整えるケア
第11週	在宅療養者の感染症の予防とケア
第12週	在宅療養者の終末期を支援するケア
第13週	在宅療養者の終末期を支援するケア
第14週	看護過程の展開方法
第15週	まとめ

《Ⅶ群（精神・在宅・地域看護学）》

科目名	在宅看護実習				
担当者名	式 恵美子				
授業方法	実習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

健康課題または障がいがある地域で生活する療養者とその家族を理解し、その状況や特性に応じた訪問看護および居宅介護支援の実践を学び、在宅ケア全般を支える仕組みや機能と保健・医療・福祉における連携およびチームケア体制について総合的に理解する。

《授業の到達目標》

在宅看護実習要項に記載する

《テキスト》**《参考文献》****《成績評価の方法》****《授業時間外学習》****《備考》****《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	
第 2 週	
第 3 週	
第 4 週	
第 5 週	
第 6 週	
第 7 週	
第 8 週	
第 9 週	
第 10 週	
第 11 週	
第 12 週	
第 13 週	
第 14 週	
第 15 週	

《Ⅶ群（精神・在宅・地域看護学）》

科目名	地域看護活動論				
担当者名	芝田 ゆかり・久井 志保				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

地域で生活する個人、家族、集団全てを対象とし、地域の特性やあらゆる健康状態に応じた健康の保持・増進や疾病発生及び悪化を予防するための基礎的な看護活動の方法と実際を学ぶ。
地域看護における保健師の役割とその責務を学習する。

《授業の到達目標》

地域保健活動の実際を理解できる。

《テキスト》

標準保健師講座1「地域看護学概論」編著／奥山則子他 医学書院
標準保健師講座2「地域看護学技術」編著／中村裕美子他 医学書院
標準保健師講座3「地域看護活動論」編著／松田正己他 医学書院
国民衛生の動向 厚生統計協会

《参考文献》

適宜、講義時に紹介予定

《成績評価の方法》

筆記試験（70%）、出席状況・態度等（15%）、小テスト・レポート等提出物（15%）で総合評価する。

《授業時間外学習》

予習と復習を行い、理解に努めること

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	健康と公衆衛生
第 2 週	保健指導とは
第 3 週	母子保健
第 4 週	成人・高齢者保健
第 5 週	障害者・精神保健
第 6 週	難病対策
第 7 週	健康指標と感染症予防、歯科保健
第 8 週	健康診査・健康相談
第 9 週	家庭訪問
第 10 週	地域看護活動の分野：市町村、都道府県
第 11 週	地域診断（1）
第 12 週	地域診断（2）
第 13 週	健康教育（1）
第 14 週	健康教育（2）
第 15 週	健康教育（3）・まとめ

《Ⅶ群（精神・在宅・地域看護学）》

科目名	産業保健論				
担当者名	久井 志保				
授業方法	講義	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

働く人々の健康について関心を持ち、労働と健康の関係について理解を深める。また、産業保健活動の実際や課題について学ぶことで産業保健師として必要な基本的な知識や技術を身につける。

《授業の到達目標》

1. 産業保健活動の理念、目的、概要、制度について理解できる。
2. 産業保健活動の対象者とその健康課題を理解できる。
3. 産業保健活動における看護の機能を理解できる。

《テキスト》

松田正巳、他著：標準保健師講座 3 対象別地域看護活動、医学書院(地域看護活動論と同じ)

《参考文献》

河野啓子：産業看保健・産業護論、日本看護協会
 厚生統計協会編：国民衛生の動向、厚生統計協会
 河野啓子：すぐに役立つ産業看護アセスメントツール、法研
 和田攻編：産業保健マニュアル、南山堂

《成績評価の方法》

定期試験 50%、課題 40%、授業態度 10% 授業への積極的に参加する態度は加点とし、他者に迷惑をかける態度は減点とする。定期試験受験資格は 2/3 以上出席し、課題レポートを提出していること。

《授業時間外学習》

レポート課題。産業保健師を志望する学生を対象に、別途、企業見学を計画する予定である。

《備考》

授業で指示されたことは守ること。講義の進行状況により、授業計画の変更がありうるが、その場合は事前に掲示する。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	産業保健の目的、産業保健の歴史
第 2 週	産業保健の対象の理解
第 3 週	労働衛生管理（作業管理、作業環境管理、健康管理）
第 4 週	労働衛生教育、統括管理
第 5 週	労働を取り巻く社会環境、メンタルヘルス、過重労働、自殺対策
第 6 週	喫煙対策、産業保健技術演習（健康教育）
第 7 週	女性の健康管理、産業保健技術演習（保健指導）
第 8 週	ワーク・ライフ・バランス、これからの産業保健
第 9 週	
第 10 週	
第 11 週	
第 12 週	
第 13 週	
第 14 週	
第 15 週	

《Ⅳ群（看護の統合と実践）》

科目名	看護研究Ⅰ（基礎編）				
担当者名	坂上 晶代				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

看護者には、研究や実践を通して専門的知識・技術の創造と開発に努め、看護学の発展に寄与する責務があります。すなわち、常に探究的視点を持って看護を思考することが重要になります。看護研究Ⅱを効果的に進めるためにも、具体例を多く準備し、できる限り分かりやすく授業を行います(ただし、レベルは下げない)。みなさんの積極的な参加を期待します。

《授業の到達目標》

1. 看護学の研究とは何か、その目的や看護哲学・理論との関係、看護実践への応用についての基礎知識を学習する。
2. 研究目的の明確化とそのため不可欠な文献検索・文献検討、方法論、倫理的配慮（研究対象者の権利擁護）について学習する。

《テキスト》

指定しない

《参考文献》

授業の進行に応じて適宜指示

《成績評価の方法》

定期試験 70%、単元ごとのミニレポート 30%
 出席日数が全体の 2/3 に満たない場合は単位認定を行いません。
 ミニレポートの提出をもって出席とみなします。

《授業時間外学習》

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	看護研究の意味と意義
第 2 週	研究の構成要素（パラダイムと研究プロセス）
第 3 週	研究のプロセス 1（研究疑問から研究課題へ）
第 4 週	研究のプロセス 2（文献検索）
第 5 週	研究のプロセス 3（文献の整理・文献検討）
第 6 週	研究のプロセス 4（研究目的・目標の設定）
第 7 週	研究のプロセス 5（データ収集方法）
第 8 週	研究のプロセス 6（データ分析方法）
第 9 週	研究における倫理的配慮
第 10 週	研究計画書の作成
第 11 週	研究成果のまとめ方
第 12 週	研究成果の公表
第 13 週	研究論文の読み方
第 14 週	研究のクリティーク
第 15 週	定期試験

《Ⅶ群（看護の統合と実践）》

科目名	リスクマネジメント論				
担当者名	松野 征美子				
授業方法	講義	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

患者が安心して医療を受けるためには、患者と石との信頼関係を基盤とする室の高い安全な医療を提供する必要がある。しかし、近年医療の高度化、専門化が急速に進み、医療内容はますます複雑化、細分化しており医療事故が多発している。

看護業務の特殊性や医療事故の動向を知り、不幸にして医療事故を起こさないために医療安全対策の基本を学ぶ。

《授業の到達目標》

- ・社会情勢の変化と医療事故の動向が理解できる
- ・看護業務の法的根拠と看護職としての責任が理解できる
- ・看護業務を実施するうえで自己の危険性を理解し、事故防止に必要な知識が修得できる

《テキスト》

日本看護協会看護業務基準集 2003年：日本看護協会編

《参考文献》

- ・「ケアの質向上のためのリスクマネジメント」メディカ出版
- ・「医療現場のリスクマネジメント」第一法規
- ・「平成14年度看護白書」日本看護協会出版会
- ・「ヘルスケアリスクマネジメント」医学書院
- ・「ヒヤリ・ハット報告の分析と活用」メヂカルフレンド社

《成績評価の方法》

- ・グループワークへの参加意欲と貢献度 20%
- ・提出課題に対する努力と内容 20%
- ・筆記試験（テキスト持ち込み不可） 60%

《授業時間外学習》

- ・過去の重大な医療事故の概要について文献を調べておく
- ・実習等で体験した「ヒヤリ・ハット」事例についてレポートにまとめる

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	医療事故の概念とリスクマネジメント(講義)
第2週	看護業務と法的責任(講義)
第3週	看護事故防止対策①(講義)
第4週	看護自己防止対策②(講義・グループワーク)
第5週	事故発生時の対応
第6週	事故防止対策(講義・グループワーク)
第7週	事故防止対策
第8週	
第9週	
第10週	
第11週	
第12週	
第13週	
第14週	
第15週	

《Ⅳ群（看護の統合と実践）》

科目名	看護の統合と実践実習				
担当者名	道廣 睦子・加藤 知可子・式 恵美子・坂上 晶代・川上 あずさ・芝田 ゆかり・齋藤 智江・若井 和子・小林 廣美・秦 久美子・山下 裕紀・池田 友美・眞野 祥子・久井 志保 高橋 直美・大植 崇				
授業方法	実習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

保健医療専門職チームの一員としての責任を自覚し、倫理観に基づく総合的かつ継続的な看護実践能力を養う。

《授業の到達目標》

- 1.複数の患者を受け持ち、日々の時間内で必要なケアを提供する実践能力を養うことができる。
- 2.チームの一員としての看護実践をとおして、看護チームにおける役割遂行、フォローシップのあり方について学ぶことができる。
- 3.患者の生活を支えるために、継続的に提供される看護を学ぶことができる。
- 4.患者とその家族に関わる他職種との連携・協働を通して、保健医療専門職チームの統合的ケア提供のあり方と看護職の役割について学ぶことができる。
- 5.看護管理者の職務プロセスをとおして、マネジメント活動や管理者の役割を理解することができる。

《テキスト》

既習科目で使用した全てのテキストと参考書

《参考文献》

《成績評価の方法》

実習評価は、目標達成度 70%、実習態度 10%、最終レポート 20 点とする。

《授業時間外学習》

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	内容の詳細は実習指導要項に提示する。
第 2 週	
第 3 週	
第 4 週	
第 5 週	
第 6 週	
第 7 週	
第 8 週	
第 9 週	
第 10 週	
第 11 週	
第 12 週	
第 13 週	
第 14 週	
第 15 週	

《Ⅸ群（関連）》

科目名	学校保健活動論				
担当者名	加藤 和代				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

学校保健は、子どもたちの命と健康をまもるために必要な活動であり、教育に携わる者に必要な使命です。学校保健Ⅰの学修内容をもとに、学校保健活動の実際についてその理論と方法を学び、児童生徒の健康づくりとともに学生自らの健康行動化への意識を高めることをねらいとしています。

この授業では、学校保健に関する分野を中心に、学校安全や食に関する指導を含めて健康課題に触れながら、演習をとおして学校保健活動に必要な知識や技術を修得するとともに、児童生徒の心と体の健康づくりについて具体的に学びます。

《授業の到達目標》

- 学校保健の領域を構造的にとらえることができる。
- 児童生徒の健康、安全に対する学校と教師の役割や責任について説明ができる。
- 学校保健活動の根拠となっている法律や制度を類別できる。

《テキスト》

「学校保健ハンドブック」（教員養成系大学保健協議会編 ぎょうせい）

《参考文献》

「学校保健の動向平成21年版」（財団法人日本学校保健会）「児童生徒の健康診断マニュアル 改訂版」（財団法人日本学校保健会）

《成績評価の方法》

課題レポート・グループワーク発表（50%）、定期試験（50%）から総合的に評価する。
授業欠席回数が授業実施回数の1/3以上の者は定期試験を受けることができません。

《授業時間外学習》

学校教育や学校保健に関するトピックスを提示するので、「読み取る」「調べる」などして自分の意見をまとめ次回に発表する。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第1週	授業オリエンテーション 学校保健活動の展開
第2週	児童生徒にみられる疾病異常と現代的健康課題
第3週	健康実態把握と学校保健統計
第4週	児童生徒の健康診断（1） 健康診断の実際（計画から事後措置まで）
第5週	児童生徒の健康診断（2） 保健管理としての健康診断、保健教育としての健康診断
第6週	健康観察、健康相談
第7週	感染症・食中毒の予防と対応
第8週	学校環境衛生活動、学校環境衛生検査の実際
第9週	メンタルヘルスの理解とその対応（不登校、虐待、発達障害等）
第10週	保健教育の実際（教科保健と保健指導の特質）
第11週	学校保健組織活動の実際
第12週	学校事故の状況、突然死への対応
第13週	学校における危機管理、安全管理
第14週	学校給食と食育
第15週	学習のまとめ

《IX群（関連）》

科目名	学校保健演習				
担当者名	杉原 トヨ子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

学校保健演習では、既習の看護学や養護に関する専門科目をベースに、学校保健を推進するための技術・能力を習得する。学校保健安全法に定められている学校保健計画はじめ定期健康診断、健康相談、保健指導、事後措置、地域の関係機関との連携について具体的方法等、養護教諭の専門的技術に関わる演習をする。また、学校における救急看護の実践能力、学校環境衛生管理のための照度検査、騒音検査、水質検査および適宜必要な検査を演習する。

《授業の到達目標》

1. 保健管理に必要な技術・能力を習得できる。
2. 保健室経営について計画、実行、評価できる。
3. 学校保健として健康診断の準備から事後指導、健康相談、健康教育、保険教育の実践のためのプロセスの技術・能力が習得できる。
4. 学校環境衛生検査の重要性が理解でき、必要な検査が実践できる。
5. 養護教諭として学校安全、危機管理の重要性が理解できる。
6. 学校教育法に基づく教育者としての視点での養護教諭の職務の特質と役割を総合的理解できる。

《テキスト》

- ・新訂版学校保健実務必携：学校保健，安全実務研究会編書，第一法規。
教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応：文部科学省，日本写真新聞社。

《参考文献》

- ・養護概説：三木とみ子，ぎょうせい。学校保健マニュアル：高石昌弘，出井美智子監，南山堂。学校保健管理・指導システム：若竹V7。トステム開発：学校環境衛生マニュアル 健康診断マニュアル，日本学校保健会。

《成績評価の方法》

- ・課題レポート・発表（20％）試験（60％）授業態度（10％），レポート・演習（10％），

《授業時間外学習》

- ・専門基礎科目・養護関連科目を復習し，養護教諭に必要な技術を実習経験から想起できるようにしておく。
事前学習レポートを作成する。

《備考》

- ・定期試験の受験には総講義の3分の2以上の出席が原則である。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション：学校保健に必要な専門的技術とは
第 2 週	健康診断の準備から計画実践までに必要な知識技術の習得
第 3 週	健康診断実践後の事後措置と事後指導に必要な知識技術の習得
第 4 週	健康診断に必要な技術の共有
第 5 週	学校救急看護 1：学校での必要な救急技術の習得
第 6 週	学校救急看護 2：学校で必要なメンタルサポートのための知識技術の習得
第 7 週	学校救急看護 3：障害を持った子どもを支援するために必要な知識技術の習得
第 8 週	健康教育教材作成（小学校から高校までグループに分かれて演習）
第 9 週	健康教育教材作成（小学校から高校までグループに分かれて演習）
第 10 週	健康教育教材作成（小学校から高校までグループに分かれて演習）
第 11 週	健康教育教材作成（小学校から高校までグループに分かれて演習）
第 12 週	健康教育演習結果発表
第 13 週	健康教育演習結果発表評価
第 14 週	学校環境衛生検査の実践
第 15 週	学校保健演習のまとめ

《教職に関する科目》

科目名	総合演習				
担当者名	廣岡 義之・木下 幸文				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

本講義では、教員として横断的・総合的に学習活動を推進していくための方策について検討し、健康教育の役割とその実践について学習する。学校教育の目標は、児童生徒のもっている個性や能力などを最大限に伸ばすことである。その実現を図るために適切かつ効果的な指導をしていくうえで、児童生徒を的確に理解することが重要である。児童生徒への心のアプローチとしてグループワークを取り入れたり、自己理解を促す体験を取り入れたりするなど、教育現場において必要な児童生徒を理解するためのエクササイズを提示する。複数教員によるオムニバス方式で行い、それぞれの担当時間毎にテーマを持ってすすめる。また、担当者それぞれが内容に即した方法で評価する。

《授業の到達目標》

教育総合演習は、第一に、教育における研究のあり方や態度能力の育成をめざし、第二に、人類や社会全体に関する課題に焦点を当て、第三として、人類の健康をあらゆる角度から考える。担当者がそれぞれの専門の枠を越え、現代的課題を包括的に捉えながら、実践的能力の育成の機会とする。科学的理解と現代的事象の科学的把握、解決法に対する思考力の強化をめざす。人格形成と人間関係や母子関係、教育のシステムと環境、健康課題とライフスタイルなどを題材に、各教員が様々な角度から課題に迫る。

《テキスト》

広岡：武安宥編著、『ペレニタスの教育』

その他プリント等を適宜配布する。

《参考文献》

木下：『学校カウンセリングの考え方・進め方』福島脩美・樺沢徹二著（金子書房）2003

その他、適宜紹介する。

《成績評価の方法》

各教員が、それぞれ試験や受講態度等で評価した成績を総合的に判断する。

《授業時間外学習》

毎時間、授業内容の復習と予習を必要とする。

《備考》

（木下）：演習科目であり、各自の受講態度を重視する。人間に対する関心、身の回りのちょっとした疑問など、しっかりものを観ることを疑似体験したいと考えている。一部講義は、時間割外の時間（主に土曜日）に行う場合もある。

（廣岡）：この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人、あるいは教育問題に強い関心を持つ人達のためにあるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。また特に自ら進んで講義内容に関心を持ち、関連事項を積極的に勉強する姿勢が必要である。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション 授業のすすめ方と評価法について、担当者から説明する。
第 2 週	（木下）：課題解決のプロセスについて
第 3 週	（木下）：人の身体の仕組みや健康について理解する（1）
第 4 週	（木下）：人の身体の仕組みや健康について理解する（2）
第 5 週	（木下）：演習のまとめと評価
第 6 週	（木下）：学校における教育課題 不登校の事例を通じて
第 7 週	（木下）：教育課題の支援体制 スクールカウンセラーの活動をとおして
第 8 週	（木下）：グループワーク 「子どもの心になって」自己理解・他者理解
第 9 週	（木下）：グループワーク 「子どもの心を聴く」傾聴訓練・コンセンサス
第10週	（木下）：フィードバック 実習の振り返りから、レポート作成
第11週	（廣岡）：人間と教育人間とは何か、 個人格の完成、 社会的人格の完成、 自己超越的存在としての人間
第12週	（廣岡）：幼児教育の原理と目的： 「法律」からみた保育原理、 乳幼児教育の原理、 「保育者」養成の原理、 「保育」の目的、 「保育教育」の課題と展望
第13週	（廣岡）：家庭教育： 教育の場所、 家庭の機能と教育、 家庭・家族像の変遷、 家庭教育の目的、 家庭の教育的雰囲気の意味
第14週	（廣岡）：社会教育： 「社会教育」の位置づけ、 「生涯学習社会」における社会教育、 社会教育における方法・形態
第15週	（廣岡）：環境教育： 地球と環境（自然・社会・文化・生命）、 文明と環境、 学校教育における「環境教育」、 今後の「環境教育」における課題と展望

《教職に関する科目》

科目名	養護実習（事前事後指導を含む）				
担当者名	杉原 トヨ子				
授業方法	実習	単位・必選	5・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

- ・養護実習の事前指導では、養護実習の意義を理解するとともに、自己の学習のなかで養護実習の目的・目標を明確にするため、必要な知識・技術を復習し、積極的に実習する態度を養う。そのために、実習校について学校事前訪問など情報収集を行い、実習校の理念や校訓に沿った実習ができるよう準備する。それと共に、教員としての自覚が持てるようにマナーについてもお互いに研鑽する。
- ・事後指導は、実習での体験を通して、再度学校保健における養護教諭の役割を理解する。

《授業の到達目標》

- ・養護実習の意義が理解できる。
- ・養護実習のための学習事前資料を作成できる。
- ・実習校についての情報が収集できる。
- ・教員としてのマナーを習得する。

《テキスト》

- ・講義で使用したテキストを活用する。

《参考文献》

- ・講義で紹介した参考文献を活用する。

《成績評価の方法》

- ・レポート提出（100%）

《授業時間外学習》

- ・事前学習資料，実習報告用資料を作成

《備考》

事前事後指導内容

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	養護実習の意義と目的目標及び内容についての事前学習
第 2 週	養護実習の意義と目的目標及び内容についての事前学習
第 3 週	養護実習の意義と目的目標及び内容についての事前学習
第 4 週	養護実習での保健教育の授業案作成の演習
第 5 週	養護実習での保健教育の授業案作成の演習
第 6 週	養護実習での保健教育の授業案作成の演習
第 7 週	養護実習での保健教育の授業案作成の演習
第 8 週	養護実習での保健教育の授業案作成の演習
第 9 週	養護実習での保健教育の授業案作成の演習
第 10 週	養護実習終了後のまとめ
第 11 週	養護実習終了後のまとめ
第 12 週	養護実習終了後のまとめ
第 13 週	実習報告
第 14 週	実習報告
第 15 週	個人別実習報告レポート作成

平成 20 年度 (2008 年度) 入学者

卒業要件単位数

科目区分		卒業必要単位	内必修単位と科目数	
基礎・教養科目		28 単位	18 単位	9 科目
専門教育科目	専門基礎科目	27 単位	27 単位	15 科目
	専門実践科目	77 単位	77 単位	38 科目
	総合科目	—	—	—
	関連科目	—	—	—
合 計		132 単位	122 単位	62 科目

カリキュラム年次配当表

看護学科 平成20年度（2008年度）入学者対象
 ()は兼任、[]は兼任講師

授業 科目 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		看護師	保健師	養護 教諭 一種	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成23年度の 担当者	ページ	
			必修	選択				1年		2年		3年		4年				
								I	II	I	II	I	II	I	II			
専 門 基 礎 科 目	I群 (人間生活と社会環境)	社会福祉論	講義	1				1										
		家族関係論	講義	2										2			[磯部 香]	86
		保健福祉行政論	講義	1		◇	□					1						
		精神保健	講義	2				○	2									
		公衆衛生学	講義	2		◇	□	○		2								
		保健医療福祉統計	講義	2		◇	□			2								
		情報管理と疫学	講義	2		◇	□			2								
		健康科学	講義	2					2									
		リスクマネジメント論	講義	1									1					
		II群 (人体の仕組みと機能)	基礎生物学	講義	2				2									
		生理学	講義	2		◇	□	○	2									
		解剖学	講義	2		◇	□	○	2									
		生化学	講義	2					2									
		栄養学	講義	2		◇	□	○	2									
		薬理学	講義	2		◇	□	○	2									
		病理学	講義	2		◇	□				2							
		免疫・微生物学	講義	2		◇	□	○	2									
		III群 (疾病の成因と予防・回復)	予防医学概論	講義	2			○	2									
		病態学Ⅰ (内科系)	講義	2		◇	□		2									
	病態学Ⅱ (内科系)	講義	2		◇	□		2										
	病態学Ⅲ (外科系)	講義	1		◇	□			1									
	病態学Ⅳ (周産期・小児科系)	講義	2		◇	□			2									
	リハビリテーション科学	講義	1		◇	□				1								
	トレーニング科学	講義	2							2								
専 門 育 科 目	IV群 (基礎看護)	看護学概論	講義	2		◇	□	○	2									
		基礎看護学Ⅰ	講義	2		◇	□	○	2									
		基礎看護学Ⅱ	講演	2		◇	□	○		4								
		基礎看護学Ⅲ	講演	2		◇	□	○			4							
		看護教育論	講義	1		◇	□						1			道廣 睦子	87	
		看護管理学	講義	1		◇	□						1			齋藤 智江	88	
		基礎看護学実習Ⅰ	実習	1		◇	□	○	3									
		基礎看護学実習Ⅱ	実習	2		◇	□	○			6							
		V群 (発達看護)	母性看護学Ⅰ	講義	2		◇	□			2							
		母性看護学Ⅱ	講義	2		◇	□				2							
	母性看護学実習	実習	2		◇	□						6						
	周産期看護学	講義	2		◇	□					2							
	小児看護学Ⅰ	講義	2		◇	□				2								
	小児看護学Ⅱ	講義	2		◇	□				2								
	小児看護学実習	実習	2		◇	□						6						
	思春期看護学	講義	2		◇	□	○				2							
専 門 育 科 目 成 人 看 護	VI群 (成人看護)	成人看護学Ⅰ	講義	2		◇	□		2									
		成人看護学Ⅱ	講義	2		◇	□			2								
		成人看護学Ⅲ	講義	2		◇	□			2								
		成人看護学実習Ⅰ	実習	4		◇	□					12						
		成人看護学実習Ⅱ	実習	4		◇	□					12						
		老年看護学Ⅰ	講義	2		◇	□			2								
		老年看護学Ⅱ	講義	2		◇	□				2							
		老年看護学実習Ⅰ	実習	1		◇	□						3					
		老年看護学実習Ⅱ	実習	3		◇	□						9					

カリキュラム年次配当表

看護学科 平成20年度（2008年度）入学者対象
 （ ）は兼担、[]は兼任講師

授 業 区 分	授 業 科 目 の 区 分	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		看 護 師	保 健 師	養 護 教 諭 一 種	学 年 配 当 (数字は週当たり授業時間)								平 成 23 年 度 の 担 当 者	ペ ー ジ		
				必 修	選 択				1年		2年		3年		4年					
									I	II	I	II	I	II	I	II				
専 門 実 践 教 育 目 録	VII 群 （ 地 域 看 護 ）	精神看護学Ⅰ	講義	2		◇	□				2									
		精神看護学Ⅱ	講義	2		◇	□					2								
		精神看護学実習	実習	2		◇	□								6					
		地域看護学Ⅰ（概論）	講義	2			□				2									
		地域看護学Ⅱ（地域活動論）	講義	4			□					4								
		地域看護学Ⅲ（産業保健・学校保健）	講義	2			□						2							
		地域看護学Ⅳ（行政看護）	講義	1			□						1							
		地域看護学Ⅴ（国際看護）	講義	1			□						1							
		地域看護学Ⅵ（災害看護）	講義	1			□						1							
		地域看護学実習	実習	3			□								9			芝田 ゆかり・久井 志保	89	
		在宅看護論Ⅰ	講義	2		◇	□						2							
		在宅看護論Ⅱ	講義	2		◇	□						2							
		在宅看護実習	実習	2		◇	□								6			式 恵美子	90	
		VIII 群 （ 総 合 科 目	看護研究Ⅰ	演習		2										2			坂上 晶代	91
			看護研究Ⅱ	演習		2										2			*1	92
IX 群 （ 関 連 科 目	学校保健	講義		2				○						2						
	学校保健演習	演習		2				○						2						
	養護概説	講義		2				○						2						
	健康相談活動の理論と実践	講義		2				○						2			(大平 曜子)	93		

◇は看護師国家試験受験資格必修科目、◆は看護師国家試験受験資格選択科目（10単位以上必要）

□は保健師国家試験受験資格必修科目

○は養護教諭免許必修科目、●は養護教諭免許選択科目

*1 道廣・加藤・式・坂上・川上・芝田・齋藤・若井・小林・山下・池田・眞野・秦・久井・高橋・大植・竹内・森崎・杉原

授 業 区 分	授 業 科 目 の 区 分	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		看 護 師	保 健 師	養 護 教 諭 一 種	学 年 配 当 (数字は週当たり授業時間)								平 成 23 年 度 の 担 当 者	ペ ー ジ
				必 修	選 択				1年		2年		3年		4年			
									I	II	I	II	I	II	I	II		
教 職 に 関 す る 科 目	教職概論	講義		2				○	2									
	教育原理	講義		2				○	2									
	教育史	講義		2				●					2					
	教育心理学	講義		2				○			2							
	教育制度論	講義		2				○		2								
	教育課程論（道徳、特別活動を含む）	講義		2				○			2							
	道徳教育論	講義		2				○			2							
	教育方法・技術論	講義		2				○			2							
	教育方法論	講義		2				○					2					
	生徒指導論（進路指導を含む）	講義		2				○			2							
	教育相談（カウンセリングを含む）	講義		2				○		2								
	総合演習	演習		2				○					2					
	養護実習（事前事後指導を含む）	実習		5				○						5			杉原 トヨ子	94, 95

○は養護教諭免許必修科目、●は養護教諭免許選択科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、指定の科目を修得すること。

《I群（人間生活と社会環境）》

科目名	家族関係論				
担当者名	磯部 香				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	4年・I期

《授業のねらい及び概要》

私たちの身近な存在で、かつ説明しにくい「家族」を理論・体系的に理解すること、つまり「家族とは一体何なのか？」を共に考えることが、この授業のねらいです。まずは、私たちが知り体感している「家族」が一体どのようなものなのかを、統計、理論、歴史や世界の家族を学ぶことで、再確認します。そしてアンテナを張り巡らし、情報を収集し、自分の中にある「家族」の常識を疑うことによって、画一ではなく重層的な存在として「家族」を捉え直すことをめざします。

《授業の到達目標》

- 「家族」を、家族社会学の基礎概念を使用して説明することができる。
- 「家族」の歴史を知ること、「家族」が自然発生的な集団でないことを理解することができる。
- 「家族」の実情や抱えている問題を知ることによって、「家族」の多様性を理解することができる。
- 以上より、「家族」のこれからの動向を予測し、考えることができる。

《テキスト》

- ・特定のテキストは使用しません。適宜プリントを配布します。

《参考文献》

- 『21世紀家族へー家族の戦後体制の見かた・超えかた（有斐閣選書）』落合恵美子、有斐閣、2004
- 『21世紀アジア家族』落合恵美子、上野加代子（編）、明石書店、2006
- 『ライフコースとジェンダーで読む家族（有斐閣コンパクト）』岩上真珠、有斐閣、2007
- 『論点ハンドブック 家族社会学』野々山久也、世界思想社、2009

《成績評価の方法》

- ・ミニ・ディスカッション等の授業参加度：20%（参加意欲および協力度と作業シートによって評価する）
- ・ミニレポート・感想文の課題提出：20%（提出遅れについては減点の対象とします）
- ・定期試験：60%（試験は資料やノート等は「持ち込み不可」とします）

《授業時間外学習》

- ・ミニ・ディスカッション及び、ミニレポートの提出を求めることがありますので、日頃から家族に関する新聞記事やニュースに関心を持ち、目を配るようにしてください。
- ・配布資料には必ず目を通し、分からない箇所に関しては、質問したり調べたりしてください。
- ・VTR 視聴後などに感想文を書いてもらいますので、次週までに提出してください。

《備考》

- ・遅刻や私語は慎むように努めてください。
- ・分からない箇所に関しては、授業中・授業後に質問を受け付けます。

《授業計画》

週	授 業 計 画	
第 1 週	ガイダンス 授業の進め方の説明	
第 2 週	家族とは何か（1）家族の実態と、家族社会学の基本概念	
第 3 週	家族とは何か（2）家族社会学の基本概論	
第 4 週	家族の歴史 戦前（1） 良妻賢母と家庭と「家」	《VTR 視聴》
第 5 週	家族の歴史 戦前戦後（2） 近代家族と国家	
第 6 週	恋愛結婚と家族 配偶者選択	
第 7 週	ジェンダーと家族 性別役割分業と子ども	
第 8 週	多様な家族（1）ひとり親家族、里親、事実婚、国際結婚	《VTR 視聴》
第 9 週	多様な家族（2）離婚、再婚とステップファミリー	《VTR 視聴》
第 10 週	多様な家族（3）世界の家族①：アジアの家族	
第 11 週	多様な家族（4）世界の家族②：欧米の家族	
第 12 週	家族をめぐる問題 DV、虐待、無縁社会	
第 13 週	ケアをめぐる家族（1）：少子高齢化社会との関係	
第 14 週	ケアをめぐる家族（2）：ケアのグローバル化	
第 15 週	まとめ 家族の未来、家族を超えて	《ディスカッション》

《IV群（基礎看護）》

科目名	看護教育論				
担当者名	道廣 睦子				
授業方法	講義	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	4年・I期

《授業のねらい及び概要》

看護教育論とは看護学各領域の教育に共通して存在する普遍的な要素を教育学の視座から研究する学問であり、看護学生を含む看護職者個々人の発達を支援し、それを通して人々への質の高い看護の提供を目指すものである。まず看護教育論とは何かを検討するとともに看護教育制度の歴史の変遷と現在の看護教育制度の現状と課題について明らかにする。特に看護基礎教育で大きな役割を果たす臨地実習については、教師が何を考え、何を大切に教育しているのかを知り、又、学生自身が臨地実習で直面しやすい問題をどう乗り越え学びに変えていけるかを考える機会とする。又、学生自身がどのような発達課題を持ち、教育実践や研究から生まれた看護教育論の基盤となる概念を学び、看護職として成長することは人として成長することであり自分自身について考える機会とする。

《授業の到達目標》

- ・看護職者の教育の成り立ちを体系的に把握し、今後の看護教育の方向性を述べることができる。
- ・看護専門教育の教授＝学習過程を具体的に述べるができる。
- ・看護教育における臨地実習の位置づけを説明できる。
- ・看護教育の向上が看護の質保証に関連していることを説明することができると共に、看護が果たす社会的責任及び社会的貢献について具体的に述べるができる。

《テキスト》

- ・教材は授業で配布する。

《参考文献》

- ・参考文献は授業中に紹介する。

《成績評価の方法》

積極的・創造的な授業参加およびプレゼンテーション（20%）、学術的レポートの提出（30%）、および筆記試験（50%）によって総合的に行う。

《授業時間外学習》

臨地実習の体験、特に「学生が臨地実習で直面する問題をどう乗り越え、学びに変えていけるか」について前もってまとめておくこと（40文字×40行、2枚程度）。

《備考》

本科目は4年次の前期に開講するため、「看護教育」そのものへの関心が深いと考える。各自の教育体験・実習体験をフィードバックしながら、参加して下さい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	看護教育学とは何か：関連する用語の理解、看護教育、看護学教育、看護教育学の違い、看護教育学における教育・研究、エビデンスに基づく看護学教育
第2週	専門職としての看護：専門職とは何か、専門職の特質・基準、専門職の特徴から見た日本の看護、スペシャリスト・ジェネラリスト、実践の学問としての看護学
第3週	看護教育制度：看護教育制度の歴史の変遷、看護制度の原点とその成立過程、保健婦助産婦看護師法の成立、保助看護法を基盤とした看護教育制度の発展、今日の課題とこれからの看護教育制度、看護教育制度の現状
第4週	看護学教育の基礎：アイデンティティ、クリティカルシンキング、リフレクション、キャリアマネジメントについてグループワークしレポートを作成し提出
第5週	カリキュラム：カリキュラムとは、カリキュラム開発の意味、カリキュラムデザイン、科目の構成。科目間の関連づけ、教授・学習過程の進め方と学習の支援、カリキュラム評価
第6週	学習理論と学習方法：学びの本質、学習理論、学習方法：主体的関わり、共同学習、PBL学習
第7週	臨地実習における教育と学習：教育的ケアリングモデル・経験型実習教育、看護教育の新しいパラダイムとしての教育的ケアリングモデル、経験型実習教育とは、経験型実習教育の基盤となる理論、経験型実習教育の実践、学生の臨地実習を通しての学びについてグループワーク：「学生が臨地実習で直面する問題をどう乗り越え、学びに変えていけるか」各自でまとめ提出
第8週	教育評価とまとめ
第9週	
第10週	
第11週	
第12週	
第13週	
第14週	
第15週	

《IV群（基礎看護）》

科目名	看護管理学				
担当者名	齋藤 智江				
授業方法	講義	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	4年・I期

《授業のねらい及び概要》

看護における看護管理の意味を理解するとともに、看護専門職を目指す者として自己を見つめることができ、且つ看護専門職としての能力開発の必要性を学ぶことができる。そのためにまず、「看護におけるマネジメント」「看護の中でのリーダーシップのあり方」などマネジメントの概要、主要概念について理解を深めていきたいと考える。

《授業の到達目標》

対象により質の高い看護を提供するための「マネジメント」について理解し、自己の傾向を知り、看護職の能力開発の必要性について学ぶことができる。

《テキスト》

・系統看護学講座 看護の統合と実践 [1] 看護管理 医学書院

《参考文献》

- ・「看護白書」平成21年度版 日本看護協会出版会
- ・「看護業務指針」 日本看護協会出版会
- ・「看護管理ハンドブック」メジカルフレンド社
- ・「継続教育」 日本看護協会出版会
- ・看護管理者の教科書 日総研

《成績評価の方法》

- ・筆記試験 80%
- ・レポート点 20%

《授業時間外学習》

本科目は4年次の前期に開講しますが、これまで培ってきた組織論（グループワーク等での役割理論）を基盤に考えてください。そのうえで看護管理（マネージメント）に必要な考え方、組織という考え方等について講義をします。

授業の中でテーマを示し、レポートを書いてもらいますので、自己の在り方、自己の看護観や進もうとするところを見据えて、授業に参加してください。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	看護におけるマネジメントの概要 1. 看護管理とは、看護管理の意義 2. 組織とマネジメント 3. リーダーシップ、メンバーシップ 4. 看護におけるマネジメントの考え方
第 2 週	看護ケアのマネジメント 1. ケアのマネジメントと看護職の機能 2. ケアの提供システム 3. 他職種との協働
第 3 週	看護サービスのマネジメント 1. 組織的目的達成とマネジメント 2. 人的資源のマネジメント 3. 物的資源のマネジメント 4. 情報・技術のマネジメント
第 4 週	看護サービスのマネジメント 1. 組織的目的達成とマネジメント 2. 人的資源のマネジメント 3. 物的資源のマネジメント 4. 情報・技術のマネジメント
第 5 週	看護をとりまく諸制度 1. 看護職と専門職性・法制度 2. 看護職の法的責任 3. 看護業務、看護職の職業倫理 4. 看護職の教育制度 5. 医療制度(看護ケアの対価)
第 6 週	マネジメントに必要な知識・技術 1. 組織の原則 2. 看護管理にかかわる理論 3. 組織調整と組織と個人の考え方
第 7 週	看護管理関連資料と用語
第 8 週	看護の専門性・看護専門職者としての能力開発 ・ 試験
第 9 週	
第 10 週	
第 11 週	
第 12 週	
第 13 週	
第 14 週	
第 15 週	

《Ⅶ群（地域看護）》

科目名	地域看護学実習				
担当者名	芝田 ゆかり・久井 志保				
授業方法	実習	単位・必選	3・必	開講年次・開講期	4年・I期

《授業のねらい及び概要》

地域保健活動の実際を理解し、地域における保健師の活動と保健・医療・福祉との協働活動、及び地域住民に対する健康支援の在り方について、実践を通して理解する。

さらに人々の関わりを通して人間として成長し、将来の地域看護活動の基盤とする。

地域で生活している人々（個人・家族・集団）の健康の保持増進やQOL（生活の質）向上のための地域看護活動の実際を学ぶ。また、地域における保健師の役割と活動について学ぶ。

《授業の到達目標》

- 地域看護活動の展開を理解できる。
 - 地域の特性および住民の健康状態、ヘルスニーズを知る。
 - 地域保健活動の組織づくりや体制を知る。
- 地域における保健師の役割と活動について理解できる。
 - 地域看護を展開するために必要な家庭訪問、健康教育、健康相談、組織化活動などの援助技術を指導者の下に実践できる。
- 保健・医療・福祉との協働活動について理解できる。
 - 地域の保健医療福祉のネットワークとケアシステムを理解し、各々の立場の役割および連携の実際について説明することができる。
- 地域住民に対する健康支援の在り方を理解できる。
 - 地域で生活している人々が、主体的に健康を保持増進するための援助を知る。
 - 健康上の問題を持つ個人や家族の生活を把握し、セルフケア能力を高める援助ができる。
- 実習を通して、人間の尊重や倫理的配慮の方法を学び、自己成長を図ることができる。

《テキスト》

標準保健師講座1「地域看護学概論」編著／奥山則子他 医学書院

標準保健師講座 別巻1「保健医療福祉行政論」編著／藤内修二他 医学書院

三訂地域看護学 編著／津村智恵子他 中央法規

国民衛生の動向 厚生統計協会

《参考文献》

標準保健師講座2「地域看護学技術」編著／中村裕美子他 医学書院

標準保健師講座3「対象別地域看護活動」編著／中谷芳美他 医学書院

その他適宜、紹介予定

《成績評価の方法》

- 出席状況、提出物、実習記録、実習態度を、評価票を参考に総合的に評価する。
- 実習終了後、担当教員と個人面接を行う。

《授業時間外学習》

実習地域の地区診断及び地区踏査の事前準備をしておくこと。

《備考》

事前準備（地区診断等）、既修の科目の復習を十分しておくこと。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	別冊、地域看護学実習要項参照 詳しくはオリエンテーション時に説明予定
第2週	
第3週	
第4週	
第5週	
第6週	
第7週	
第8週	
第9週	
第10週	
第11週	
第12週	
第13週	
第14週	
第15週	

《Ⅶ群（地域看護）》

科目名	在宅看護実習				
担当者名	式 恵美子				
授業方法	実習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	4年・I期

《授業のねらい及び概要》

健康課題または障がいがある地域で生活する療養者とその家族を理解し、その状況や特性に応じた訪問看護および居宅介護支援の実践を学び、在宅ケア全般を支える仕組みや機能と保健・医療・福祉における連携およびチームケア体制について総合的に理解する。

《授業の到達目標》

在宅看護実習要項に記載する。

《テキスト》**《参考文献》****《成績評価の方法》****《授業時間外学習》****《備考》****《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	
第 2 週	
第 3 週	
第 4 週	
第 5 週	
第 6 週	
第 7 週	
第 8 週	
第 9 週	
第 10 週	
第 11 週	
第 12 週	
第 13 週	
第 14 週	
第 15 週	

《Ⅶ群》

科目名	看護研究Ⅰ				
担当者名	坂上 晶代				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

看護者には、研究や実践を通して専門的知識・技術の創造と開発に努め、看護学の発展に寄与する責務があります。すなわち、常に探究的視点を持って看護を思考することが重要になります。看護研究Ⅱを効果的に進めるためにも、具体例を多く準備し、できる限り分かりやすく授業を行います(ただし、レベルは下げない)。みなさんの積極的な参加を期待します。

《授業の到達目標》

1. 看護学の研究とは何か、その目的や看護哲学・理論との関係、看護実践への応用についての基礎知識を学習できる。
2. 研究目的の明確化とそのために不可欠な文献検索・文献検討、方法論、倫理的配慮(研究対象者の権利擁護)について学習できる。

《テキスト》

指定しない

《参考文献》

授業の進行に応じて適宜指示

《成績評価の方法》

定期試験 70%、単元ごとのミニレポート 30%
出席日数が全体の 2/3 に満たない場合は単位認定を行いません。
ミニレポートの提出をもって出席とみなします。

《授業時間外学習》**《備考》****《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	看護研究の意味と意義
第 2 週	研究の構成要素 (パラダイムと研究プロセス)
第 3 週	研究のプロセス 1 (研究疑問から研究課題へ)
第 4 週	研究のプロセス 2 (文献検索)
第 5 週	研究のプロセス 3 (文献の整理・文献検討)
第 6 週	研究のプロセス 4 (研究目的・目標の設定)
第 7 週	研究のプロセス 5 (データ収集方法)
第 8 週	研究のプロセス 6 (データ分析方法)
第 9 週	研究における倫理的配慮
第 10 週	研究計画書の作成
第 11 週	研究成果のまとめ方
第 12 週	研究成果の公表
第 13 週	研究論文の読み方
第 14 週	研究のクリティーク
第 15 週	総括およびテスト

《Ⅳ群》

科目名	看護研究Ⅱ				
担当者名	道廣 睦子・加藤 知可子・式 恵美子・坂上 晶代・川上 あずさ・芝田 ゆかり・齋藤 智江・若井 和子・小林 廣美・山下 裕紀・池田 友美・眞野 祥子・秦 久美子・久井 志保・高橋 直美・大植 崇・竹内 美樹・森崎 由佳				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

看護の学習を通じて、看護の現象・事象における疑問や未解決・未解明部分に対して研究課題を設定し、担当教員の指導を受けながら研究（実験研究・調査研究・質的研究）を行う。看護研究Ⅰに続いて、課題解決学習の集大成として、1年間かけて研究を行い、科学的な思考や論理的表現方法を学ぶ。その過程を通して、倫理的配慮の重要性、研究フィールドを得るための方法を学びつつ、看護観を育み豊かな人間性を培う。その結果をまとめて論文を作成し発表する。

《授業の到達目標》

1. 看護における研究の意義・必要性が理解できる
2. 看護研究を通して、論理的・科学的思考を修得することができる。
3. 看護研究を通して、看護上の問題解決能力を養うとともに、看護実践の根拠を考えることができる。
4. 看護研究における倫理的配慮の重要性を修得することができる。
5. 看護研究を論文としてまとめ発表することができる。

《テキスト》

看護研究Ⅰで使用した書籍及び資料、ノートなど。
その他、適宜指示する。

《参考文献》

南裕子編集：看護における研究、日本看護協会出版会、2008
近藤潤子監修：看護研究、医学書院
黒田裕子：看護研究、step by step 学研

《成績評価の方法》

論文は評価基準に基づいて内容を評価する。その他、研究や論文作成への積極的な取り組み等を総合的に評価する。

《授業時間外学習》

看護研究Ⅱに関する図書・資料を読み、予習・復習を行うこと。

《備考》

学生の主体性（問題意識、関心、やる気、持ち味）を尊重するので、研究のプロセスを丁寧に学習すること。看護研究は看護実践の身近な、学生個人に興味のある課題に取り組めるように工夫されている。学生は自ら選択した研究課題に積極的に取り組む態度が期待される。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	4年次における研究授業のオリエンテーション
第 2 週	研究①
第 3 週	研究②
第 4 週	研究③
第 5 週	研究④
第 6 週	研究⑤
第 7 週	研究⑥
第 8 週	研究⑦
第 9 週	研究⑧
第 10 週	研究⑨
第 11 週	研究⑩
第 12 週	研究⑪
第 13 週	研究⑫
第 14 週	研究⑬
第 15 週	研究発表

《IX群》

科目名	健康相談活動の理論と実践				
担当者名	大平 曜子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	4年・I期

《授業のねらい及び概要》

学校教育における健康相談活動の果たす役割は大きく、その概念や特質を理解したうえで、子どものヘルスニーズに対処することが肝要です。受講者はこの授業を通じて、保健室の特質、養護教諭の職務の特質、その中で行う健康相談活動の基礎的概念を確認し、その方法を体験的に習得していくことができます。授業では、心の健康問題と身体症状や生活の変化の関わりを理解し、子どもを観る目を養い、判断力を養います。また、養護教諭の専門にどのように位置づけられるのか 相談の目標の方法、問題の捉え方、記録とプライバシーの保護、守秘義務と教育的配慮など、基本的事項をおさえつつ実践力をつけていきます。

《授業の到達目標》

- 健康相談活動の概念や役割について説明できる。
- 健康相談活動の基礎的理論を理解し、また、説明ができる。
- 子どものヘルスニーズがわかり、健康相談活動の進め方がわかる。
- 健康相談活動の実際を体験的に理解する。ロールプレイングができる

《テキスト》

適宜プリントを配布する。

《参考文献》

適宜紹介する。

《成績評価の方法》

レポート課題（40%）、定期試験（60%）とし、100点満点で60点以上を合格とする。
授業実施回数の3分の1以上欠席した者は最終試験の受験資格はない。

《授業時間外学習》

関係図書にはできるだけ目を通す。

課題レポート作成時には、文献あたり、科学的な報告になるよう、レポートの書き方を学んでおく。

授業で配布したプリントにはマーカーでしるしを入れるなど、理解を助けるよう工夫し、復習をおこなう。

《備考》

養護教諭をめざす者は、目的意識を持ち、主体的に授業に臨んで欲しい。演習形態の授業も加えながらすすめるが、主体的に参加されることが望まれる。また、多くがグループでの演習形態をとる予定であり、だれもが率先してリードできる力を培ってほしい。演習には必ずレポート課題の提出を求める。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	オリエンテーション（授業の進め方）健康相談活動の基本的概念（定義、目的、意義）
第2週	養護教諭の職務と健康相談活動の関係
第3週	子どもの健康問題の現代的背景と状況
第4週	健康相談活動に関連する諸理論
第5週	健康相談活動のための基礎理論
第6週	健康相談活動のカウンセリングの技法
第7週	保健室における健康相談活動の実践（1） ロールプレイング・・・インテーク、アセスメント
第8週	保健室の機能と施設設備、 保健室対応について
第9週	保健室における健康相談活動の実践（2） アセスメント、健康相談 ロールプレイング・・・アセスメント、健康相談
第10週	心の健康問題に応じた対応の仕方
第11週	健康相談活動の記録と報告 連携の仕方
第12週	保健室における健康相談活動の実践（3） ロールプレイング・・・面談の記録
第13週	健康相談活動の評価と改善
第14週	実践研究の意義
第15週	学習のまとめ

《教職に関する科目》

科目名	養護実習（事前事後指導を含む）				
担当者名	杉原 トヨ子				
授業方法	実習	単位・必選	5・選	開講年次・開講期	4年・通年

《授業のねらい及び概要》

養護実習は、小・中・高のいずれかの学校において、養護教諭の指導のもとに、実際に学校での児童・生徒の健康管理や保健指導を行い、養護教諭としての実践力を養うことを目的とする。具体的には、児童・生徒の理解を深めるとともに、保健室の実習を中心として、学級運営や学習指導の観察・参加、保健指導なども体験する。このことを通して、大学で学んだ知識や技術を実践と統合させ、応用できる能力を養い、養護教諭としての自覚を高める。

《授業の到達目標》

1. 実習校の特徴と児童・生徒の学校生活の実際を説明することができる。
2. 自動・生徒へ保健教育を実施することができる。
3. 児童・生徒に対する健康管理を理解し、養護教諭の活動を実施することができる。
4. 保健室の機能及び運営方法、および運営に参加することができる。
5. 学校保健活動と地域社会資源との連携の在り方を説明することができる

《テキスト》

- ・ 講義で使ったテキスト

《参考文献》

- ・ 講義で使ったテキストおよび各自の参考書

《成績評価の方法》

- ・ 事前・事後指導（30%）および養護実習における態度・記録・提出物で評価する（70%）。

《授業時間外学習》

- ・ 事前学習資料作成および保健便り作成

《備考》

- ・ 養護実習 4 週間の内訳（一般校：3 週間，特別支援学校：1 週間）

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	事前指導：養護実習の意義と目標，養護実習の内容と方法（一般学校，特別支援学校のガイダンス）
第 2 週	養護実習の準備（知識・技術の復習）健康教育の準備および保健だより作成
第 3 週	健康教育および保健だより作成
第 4 週	健康教育および保健だより作成
第 5 週	養護実習
第 6 週	養護実習
第 7 週	養護実習
第 8 週	養護実習（特別支援学校）
第 9 週	養護実習のまとめ
第 10 週	実習報告の準備
第 11 週	実習報告（一般校）
第 12 週	実習報告（特別支援学校）
第 13 週	
第 14 週	
第 15 週	

《教職に関する科目》

科目名	養護実習（事前事後指導を含む）				
担当者名	杉原 トヨ子				
授業方法	実習	単位・必選	5・選	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期分

《授業のねらい及び概要》

別紙参照（前頁にて通年で作成有り）

《授業の到達目標》**《テキスト》****《参考文献》****《成績評価の方法》****《授業時間外学習》****《備考》****《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	
第 2 週	
第 3 週	
第 4 週	
第 5 週	
第 6 週	
第 7 週	
第 8 週	
第 9 週	
第 10 週	
第 11 週	
第 12 週	
第 13 週	
第 14 週	
第 15 週	